ISSN 0918－9106

徳島県立博物館年報

第 20 号（平成 22 年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum

No. 20 (for the fiscal year of 2010)

目　　次

徳島県立博物館の使命……2

Ⅰ　展　示
1．常設展……3
2．企画展……5
3．特別陳列……10
4．企画展示室の会場提供……15
5．館外での展示……15
6．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み……16
7．展示関係出版物……17

Ⅱ　普及教育
1．普及行事……18
2．学校教育支援事業……22
3．博物館友の会……24
4．県民参画活動の推進……25
5．普及教育関係出版物……27
6．徳島新聞「こども新聞」への協力……27

Ⅲ　情報の発信と公開
1．博物館の広報活動……28
2．テレビ・ラジオへの出演等……28
3．インターネットによる情報提供……29
4．外部ネットワークとの連携……29
5．情報システムの概要……30

Ⅳ　シンクタンクとしての社会貢献
1．レファレンス業務……31
2．各種委員会委員等の受諾……31
3．講師の派遣……32
4．大学教育への寄与……33
5．学会・研究会等の運営への寄与……34
6．博物館ネットワーク……35

Ⅴ　調査研究
1．課題調査……37
2．分野別（個別）調査研究……39
3．科学研究費補助金等による研究……41
4．他機関との共同研究……41
5．研究成果の公表……42

Ⅵ　資料の収集・保存と活用
1．採集資料……48
2．購入資料……48
3．寄贈資料……48
4．寄託資料……50
5．資料の貸し出し……50
6．写真・映像の提供……50
7．資料の提供……51
8．資料の交換……51
9．館蔵資料数……51
10．資料収集委員会……52
11．文献資料の収集……52
12．資料の保存……52

Ⅶ　管理運営・マネージメント
1．組織・職員……54
2．予算……54
3．博物館協議会……55
4．視察等博物館関係来訪者……55

Ⅷ　中期活動目標と自己点検・評価
1．中期活動目標……56
2．22年度実績と自己点検・評価……62

Ⅸ　観覧者統計……74

Ⅹ　施設の概要
1．沿革……77
2．施設の概要……77
3．博物館各室面積……79

Ⅺ　例　規……81

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱
ー県民とともに成長する博物館ー

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史・文化についての資料・情報に
もとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

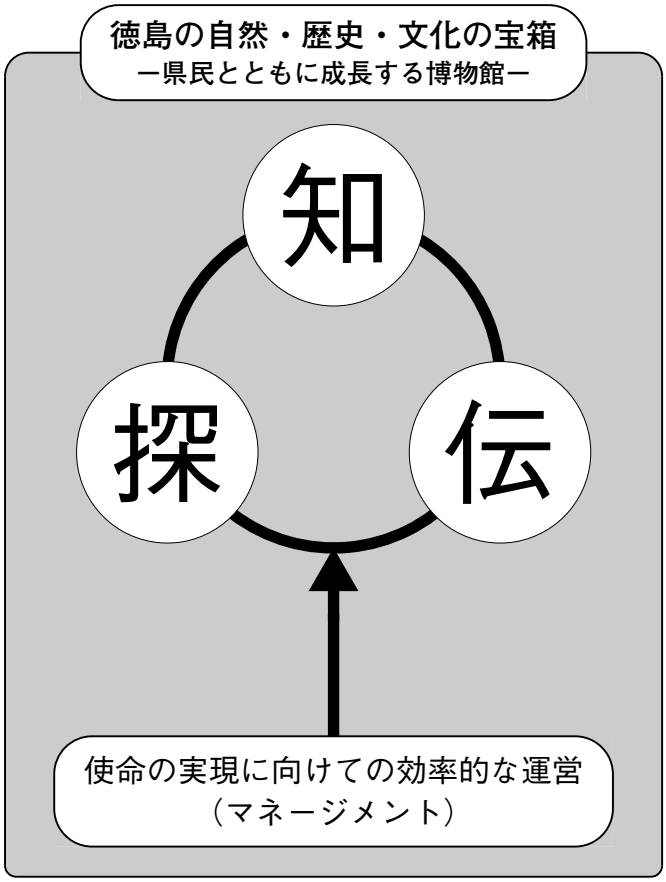
博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



使命と事業の関係

1　知―知と出会う博物館
　（1）展示
　（2）普及教育
　（3）情報の発信と公開
　（4）シンクタンクとしての社会貢献

2　探―地域の魅力を探る博物館
　（1）調査研究

3　伝―未来にまもり伝える博物館
　（1）資料の収集・保存と活用

4　使命の実現に向けての効率的な運営
　（1）マネージメント（経営）

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

Ⅰ　展示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、開館20周年を迎えたものの、厳しい財政状況のもとで事業化のめどは立っていない。そこで、「リフレッシュ事業」として、21年度の末に一部の中項目や小項目の変更を含む中規模な展示更新を行った（年報第19号参照）。22年度は、予算措置を伴わない小規模な展示更新や、地名の変更に伴うラベルやパネルの変更や訂正を行った。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにし、22年度は３回行った。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりをもつ資料の展示など様々なテーマをおりまぜ、２、３年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

なお、今年度は文化の森総合公園開園20周年にあたることから、企画展および特別陳列はすべて開園20周年記念事業として位置づけた。

１．常設展

⑴ 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の３つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の７つの大テーマにそって展示が展開されている。

１．日本列島と四国のおいたち
２．狩人たちの足跡
３．ムラからクニへ
４．古代・中世の阿波
５．藩政のもとで
６．近代の徳島
７．徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とは違った角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち／鳴門の塩業資料　など
自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：
メガテリウム全身骨格（レプリカ）
パノクツス全身骨格及び甲羅
マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
トクソドン全身骨格（レプリカ）
スミロドン全身骨格（レプリカ）
ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

⑵ 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開をはかるため、自然史関係の展示も行っている。

●絵はがきと景観

４月１日（木）～５月30日（日）
展示資料点数　122点（館蔵資料122点）

館蔵の絵はがきを「街」、「寺社」、「山」、「川」、「海」、「阿波踊り」など景観を記録した資料として展示した。

●四国のツキノワグマ

６月１日（火）～７月19日（月・祝）
展示資料点数　54点
（館蔵資料５点、借用資料49点）

四国では剣山系だけに少数が生息し、絶滅が心配されているツキノワグマについて、剥製、骨格標本、調査器具、および生態写真などで紹介した。NPO法人四国自然史科学研究センターとの共催、三好市農林振

興課および那賀町教育委員会の協力を得た。

●徳島の昆虫ー旧博物館の資料よりー

７月21日（水）～９月５日（日）

展示資料点数　4,648点（館蔵資料4,648点）

徳島県立博物館の前身である旧博物館に収蔵されていた徳島県産の昆虫類標本を展示した。また、当時、実際に展示されていた標本も紹介した。

「徳島の昆虫」展示風景

●須木一胤ー最後の阿波住吉派ー

９月７日（火）～10月17日（日）

展示資料点数　36点

（館蔵資料35点、借用資料１点）

須木一胤（1873-1936）は、徳島における住吉派の末裔として、昭和初期まで活躍した画家である。子孫から寄贈された遺品や下絵類を展示し、彼の業績を紹介した。

「須木一胤ー最後の阿波住吉派ー」展示風景

●国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石

10月19日（火）～１月16日（日）

展示資料点数　82点（館蔵資料82点）

「国会議事堂に使われた県内産石材」では、国会議事堂の内装に多用されている徳島県産石灰岩（大理石）の名称、使用箇所、産地の紹介を行った。「鳴門海峡海底産の化石」では、漁網にかかって得られるナウマンゾウなどの陸棲哺乳動物化石や、トウキョウホタテなどの海生動物化石を展示した。

●館蔵の鏡と古銭

１月18日（火）～３月21日（月・祝）

展示資料点数　178点（館蔵資料178点）

発掘調査や、複製品の製作によって多数収蔵している鏡や徳島市一宮、阿南市畑田、小松島市根井などでまとまって出土した中世の古銭など、これまであまり公開されていない資料を中心に紹介した。

「館蔵の鏡と古銭」展示解説

●節供の道具

３月23日（水）～５月15日（日）

展示資料点数　10点（館蔵資料10点）

三月節供に飾られる雛人形、五月節供に飾られる鯉幟など、館蔵資料から徳島県内で使用されたものを紹介した。

●西日本のタンポポ

３月23日（水）～５月15日（日）

展示資料点数　41点

（館蔵資料19点、借用資料22点）

「西日本のタンポポ」展示風景

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの協力のもとで、レプリカやパネルを使ってタンポポ調査・西日本2010の成果を県民に紹介した。

⑶ 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを５回行い、以下の資料を展示した。

探幽唐獅子図写（矢野栄教筆）１幅・典信瀟湘八景図巻写（同筆）１巻
典信釈迦十六羅漢図写（同筆）３幅対・和漢人物顔写（筆者不明）１巻
紅葉賀図（守住貫魚筆）１幅
鶴図屏風（松浦春挙筆）１隻
源氏物語若紫図（渡辺広輝筆）１幅・那智滝図（藤桃斎筆）１幅

⑷ トピックコーナーでの小展示

22年度は、次の展示を行った。このコーナーでは更新は計画化せず、適した展示内容が出しだい、随時行う予定である。

●四国で発見された東アジア初のオウムガイ化石

平成22年４月１日(木)～平成23年２月25日(金)
展示資料点数　９点（館蔵資料９点）

22年度から継続して、高知県四万十市の白亜紀後期の地層（中村層）中の石灰岩から産出した東アジア初となるオウムガイ化石：アツロイデアを紹介した。また、当館に収蔵されているその他の種類のオウムガイ化石も一緒に展示した。

●四国に初めて漂着したトグロコウイカ

平成23年２月26日(土)～４月30日(土)
展示資料点数　10点(館蔵資料９点､借用資料１点)

徳島県海陽町と高知県東洋町で発見されたトグロコウイカの漂着殻を紹介するとともに、漂着物として知られるイカやタコなど頭足類の資料を展示した。

「四国に初めて漂着したトグロコウイカ」展示風景

２．企画展

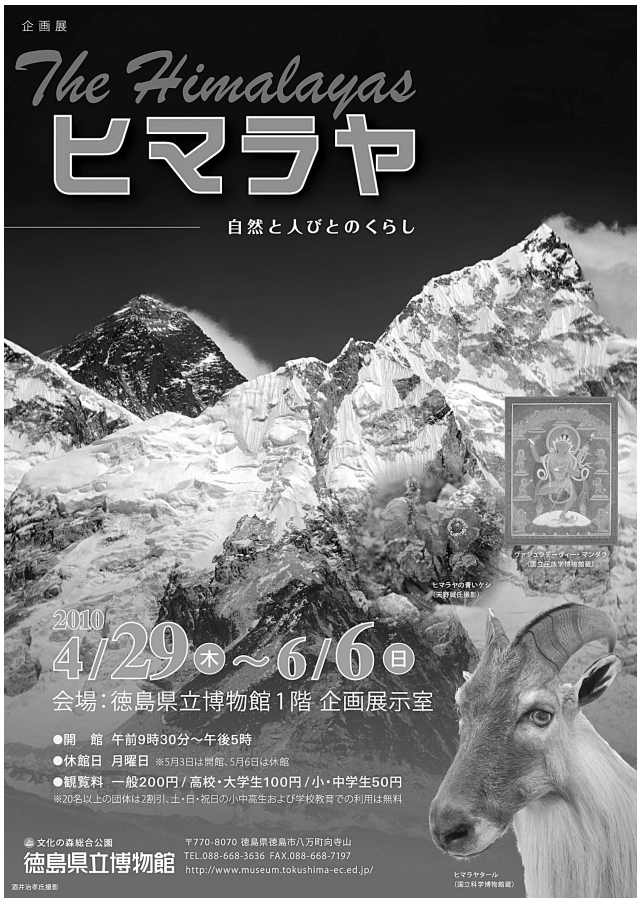
22年度は、次の３回の企画展を行った。

⑴ 第１回企画展
「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」

ヒマラヤ山脈は世界の屋根とよばれ、そこにはさまざまな高山植物が存在している。一方、ヒマラヤの懐は熱帯に始まって、その中腹は意外にも私たちの暮らす徳島県の平野部と同じ温帯照葉樹林になっている。

この企画展では、ヒマラヤの高山のみに見られる特徴ある自然や人々の暮らしとその中腹にある温帯林、さらにその地に住む人々の生活と我々の生活の類似点などを標本、写真、映像などを用いて紹介した。また、参加型展示として観覧者に展示物の絵を描いていただき、一定期間展示することも試みた。

●主催　徳島県立博物館
●期間　平成22年４月29日(木)～６月６日(日)
（開館日数34日間）
●会場　博物館企画展示室
●展示構成とおもな展示資料
１）ヒマラヤの成り立ち
２）ヒマラヤの環境



「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」ちらし（表）

「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」ちらし（裏）

3）ヒマラヤを彩る花々
4）動物
5）ヒマラヤの人々ー多彩な民族と暮らし
6）ヒマラヤ調査
7）体験コーナー／触れて学ぶ
8）映像コーナー

●おもな展示資料
ヒマラヤ産高山植物標本、獣類剥製、昆虫標本、化石岩石、民具（籠類）、仏教関係資料

●展示資料点数　641点
（館蔵資料436点、借用資料205点）

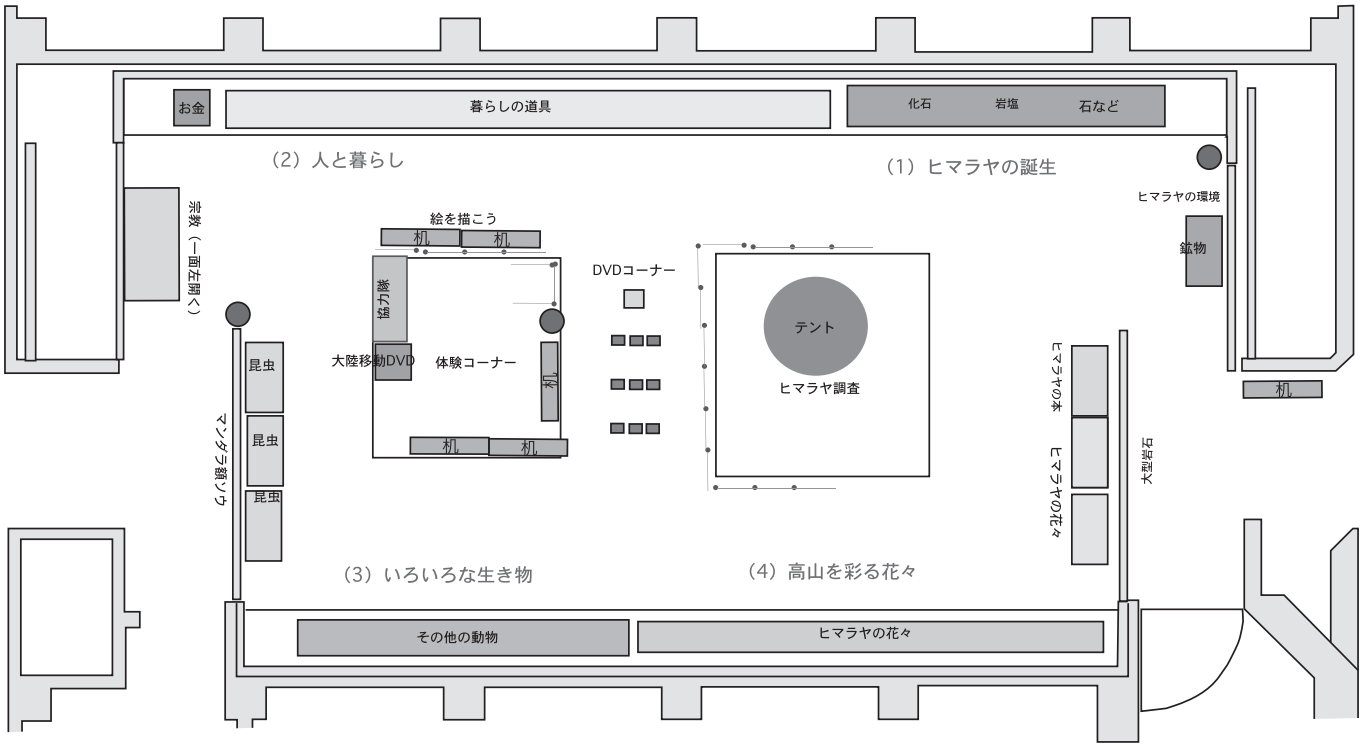
●観覧料　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数　5,909人

●企画展関連行事等

①ミュージアムトーク「ヒマラヤの花と自然」
日　時　5月23日（日）　13：30～15：00
会　場　博物館講座室
参加者　20人

②展示解説
第1回：4月29日（木・祝）　14：00～14：30
参加者27人
第2回：5月9日（日）　14：00～14：30
参加者28人



「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」展示配置

「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」体験コーナー

⑵ 第２回企画展「藍染めの表象」

徳島は、江戸時代後期から明治期にかけて染料「藍」の産地として全国に名をはせた。多くの人々が、藍を用いて様々な模様の布を生み出し、暮らしの中で愛用してきた。

この企画展では、当館が収集してきた全国各地の藍染め製品を展示し、長く培われてきた藍染めの多様性を紹介した。合わせて、徳島の藍が全国各地で花開いた藍染めに、欠かせないものであったことを振り返った。

なお、この企画展は、文化立県とくしま推進会議阿波藍の魅力発信協賛事業の一つとして開催したものでもあった。

●期間　平成22年10月５日（火）～11月７日（日）
（開館日数30日間）

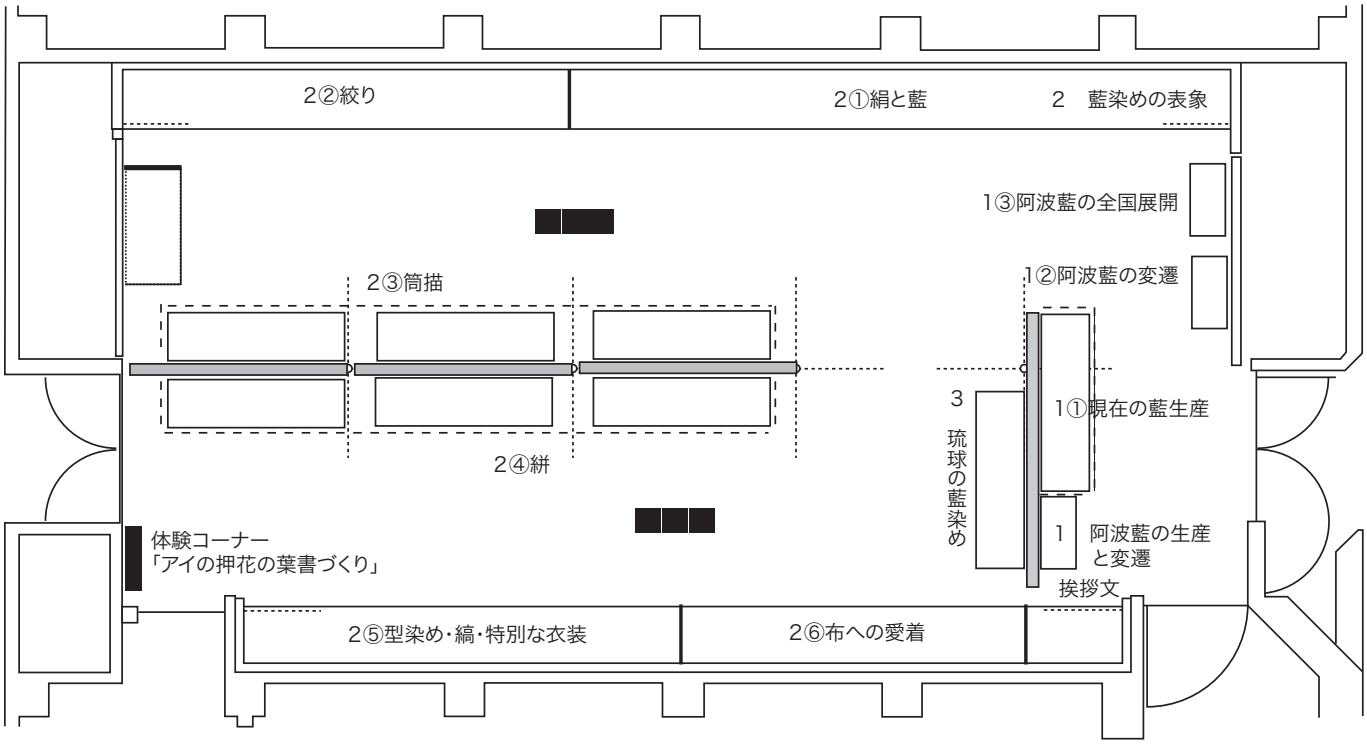
●会場　博物館企画展示室

●展示構成

⑴藍生産の変遷
①現在の藍生産　②阿波藍の変遷　③阿波藍の全国展開

「藍染めの表象」展示風景

「藍染めの表象」ちらし（上：表、下：裏）



「藍染めの表象」展示配置

⑵藍染めの表象

①絹と藍　②絞り　③筒描　④絣　⑤型染め、縞、特別な衣装　⑥布への愛着

⑶琉球藍の染織

●展示資料点数　104点

（館蔵資料96点、借用資料８点）

●観覧料　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●観覧者数　3,537人

●企画展関連行事

①展示解説

日　時　10月10日（日）　13：30～14：30

参加者　15人

①記念講演会

日　時　10月31日（日）　13：30～15：30

会　場　文化の森イベントホール

講　師　高橋啓氏（鳴門教育大学名誉教授）

「藍染めの表象」記念講演会

演　題　「阿波藍の生産と流通の歴史」

参加者　64名

⑶ 第３回企画展
「聖地★巡礼ー自分探しの旅へー」

世界各地で、信仰にもとづいて神聖とされる場所（聖地）を目指す参拝や巡礼がさかんに行われている。私たちに馴染み深い四国遍路も、そうした巡礼の一種である。

この企画展では、これらの巡礼のうち、キリスト教（カトリック）の３大聖地の一つであるサンチャゴ・デ・コンポステラ（スペイン）への巡礼を中心として、ルルド（フランス）、恐山（青森県）、四国遍路といった、ヨーロッパと日本の聖地及び巡礼を取り上げ、巡礼体験のもつ意味を探るとともに、国際的な視野から巡礼文化を比較することを目的とした。

国立民族学博物館が2007年に開催した同名の特別展の巡回展として開催したもので、高精細映像を多用した点が特徴となっている。とくにサンチャゴ・デ・コンポステラ巡礼のコーナーでは、モニタ22台、プロジェクタ１台を用いて、フランスのル・ピュイからサンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂への行程を疑似体験できるようにした。また、巡回展といいながらも、四国遍路については、当館収蔵資料により、独自の内容を盛り込んだ展示とした。

なお、この企画展は、文化の森総合公園開園20周年記念事業の一つとして開催したものである。

「聖地★巡礼」展ちらし

●**主催**　徳島県立博物館・国立民族学博物館・財団法人千里文化財団

●**期間**　平成23年２月11日（金・祝）～３月21日（月・祝）（開館日数34日間）

●**会場**　博物館企画展示室・文化の森多目的活動室

●**展示構成**

⑴サンチャゴ・デ・コンポステラ巡礼

⑵霊場　恐山

⑶聖母マリアの聖地ルルド

⑷四国遍路

●**展示資料点数**　160点（館蔵資料85点）

「聖地★巡礼」展示風景

●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●**観覧者数**　3,019人

●**企画展関連行事**

①展示解説

第１回：２月13日（日）　14：00～14：30
参加者　70人

第２回：３月13日（日）　14：00～14：30
参加者　45人

②ドキュメンタリー映画上映会（ミニシアター）

第１回：２月12日（土）　13：30～14：00
参加者　３人

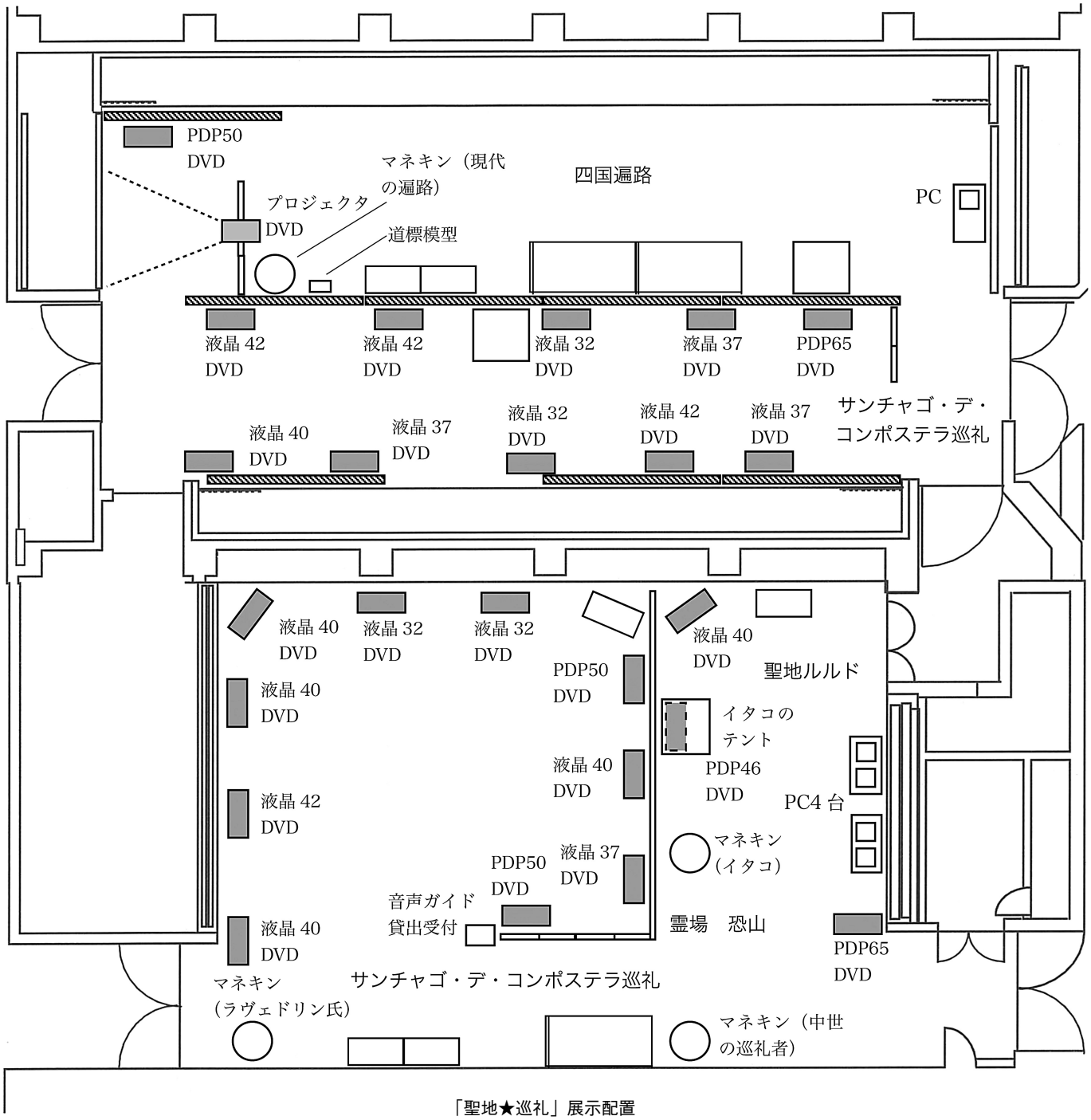
第２回：２月13日（日）　14：45～16：30
参加者　50人

第３回：２月20日（日）　13：30～15：15
参加者　25人

第４回：２月27日（日）　13：30～15：15
参加者　15人

第５回：３月６日（日）　13：30～15：15
参加者　19人

第６回：３月12日（土）　13：30～15：15
参加者　９人



「聖地★巡礼」展示配置

第７回：３月13日（日）　14：45～16：30
　　参加者　32人
第８回：３月19日（土）　13：30～15：15
　　参加者　７人
第９回：３月20日（日）　13：30～15：15
　　参加者　15人
第10回：３月21日（月・祝）　13：30～15：15
　　参加者　26人

３．特別陳列

⑴ 海を渡った人形と戦争の時代

戦後65年の節目にあたって企画した、平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」のメイン事業として開催した。

昭和２年、悪化する日米関係を憂慮した人たちの先導により、友情と平和の使者として日米間で人形の交換が行われた。しかし、平和への願いもむなしく、1930

年代以降、日本は中国やアメリカ等、多くの国々との長い戦争の道へ踏み込んでいった。この展示では、こうした昭和前半期の歴史を振り返り、平和の尊さについて考える機会を提供しようとした。

アメリカ合衆国ワシントン州に現存する徳島ゆかりの答礼人形「ミス徳島」（ノースウェスト芸術文化博物館所蔵）を約20年ぶりに里帰りさせ、徳島県に唯一現存する「青い目の人形」であるアリス（神山町神領小学校所蔵）とともに展示したことから、広く関心を集めた。

「海を渡った人形と戦争の時代」展示風景

●**主催**　徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会（事務局：徳島県立博物館）

●**期間**　平成22年７月17日（土）～９月５日（日）
（開館日数44日間）

●**会場**　博物館企画展示室・文化の森多目的活動室

●**展示構成**

⑴人形が結んだ友情－「青い目の人形」と答礼人形
　①「青い目の人形」がやって来た
　②アメリカへ旅立った答礼人形

⑵戦争とくらし
　①昭和初期のくらし
　②戦場へ
　③戦時下のくらし
　④1945年７月４日－徳島が焼きつくされた日

●**展示資料点数**　200点（館蔵資料150点）

●**観覧料**　無料

●**観覧者数**　10,364人

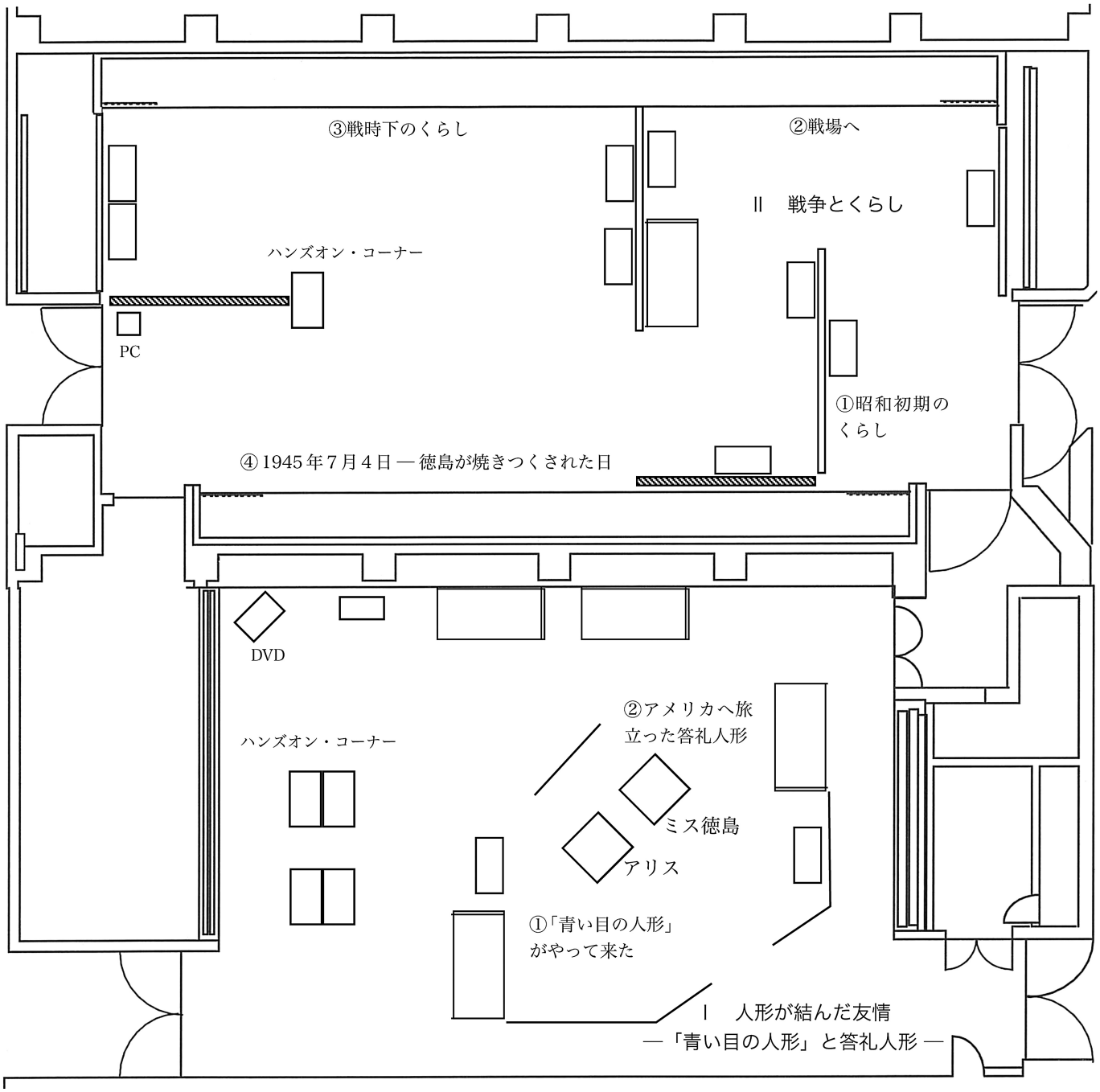
●**特別陳列関連行事**

①**展示解説等**

日時・参加者数

第１回（紙芝居＆展示解説）：７月17日（土）
13：30～14：25　参加者　32人

「海を渡った人形と戦争の時代」ちらし



「海を渡った人形と戦争の時代」展示配置

第２回（同上）：７月17日（土）
　　15：30～16：15　参加者　59人
第３回（同上）：７月18日（日）
　　13：30～14：25　参加者　45人
第４回（同上）：７月18日（日）
　　15：30～16：15　参加者　51人
第５回（展示解説）：７月19日（月）
　　15：00～15：30　参加者　20人
第６回（同上）：７月25日（日）
　　11：45～12：30　参加者　20人
第７回（紙芝居＆展示解説）：８月15日（日）
　　13：30～14：00　参加者　42人
第８回（同上）：８月15日（日）
　　15：00～15：30　参加者　10人
第９回（同上）：８月29日（日）
　　13：30～15：00　参加者　41人
第10回（同上）：８月29日（日）
　　15：30～16：00　参加者　42人
第11回（同上）：９月５日（日）
　　13：30～14：00　参加者　32人
第12回（同上）：９月５日（日）
　　15：00～15：30　参加者　43人

講師　高岡美知子氏(実行委員会委員　第１～４・10・11回)
ペンデル・パトリス氏（金城学院大学、第９・10回）
徳島県青少年育成アドバイザーの会(第７・８・11・12回)
当館職員（第１～12回）

②シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」（第３回四国地域史研究大会）
日時　７月25日(日)　12：30～17：00
講師　小幡　尚氏（高知大学教授)、野村美紀氏（香川県立ミュージアム専門学芸員)、藤本文昭氏（今治明徳高等学校教諭)、佐藤正志氏（摂南大学教授）
会場　文化の森イベントホール
参加者数　102人

③記念演奏＆講演会
日時　８月１日(日)　13：30～15：00
講師・演題等　徳島邦楽集団「THE DOLL」
原田一美氏（実行委員会委員）
「青い目の人形アリスちゃん」
参加者数　101人

④アリスの里からこんにちは－神領小学校招待遠足－
日時　８月10日(火)　９：30～12：00
会場　特別陳列会場ほか
参加者数　102人

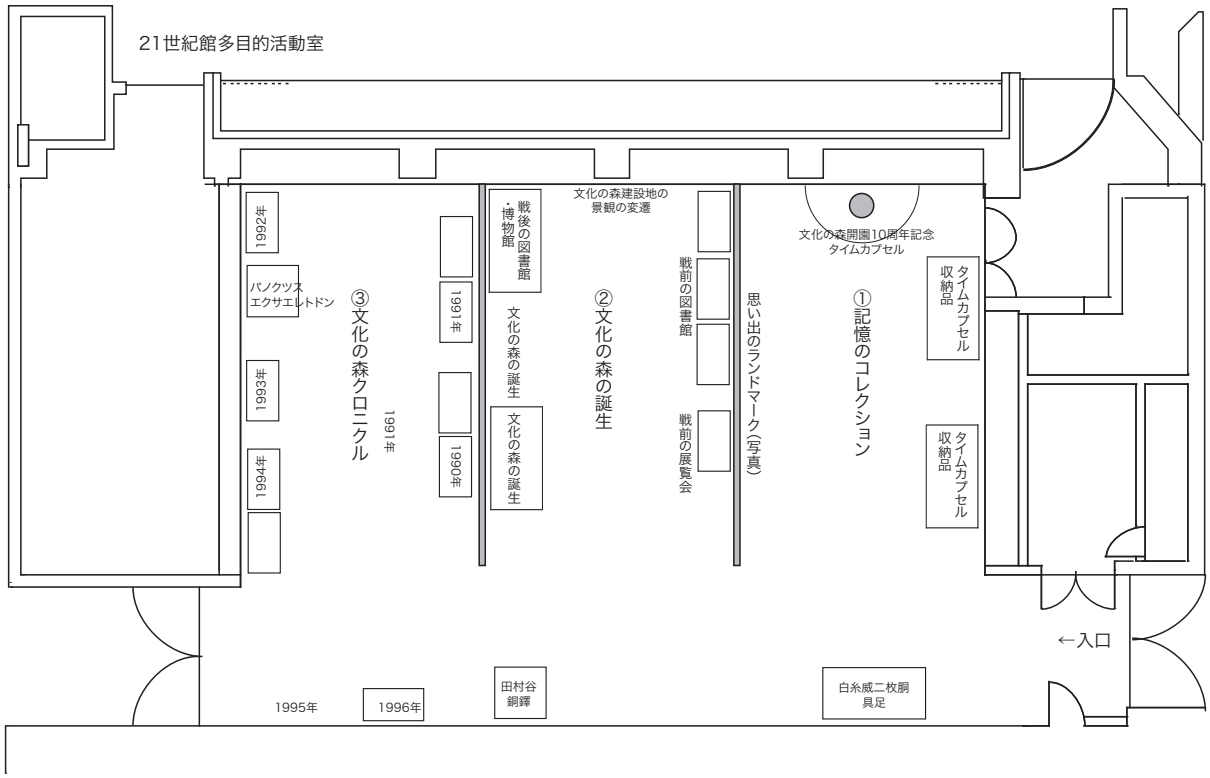
⑤ワークショップ「絵手紙をかこう！」
日時・参加者数
第１回：８月22日(日)　10：00～12：00
参加者　26人
第２回：８月22日(日)　13：00～15：00
参加者　24人
会場　特別陳列会場
講師　竹内　伸子氏（絵手紙作家）

(2) 文化の森総合公園開園20周年記念展「軌跡－継続と蓄積－」

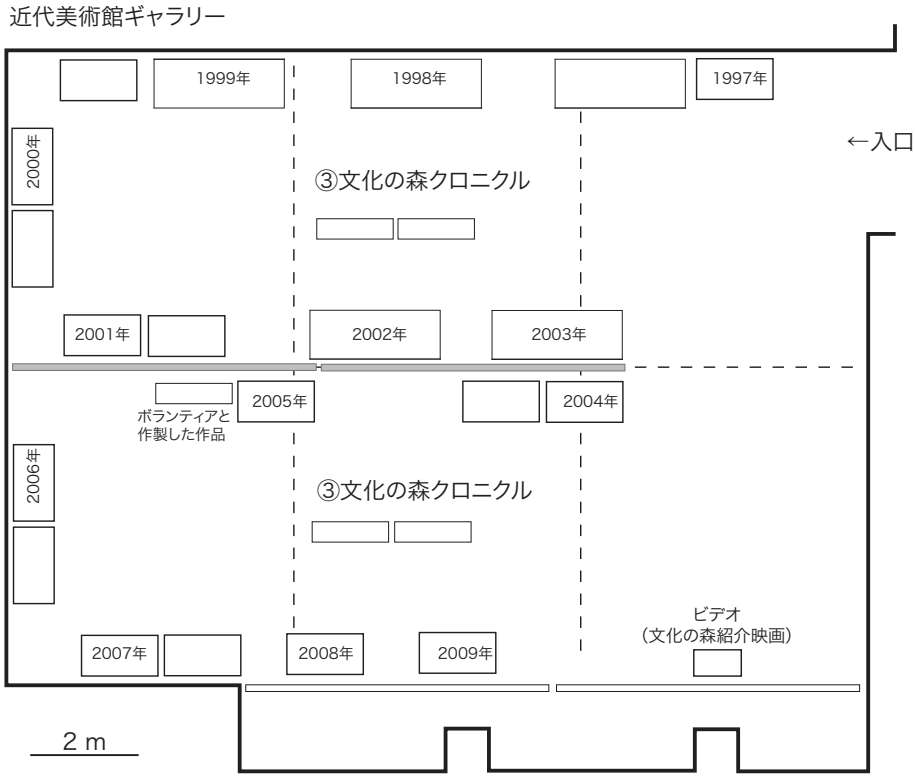
平成２年11月３日にオープンした文化の森総合公園が開園20周年を迎えた記念として、22年度の１年間を通じて、文化の森総合公園内の文化施設それぞれにおいて、さまざまな催しものが行われた。それらの中で中核的な位置を占めるものとして開催されたのが、全施設及び文化の森振興総局の協働による「文化の森サマーフェスティバル」､記念展「軌跡－継続と蓄積－」、「文化の森　大秋祭り!!」といったイベントだった。

記念展については、各施設が資料や情報を集積し、それらを活用することで県民にサービスを提供する生涯学習施設であることから、長期的な活動の継続の重要性について理解を深めてもらうため、開園以来の20年間の歩みを回顧し、収集資料や出版物等の紹介を行うものであった。

●主催　徳島県立図書館・博物館・近代美術館・文書



「軌跡－継続と蓄積－」第１会場展示配置（多目的活動室）



「軌跡ー継続と蓄積ー」第２会場展示配置（美術館ギャラリー）

「軌跡ー継続と蓄積ー」展示風景

館・二十一世紀館

●期間　平成22年10月23日（土）～11月23日（火・祝）
（開館日数27日間）

●会場　文化の森多目的活動室・近代美術館ギャラリー

●展示構成

①記憶のコレクション

開園10周年（2000年）を記念して県民から集めた品々を収納したタイムカプセルを開封・公開した。あわせて、開園15周年（2005年）記念として募集した「思い出のランドマーク」の写真を展示した。展示会場において、タイムカプセル収納品の追加募集も行った。

②文化の森の誕生

資料と写真により、文化の森の開園に至るまで

「軌跡ー継続と蓄積ー」ちらし

の、県内の文化施設の変遷を紹介した。

③文化の森クロニクル

文化の森開園以来の各館の歩みを年度ごとにパネルと資料で振り返った。博物館では、日常的に展示する機会の少ない美術工芸分野の資料を中心に、できるだけ収蔵資料を紹介するよう努めた。

●博物館の主な展示資料

会場	コーナー	展示資料
多目的活動室	①記憶のコレクション	タイムカプセル収納物
		思い出のランドマーク写真
	③文化の森クロニクル	ラプラタ大学との相互贈与資料（パノクツス模型，エクサエレトドン化石）
		徳島県産イグアノドン歯化石
		田村谷銅鐸レプリカ
		白糸威二枚胴具足
近代美術館ギャラリー		国際交流（ミャンマー研修生受入）資料
		県民参加によるメダカ生息調査資料
		箏　銘九江
		博学連携研究会の設置（学校貸出用資料）
		楠コレクション（祖谷山絵巻）
		企画展「海道をゆく」資料
		企画展「アンモナイトのすべて」資料
		企画展「サメの世界」・「エビとカニ」資料
		ボランティア企画型イベント「博物館Ｖキング」資料
		企画展「種と実」資料
		企画展「ミネラルズ」資料
		「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト（文化庁芸術拠点形成事業）資料

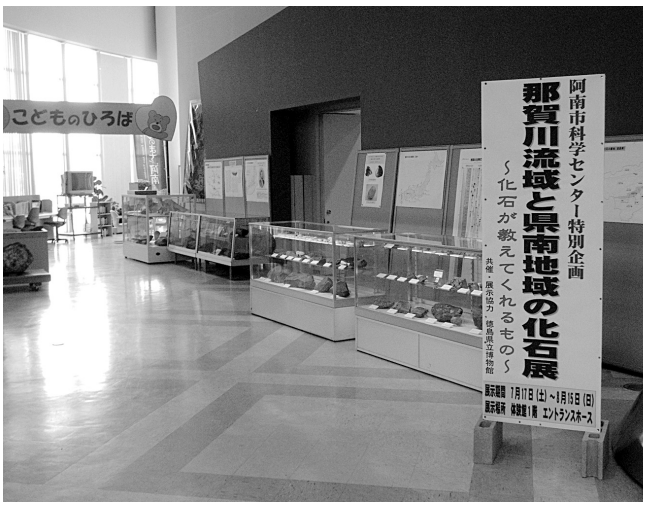
●展示資料点数　467点、うち博物館資料235点
（閲覧用図録等を除く）

●観覧料　無料

●観覧者数　4,165人

⑶ 2010年度文化の森人権問題啓発展

文化の森６館と徳島県教育委員会（文化の森振興総局・生涯学習政策課・人権教育課）との共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品展）を行った。



「那賀川流域と県南部地域の化石展」展示風景

●主催　文化の森６館・徳島県教育委員会

●期間　平成22年11月30日（火）～12月５日（日）

●入場者数　670人

４．企画展示室の会場提供

⑴ スタジオジブリ・レイアウト展

スタジオジブリ・レイアウト展は、平成22年２月20日（土）～４月18日（日）の会期で開催され、文化の森（博物館・美術館・二十一世紀館）が会場となった。博物館では、企画展示室を第２展示室として提供した。４月１日から会期末までの観覧者数は25,113人であった。

５．館外での展示

⑴ 展示パッケージの貸し出し

県内博物館の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、展示パッケージ（テーマに応じた展示資料及びパネル、ラベルのセット）の貸し出しを行っている。

22年度の貸し出し実績は次のとおりである（パッケージ名称、貸出先、期間の順に記載）。

・阿波忌部の世界（海陽町立博物館）
　平成22年４月15日～６月10日

⑵ 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、展示パッケージの貸し出しとあわせて、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。22年度は、次のような実績があった。

■移動展「那賀川流域と県南部地域の化石展」

●主催　阿南市科学センター・徳島県立博物館

●会期　平成22年７月17日（土）～８月15日（日）

●会場　阿南市科学センター

●入場者数　1,487人

●展示資料　114種類（うち館蔵資料40点）

■巡回展「海を渡った人形と平和への願い」

平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」による巡回展を移動展として位置づけた。展示内容は、青い目の人形アリスと答礼人形ミス徳島を中心として、1927年の人形交流を紹介するものであった。なお、海陽町会場及び松茂町会場では、独自の企画として、原

田一美著「青い目の人形」の挿絵原画の展示コーナーが設けられた。

●**主催**　徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会（事務局：徳島県立博物館）

【つるぎ町会場】

●**会期**　平成22年９月18日（土）～９月20日（月・祝）

●**会場**　道の駅　貞光ゆうゆう館

●**入場者数**　1,467人

●**展示資料**　２点（館蔵資料０点）

【海陽町会場】

●**会期**　平成22年９月23日（木・祝）～10月３日（日）

●**会場**　海陽町立博物館

●**入場者数**　360人

●**展示資料**　30点（館蔵資料３点）

【松茂町会場】

●**会期**　平成22年10月９日（土）～10月17日（日）

●**会場**　松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

●**入場者数**　1,233人

●**展示資料**　30点（館蔵資料３点）

６．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

⑴ 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館５年目にあたる平成７年度から９年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報７号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

厳しい財政状況のもと常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、展示更新を行っていないことに対する不具合も生じ始めていた。そこで、19年度には、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度当初は、この計画案に沿いながら、22年度に可能な範囲での改善を集中的に行う「リフレッシュ事業」を実施する計画を立てたが、当初の予定を繰り上げて、21年度の年度末に一部の中項目や小項目の変更を含む中規模な展示更新を行った（年報19号参照）。予算的措置を必要としない小規模な展示更新は、継続して行っている。

22年度に更新したおもな箇所は、以下の通りである。

１）大テーマ「ムラからクニへ」内の中テーマ「銅鐸のまつり」コーナーの展示資料の一部を入れ替え、パネル等も更新し、リフレッシュした。

２）古生代・中生代化石の資料の追加およびパネル・ラベルの資料名などの変更を行った

３）大テーマ「藩政のもとで」内に、阿波の近世絵画のコーナーをもうけ、不定期に展示替えを行った。

４）２階常設展示室のスポットライトについて、一部をLED（発光ダイオード）に更新した

５）町村合併に伴う地名の変更へ対応した

また、最近開館した博物館などに対する調査も継続してきており、22年度には次の調査を行った。

・雲仙岳災害記念館：新設館の展示状況および運営状況の調査

⑵ 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

しかし、購入による資料収集ができなくなっていることから、テーマ性をもったコレクションづくりが困難になっているため、展示替えを継続していくことも容易ではない。

22年度の取り組みは、次のようなものである。

①部門展示（人文）における多様な展示の展開

多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）のレイアウトを変更した。20年度より始めた自然史のテーマは４回行った（「四国のツキノワグマ」、「徳島の昆虫－旧博物館の資料より－」、「国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石」、「西日本のタンポポ」）。このうち、「四国のツキノワグマ」はNPO法人 四国自然史科学研究センターとの共催として行った。

②チャレンジコーナーの充実

以前から展示室における体験活動への要望が多かったことから、20年に「チャレンジコーナー」と名付けた体験コーナーを設置し、土器パズル、スタンプ、塗り絵を置いた。22年度は、企画展に関連したぬり絵（アリスとミス徳島）の設置や、壊れたパズルの再作成などを行った。

③トピックコーナーの更新

一時休止していたトピックコーナーを21年度から再設置した（年報第19号参照）。更新は計画化せず、適

「ヒマラヤ小図鑑」

した展示内容が出しだい、随時行うことにした。22年度は更新を１回行った（p. ５参照）。

④展示解説の促進

部門展示における展示解説「絵はがきと景観」、「四国のツキノワグマ」、「徳島の昆虫－旧博物館の資料より－」、「須木一胤－最後の阿波住吉派－」、「国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石」、「館蔵の鏡と古銭」、「節供の道具」、「西日本のタンポポ」で展示解説を実施した。

20年度に引き続いて、常設展示室内数箇所で、手作りのセルフガイドを設置・配布した。また、21年度より当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい　なんでもQ&A」も常設展示室入口にコーナーを設けて、観覧者が自由に持ち帰ることができるようにしている（年報19号参照）。

７．展示関係出版物

⑴ 企画展図録・解説書

●第１回企画展ブリーフ・ガイド　ヒマラヤ小図鑑
2010年３月31日発行、Ａ５判24ページ、600部
友の会増刷300部

●第２回企画展図録「藍染めの表象」
2010年10月５日発行、Ａ４判53ページ、600部
友の会増刷300部

⑵ 特別陳列・巡回展パンフレット

●徳島平和ミュージアムプロジェクト「海を渡った人形と戦争の時代」パンフレット
2010年７月17日発行、Ａ４判16ページ、10,000部

Ⅱ　普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

22年度は、年間91回（雨天中止２回）の普及行事実施となった（他にクイズラリーを24回を行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきてはいるが、やはり参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座等において、郡部での開催を増やすなどの工夫を行っている。

１．普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

７月18日（日）	勾玉をつくろう	39人
８月22日（日）	火おこし	12人
12月５日（日）	ベーゴマをまわしてみよう	12人
１月16日（日）	眉山山麓寺社めぐり（東麓編）	19人
１月23日（日）	ミニ青銅鏡を鋳造しよう	23人
２月20日（日）	トンボ玉をつくろう	23人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

４月18日（日）	縄文の谷ハイキング（東みよし町）	16人
４月29日（木）	出羽島を歩こう	17人
５月30日（日）	古墳見学①（徳島～海陽）	48人
10月10日（日）	伊島を歩こう	中止
12月５日（日）	一宮城を歩こう	９人
３月13日（日）	古墳見学②（穴吹）	29人

一宮城を歩こう

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。22年度は文化の森周辺のほか、室戸市、徳島市、鳴門市、阿南市、勝浦町、那賀町、美波町、海陽町などで実施した。

４月25日（日）	タンポポを探そう	24人
５月９日（日）	宍喰浦と竹ヶ島の地質見学	10人
５月16日（日）	磯の生きもの	71人
６月６日（日）	白亜紀の地層見学（勝浦町）	28人
７月19日（月）	漂着物を探そう！	48人
７月24日（土）	セミの羽化かんさつ①	30人
７月25日（日）	川魚かんさつ	42人
７月31日（土）	セミの羽化かんさつ②	23人
８月１日（日）	水生昆虫のかんさつ	53人
８月８日（日）	室戸岬の地質見学	９人
10月９日（土）	河口の生きもの	中止
10月11日（月）	アサギマダラを探そう	13人
10月17日（日）	那賀川上流の地層見学	12人
２月６日（日）	冬の植物と昆虫	26人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

川魚かんさつ

「標本の名前を調べる会」は、毎年８月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか５名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

７月24日（土）　貝化石標本をつくろう　25人
８月１日（日）　化石のレプリカをつくろう　26人
８月25日（水）　標本の名前を調べる会　48人
９月12日（日）　ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう！　13人
10月24日（日）　秋の野草かんさつ　13人
11月28日（日）　木の葉化石の発掘体験　31人
12月12日（日）　古代文様のミニ土版をつくろう　15人
２月27日（日）　アンモナイト標本をつくろう　20人
３月６日（日）　ミクロの世界－電子顕微鏡で化石を見よう　７人
３月20日（日）　落ち葉の中の生きものたち　17人

標本の名前を調べる会

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

８月29日（日）　押し葉カルタで遊ぼう　９人
11月14日（日）　どんぐりごまとウツギの笛を作ろう　８人
12月19日（日）　リースをつくろう　11人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

５月23日（日）　ヒマラヤの花と自然　20人
６月13日（日）　飯塚桃葉と田沼時代　11人
８月１日（日）　クジラの進化－化石でたどる5000万年の歴史－　13人
９月26日（日）　寺社縁起に歴史を読む　12人

リースをつくろう

１月30日（日）　２つのヤマをつくる左義長　１人
３月27日（日）　みんなで調べたタンポポの分布　タンポポ調査・西日本2010の結果より　８人

■歴史文化講座（移動講座）

学芸員が講師を務め、館外の社会教育施設と共催で行う講座。22年度は５～８月に阿波海南文化村で実施し、第２回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

５月23日（日）　忌部山古墳群と横穴式石室　14人
６月27日（日）　戦国時代の海部刀　16人
７月25日（日）　徳島県内の河童伝承　16人
８月29日（日）　阿波の画人いろいろ－近世以前－　11人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「ヒマラヤ－自然と人びとのくらし－」関連行事

４月29日（木）　企画展「ヒマラヤ－自然と人びとのくらし－」展示解説①　27人

ミュージアムトーク「ヒマラヤの花と自然」

5月9日(日)　企画展「ヒマラヤ－自然と人びとのくらし－」展示解説②　28人

●企画展「藍染めの表象」関連行事

10月10日(日)　企画展「藍染めの表象」展示解説　15人

10月31日(日)　企画展記念講演会「阿波藍の生産と流通の歴史」　64人

●企画展「聖地★巡礼－自分探しの旅へ－」関連行事

2月12日(土)　ドキュメンタリー映画上映①　3人

2月13日(日)　企画展「聖地★巡礼」展示解説①　70人

2月13日(日)　ドキュメンタリー映画上映②　50人

2月20日(日)　ドキュメンタリー映画上映③　25人

2月27日(日)　ドキュメンタリー映画上映④　15人

3月6日(日)　ドキュメンタリー映画上映⑤　19人

3月12日(土)　ドキュメンタリー映画上映⑥　9人

3月13日(日)　企画展「聖地★巡礼」展示解説②　45人

3月13日(日)　ドキュメンタリー映画上映⑦　32人

3月19日(土)　ドキュメンタリー映画上映⑧　7人

3月20日(日)　ドキュメンタリー映画上映⑨　15人

3月21日(月・祝)　ドキュメンタリー映画上映⑩　26人

●特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」関連行事

7月17日(土)　紙芝居＆特別陳列展示解説①　32人

7月17日(土)　紙芝居＆特別陳列展示解説②　59人

7月18日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説③　45人

7月18日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説④　51人

7月19日(月)　特別陳列展示解説⑤　20人

7月25日(日)　シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」　102人

7月25日(日)　特別陳列展示解説⑥　20人

8月1日(日)　記念演奏＆講演会　101人

8月8日(日)　アリスの里からこんにちは－神領小学校招待遠足－　102人

8月15日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑦　42人

8月15日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑧　10人

8月22日(日)　ワークショップ「絵手紙をかこう！」①　26人

8月22日(日)　ワークショップ「絵手紙をかこう！」②　24人

8月29日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑨　41人

8月29日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑩　42人

9月5日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑪　32人

9月5日(日)　紙芝居＆特別陳列展示解説⑫　43人

●部門展示関連行事

5月9日(日)　部門展示「絵はがきと景観」展示解説　7人

6月13日(日)　部門展示「四国のツキノワグマ」展示解説①　2人

7月19日(月)　部門展示「四国のツキノワグマ」展示解説②　31人

8月15日(日)　部門展示「徳島の昆虫－旧博物館の資料より－」展示解説　41人

9月20日(月)　部門展示「須木一胤－最後の阿波住吉派－」展示解説　8人

11月14日(日)　部門展示「国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石」展示解説　7人

2月13日(日)　部門展示「館蔵の鏡と古銭」展示解説　9人

3月27日(日)　部門展示「西日本のタンポポ」展示解説　13人

部門展示「徳島の昆虫」展示解説

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月10日	68人	(小	65・中3・高0)
4月24日	61人	(小	58・中3・高0)
5月8日	63人	(小	59・中4・高0)
5月22日	68人	(小	68・中0・高0)
6月12日	94人	(小	92・中2・高0)
6月26日	58人	(小	53・中5・高0)
7月10日	90人	(小	78・中12・高0)
7月24日	113人	(小	108・中5・高0)
8月14日	94人	(小	91・中3・高0)
8月28日	72人	(小	72・中0・高0)
9月11日	95人	(小	92・中3・高0)
9月25日	82人	(小	75・中0・高7)
10月9日	119人	(小	91・中28・高0)

10月23日	63人（小　62・中１・高０）
11月13日	90人（小　89・中１・高０）
11月27日	110人（小 110・中０・高０）
12月11日	76人（小　76・中０・高０）
12月25日	41人（小　41・中０・高０）
１月８日	96人（小　96・中０・高０）
１月22日	96人（小　96・中０・高０）
２月12日	92人（小　91・中１・高０）
２月26日	93人（小　93・中０・高０）
３月12日	77人（小　75・中２・高０）
３月26日	94人（小　89・中５・高０）
参加者合計	2,005人（小1920・中78・高７）

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル　　５月５日（水）

小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「動物標本にさわってみよう」、「化石クリーニング実演」、「ミクロの博物館－顕微鏡で虫や植物を見てみよう－」、「古代の服を着てみよう」、「おりがみをつくろう」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：1,045人

博物館こどもの日フェスティバル

●夜の博物館　ドキドキ体験ツアー　　８月１日（日）

夜間の常設展、企画展、地学収蔵庫を解説付きで見学した。希望者が多く、２班に分かれて実施した。

参加者：60人

●文化の森サマーフェスティバル　　８月７日（土）

文化の森開園20周年記念事業の１つであり、５館あげてのフェスティバル。博物館は、「ワクワク夏祭り！」と題して、シンボル広場において「型抜き」、「スーパーボールすくい」、「水てっぽう射的」、常設展示室において、「魚釣りゲーム」、「種子をとばそう」、「影あそび」等を行った。

文化の森サマーフェスティバル「魚釣りゲーム」

参加者：4,529人

●文化の森　大秋祭り!!　　11月23日（火）

文化の森開園20周年記念事業の１つであり、鳥居龍蔵記念博物館も加わり、６館あげてのフェスティバル。博物館は、「博物館ワクワク秋祭り！」と題して、１階企画展示室において「しおりづくり」、「メンコ遊び」、「りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく」、２階常設展示室において「標本にさわってみよう」、「レプリカづくり」、鳥居龍蔵記念博物館において「日光写真を写そう」を行った。

参加者：904人

●博物館Ｖキング　　２月11日（金・祝）

ボランティアスタッフが中心となって作成した学習プログラムによるイベント（「恐竜の大型模型づくり」、「動物カルタ遊び」、「生き物輪投げ遊び」、「クイズラリー」など）を実施した。

参加者：1,216人

博物館Ｖキング「動物カルタ遊び」

2．学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週５日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

⑴ 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業や「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

①渋野小学校（徳島市）　９月２日（木）
　５年生　31名
　特別陳列の解説他（人権学習）（講師：長谷川）
②清重西小学校（美馬市）　10月21日（木）
　６年生　31名
　化石のレプリカ（講師：辻野）
③津田小学校（徳島市）　10月29日（金）
　４年生　137名
　昔の道具（講師：庄武）
④観音寺第一高校（観音寺市）　11月７日（日）
　１～３年生　25名
　学校のある大地の成り立ちを探る（講師：中尾）
⑤八万南小学校（徳島市）　11月９日（火）
　３年生　109名
　昔の道具　（講師：庄武）
⑥上八万小学校（徳島市）　12月21日（火）
　６年生　64名
　化石のレプリカ（講師：辻野）
⑦八万南小学校（徳島市）　２月２日（水）
　３年生　53名
　博物館について　（講師：中尾・辻野ほか）
⑧鳴門教育大附属小学校（徳島市）　２月17日（木）
　５～６年生　12名
　化石のレプリカ（講師：辻野）
⑨佐那河内小学校（佐那河内村）　２月18日（金）
　３年生　12名
　昔の道具（講師：庄武）

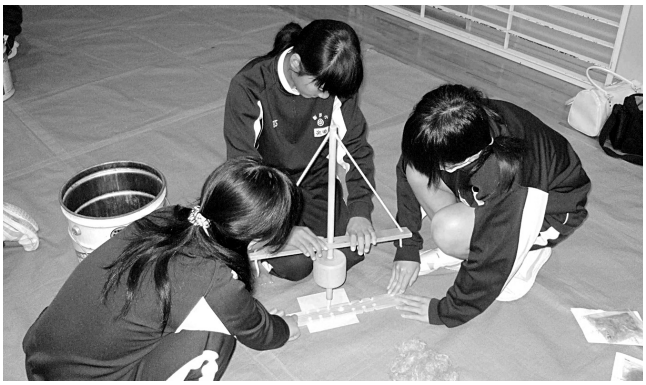
昔の道具

⑵ 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

①加茂名小学校（徳島市）　４月14日（水）
　６年生　88名
　火おこし（講師：魚島）
②川田中小学校（吉野川市）　４月16日（金）
　６年生　17名
　復元青銅器・火おこし（講師：魚島）
③新野小学校（阿南市）　４月27日（火）
　６年生　21名
　火おこし（講師：魚島）
④鳴門教育大附属中学校（徳島市）
　４月28日（水）・30日（金）・５月６日（木）
　１年生　156名
　タンポポ調査（講師：小川）
⑤相生中学校（那賀町）　５月７日（金）
　全学年　74名
　地層かんさつ（講師：中尾・辻野）
⑥大野小学校（阿南市）　５月12日（水）
　６年生　19名
　火おこし（講師：魚島）
⑦徳島文理小学校（徳島市）　５月18日（火）
　６年生　69名

火おこし（講師：魚島）
⑧富田中学校（徳島市）　5月21日（金）
２年生　177名
戦争と平和（講師：長谷川）
⑨一宮小学校（徳島市）　5月25日（火）
全学年　90名
水生生物観察会（講師：山田）
⑩清重小学校（美馬市）5　6月18日（金）
全学年　131名
自然に親しみ、自然を大切にしよう（講師：茨木）
⑪広野小学校（神山町）　6月22日（火）
３～６年生　42名
水生生物調査（講師：山田）
⑫新町小学校（徳島市）　6月22日（火）
３年生　19名
校区のよさをみつけよう（講師：茨木）
⑬津田小学校（徳島市）　9月14日（火）
３年生　142名
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
⑭鴨島小学校（吉野川市）　9月14日（火）
４年生　63名
昔のくらし（講師：庄武）
⑮国府小学校（徳島市）　9月22日（水）
４年生　127名
昔のくらし（講師：磯本）
⑯牟岐小学校（牟岐町）　10月５日（火）
３年生　26名
昆虫について（講師：山田）
⑰八万小学校（徳島市）　10月27日（水）
４年生　102名
昔のくらしと町づくり（講師：磯本）
⑱川田西小学校（吉野川市）　11月２日（火）
４年生　12名
昔のくらしと町づくり（講師：庄武）
⑲昭和小学校（徳島市）　11月10日（水）
４年生　96名
昔のくらし（講師：庄武）
⑳県立聾学校（徳島市）　11月18日（木）
４年生　２名
昔のくらし（講師：磯本）
㉑川田中小学校（吉野川市）　11月29日（月）
４年生　15名
昔のくらしと町づくり（講師：庄武）
㉒論田小学校（徳島市）　11月30日（火）
６年生　61名
大地をさぐる（講師：中尾・辻野）
㉓新町小学校（徳島市）　11月30日（火）
３年生　19名
新町川体験隊（講師：佐藤）
㉔宮井小学校（徳島市）　12月10日（金）
４年生　18名
昔のくらしと町づくり（講師：庄武）
㉕藍住北小学校（藍住町）　１月18日（火）
４年生　24名
正法寺川探検隊（講師：佐藤）
㉖津田小学校（徳島市）　１月25日（火）
３年生　141名
昔のくらしと町づくり（講師：庄武）
㉗国府小学校（徳島市）　１月27日（木）
３年生　90名
昔のくらしと町づくり（講師：磯本）


火おこし

(3) 博物館資料の学校への貸出し

小・中・高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

①勝浦中学校（勝浦町）　７月４日～７月９日
貸出資料：復元青銅器（銅鐸、銅剣、銅矛、銅戈、三角縁神獣鏡）
使用目的：社会科
②中野島小学校（阿南市）　７月18日～７月19日
貸出資料：火おこし道具（マイキリ）12点
使用目的：社会科
③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）
９月２日～９月３日
貸出資料：徳島空襲関係写真パネル15点
使用目的：総合的な学習の時間

④徳島市八万南小学校（鳴門市）９月15日～９月17日
　貸出資料：マニ車（携帯用）、ドッコ（竹製背負い籠）、アンギー（チベット族女性の衣装）、ドールスルワール（ネパリ族の衣装）各１点
　使用目的：社会科
⑤富岡小学校（阿南市）　10月14日～10月23日
　貸出資料：火おこし道具（マイキリ）15点
　使用目的：社会科
⑥鳴門市林崎小学校（鳴門市）　10月22日～10月28日
　貸出資料：阿讃山地のアンモナイト化石、鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石
　使用目的：理科
⑦徳島市渋野小学校（徳島市）　11月５日～11月10日
　貸出資料：徳島空襲被災遺物２点
　使用目的：統合的な学習の時間
⑧土成小学校（阿波市）　11月22日～11月30日
　貸出資料：大きな三葉虫、オドントチレ、ユーパキディスカス、アンモナイトの断面、ノジュール中のアンモナイト化石、ナウマン象の化石
　使用目的：理科
⑨徳島市国府小学校（徳島市）　11月16日～11月24日
　貸出資料：熊手、ジョレン手箕、踏み鋤、畚各１点、唐鍬２点
　使用目的：社会科

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。
①阿波高校　８月10日　１名
②加茂名中学校　11月17日～11月19日　３名

職場体験（加茂名中学校）

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。
①22年度教職10年経験者研修
　８月18日（水）　参加者　10名
　・「八万の昔を探ろう」フィールドワーク（講師：磯本）
　・勾玉づくり（講師：魚島）
②初任者研修
　８月20日（金）　参加者　21名
　・川魚観察と川環境（講師：佐藤）
　・身近な雑草調べ（講師：茨木）
③鳴門市小学校理科研究会
　11月20日（金）　参加者　23名
　・常設展解説・バックヤード見学（講師：辻野・佐藤）

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

３．博物館友の会

●会員（22年度末）

個人会員	（年会費2,000円）		72人
	（半年会費1,000円）		６人
家族会員	（年会費3,000円）	47組	168人
	（半年会費1,500円）	１組	２人

●役員（22年度）
会　長：大杉洋子
副会長：行成正昭・鳥居　喬・大原賢二（博物館長）
幹　事：和田賢次・多田精介・澤祥二朗・松家京子・伊勢ひとみ
監　査：石尾和仁・南部洋子

●事業
①博物館出版物の増刷・頒布
22年度博物館企画展の図録の印刷・頒布を行った。
徳島の自然と歴史ガイド６「みんなで調べた徳島のタンポポータンポポ調査・西日本2010の結果より－」の印刷・頒布を行った。
②広報活動
○22年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。

○友の会会報「アワーミュージアム」No.43～45を発行し、会員に送付した。

☆No.43（2010年６月30日発行）

30年間捜し続けていた迷子の迷子のお地蔵さん

三軒屋町の土手

友の会行事報告　いも餅ときなこをつくろう

ＱアンドＡ：ちょっとおたずねします　植えてはいけない植物について

平成22年度総会の報告

新スタッフ紹介

☆No.44（2010年10月30日発行）

大師信仰への転換鯖大師の場合

友の会行事報告　チリモンを探そう！

友の会行事報告　地引き網を引こう

友の会行事報告　文化の森開園20周年記念

文化の森サマーフェスティバル

便利なグッズの紹介　デジタルマイクロスコープ

☆No.45（2011年２月１日発行）

ベニトンボを追って

北海道一周ドライブの旅

友の会行事報告　釣り大会

友の会行事報告　紀州一泊研修の旅－熊野古道と熊楠ゆかりの地を歩く－

③野外活動等

会員を対象とした行事を８行事実施した。

○企画展「ヒマラヤ」展示解説　４月29日（木）
　場所：文化の森・博物館企画展示室　18名

○こどもの日フェスティバル「折り紙をつくろう」　５月５日（水）
　場所：文化の森・博物館常設展示室　1,050名

○チリモンをさがそう　６月20日（日）
　場所：文化の森・博物館講座室　21名

○キャンプで自然体験　７月３日（土）～４日（日）
　場所：佐那河内村　悪天候のため中止

○地引き網　７月17日（土）
　場所：阿南市中林町　37名

○文化の森サマーフェスティバル　体験コーナー　８月７日（土）
　場所：文化の森・シンボル広場　1,527名

○魚釣り大会　10月24日（日）
　場所：勝浦川河口　11名

○文化の森大秋祭り　11月23日（火）
　場所：文化の森・博物館企画展示室　1,437名

○和歌山一泊研修　12月４日（土）～５日（日）
　場所：和歌山県田辺市他　17名

○義経（伝説）の道ウォーク　事前研修　１月15日（土）
　場所：文化の森・博物館講座室　21名

○義経（伝説）の道ウォーク　バス研修　１月23日（日）
　場所：小松島市、徳島市　19名

○生物画を描こう　３月６日（日）
　場所：文化の森・博物館実習室他　６名

○ヨモギで草餅をつくろう　３月13日（日）
　場所：文化の森・博物館実習室他　14名

地引き網

４．県民参画活動の推進

(1) ボランティア企画型行事の実施

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員との共同でのイベント企画・実施を22年度も継続した。継続ボランティア10名のメンバーが中心となって１年間の活動を行った。また、22年度は、文化の森開園20周年のイベントの開催に当たって、ボランティアメンバーが当日スタッフとして参加した。なお、Ｖキングイベント当日のボランティアとして、鳴門教育大学および徳島文理大学から４名の学生の協力を得た。

活動の結果は次のとおりである。

①文化の森総合公園開園20周年記念事業への協力

８月７日（土）のサマーフェスティバルには８名が参加し、影絵作り、魚釣りゲームなどで活動した。11月23日（火・祝）文化の森大秋祭りには、６名が参加し、面子、双六などで活動した。

②博物館Ｖキングの開催　２月11日（金・祝）

参加者合計：1,216人

ボランティアが企画し、開催の準備をすすめてきた、「動物カルタ遊び」、「恐竜の大型模型づくり」、「生き物輪投げ遊び」と「クイズラリー」の４つのイベントを行った。

「生き物輪投げ遊び」の様子

「恐竜の大型模型づくり」

⑵ 平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」の実施

この事業は、戦後65年の節目にあたり、地域の視点から「戦争と平和」について考える機会を提供すること、とくに子どもを中心とする若い世代への浸透をはかることを目標としたものである。とくに重点的に取り組んだのは、昭和初期の昭和２年、悪化しつつあった日米関係を憂慮して取り組まれた友好活動の証でありながら、昭和63年に里帰りして以来20年余り徳島県民の目に触れる機会のなかった日本人形「ミス徳島」（アメリカ合衆国ワシントン州芸術文化博物館所蔵）を再び里帰りさせ、人形交流の意義を紹介することであった。

事業の実施にあたっては、県内の博物館施設とともに、国際交流関係団体や学校、国外の博物館等との連携を図るため、実行委員会を組織した。従来にない連携を展開し、地域的な博物館活動の向上につなげることを意図した。その面でも成果があり、博物館運営を支えるネットワークの拡大と進化につながったといえる（事業期間：平成22年５月20日～平成23年３月15日）。

具体的な事業内容は次のとおりである。

●展示

①特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」

会期　７月17日（土）～９月５日（日）

会場　徳島県立博物館

②企画展「図書委員が選ぶ戦争の本」

会期　７月21日（水）～８月29日（日）

会場　徳島県立図書館

③巡回展「海を渡った人形と平和への願い」

会期・会場

９月18日（土）～20日（月・祝）　道の駅　貞光ゆうゆう館

９月23日（木・祝）～10月３日（日）　海陽町立博物館

10月９日（土）～10月17日（日）　松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

●普及交流

①紙芝居＆展示解説

開催日　７月17日（土）・18日（日）・19日（月）・25日（日）、８月15日（日）・29日（日）、９月５日（日）・24日（金）・28日（火）・10月２日（土）・17日（日）

会場　徳島県立博物館、海陽町立博物館、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

②シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」（第３回四国地域史研究大会）

日時　７月25日（日）　12：30～17：00

会場　文化の森イベントホール

③記念演奏＆講演会

日時　８月１日（日）　13：30～15：00

会場　文化の森イベントホール

④アリスの里からこんにちは－神山町神領小学校招待遠足－

日時　８月10日（火）　９：30～12：00

会場　徳島県立博物館

⑤ワークショップ「絵手紙をかこう！」

日時　８月22日（日）　10：00～12：00、13：30～15：00

会場　徳島県立博物館

⑥展示室での恒常的なワークショップなど

ハンズオン・コーナー（徳島県立博物館）

紙芝居、スケッチ、空襲遺物など

ワークシート（特別陳列、巡回展全会場）

⑦ミス徳島お別れ会（展示終了式）

日時　10月17日（日）　16：00～16：30

会場　松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

●調査研究
①答礼人形「ミス徳島」の制作技法・構造調査
期間　平成22年10月26日(火)～平成23年１月18日(火)
●情報発信　ホームページの開設・更新
●事業により作成した印刷物等
①ポスター　Ｂ２判　カラー　10,000枚
②チラシ　Ａ４判　カラー両面　100,000枚
③パンフレット（図録）　Ａ４判　カラー　16ページ　10,000部
④ワークシート　Ａ４判　カラー両面　10,000枚
⑤報告書　Ａ４判　カラー・白黒　112ページ　700部

５．普及教育関係出版物

⑴ 博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。Ａ４判・８ページ（全ページカラー）で9,000部を印刷している。

22年度には次の４号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No.79（2010年６月25日発行）
Culture Club　砕かれた青銅器
特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」
情報ボックス　絵師佐々木家についての資料
館蔵品紹介　ラクダムシ～駱駝蟲～
Q&A　常設展の「藍と阿波の商人」のコーナーに展示されている藍玉とはどんなものですか？

●No.80（2010年９月15日発行）
Culture Club　明治維新と徳島城－守住貫魚の『二行日誌』から－
企画展「藍染めの表象」
文化の森総合公園20周年記念展　軌跡－継続と蓄積－
野外博物館　香川県自然記念物の「木戸の馬蹄石」
速報　博物館の常設展がリフレッシュしました。

●No.81（2010年12月１日発行）
Culture Club　モノに心霊を宿らせる話－いわゆる「依代」について－
企画展「聖地★巡礼　自分探しの旅へ」
情報ボックス　トロトロ石器
野外博物館　特定外来生物に注意!!　セアカゴケグモとアルゼンチンアリ
Q&A　バナナが光るって本当ですか？

●No.82（2011年３月25日発行）
Culture Club　アサギマダラの調査から
企画展「人形・ひとがた－祈りから遊びまで－」
情報ボックス　デジタルデータからレプリカをつくる
野外博物館　吉野川の砂金
Q&A　古文書「飯尾常連奉書」は、以前展示されていた実物と形が違いますが、どうしてですか？

⑵ その他

●徳島の自然と歴史ガイド
徳島の自然と歴史ガイド６「みんなで調べた徳島のタンポポータンポポ調査・西日本2010の結果より－」の印刷を行った。

●年間催し物案内
１年間の普及行事予定を掲載したＢ４判４つ折のリーフレット。８万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内
各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したＡ３判またはＢ４判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き
学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内
博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

６．徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年４月から毎週金曜日の夕刊に「こども新聞」の掲載を開始した。博物館ではこのコーナーの執筆協力や編集協力（話題提供、校閲）を行っている。今年度、博物館の協力により掲載された記事は44本である。(p.43～46を参照)

Ⅲ　情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近はインターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

１．博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内リーフレット・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	200ケ所
中学校	89
高等学校・その他学校	51
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	58
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	34
博物館施設	53
宿泊施設	34
報道関係機関等	77

●催し物案内の電子メールサービス

登録者（22年３月末現在の登録者297名）

●報道機関への資料提供

22年度は次のような資料提供を行った（各月の催し物あんない以外）。

４月20日（火）　博物館こどもの日フェスティバルの開催について

５月21日（金）　部門展示「四国のツキノワグマ」開催について

７月１日（木）　特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」の開催について

７月１日（木）　博物館Ｖキングスタッフ募集について

７月８日（木）　部門展示「徳島の昆虫－旧博物館の資料より－」の開催について

７月14日（水）　特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」の開催に伴うワシントン州ノースウェスト芸術文化博物館からの職員訪問について

８月20日（金）　部門展示「須木一胤　－最後の阿波住吉派－」の開催について

９月15日（水）　企画展「藍染めの表象（ひょうしょう）」の開催について

９月28日（火）　部門展示「国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石」の開催について

10月６日（水）　答礼人形「ミス徳島」のお別れ会の開催について

１月18日（火）　部門展示「館蔵の鏡と古銭」の開催について

１月21日（金）「博物館Ｖキング」の開催について

１月21日（金）　企画展「聖地★巡礼　自分探しの旅へ」の開催について

２月18日（金）　トピックコーナー「四国に初めて漂着したトグロコウイカ」の展示について

３月３日（木）　部門展示「西日本のタンポポ」、「節供の道具」の展示について

３月３日（木）　タンポポ調査の結果について

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

２．テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

４月２日　佐藤陽一　四国放送テレビ（祖谷川で視聴者が釣ったニジマスのアルビノ）

５月７日　小川　誠　ケーブルテレビ徳島（タンポポ調査の紹介）

５月11日　小川　誠　四国放送「おはよう徳島」（タンポポ調査の紹介）

５月28日　茨木　靖　四国放送ラジオ「らじまる」（企画展「ヒマラヤ－自然と人々のくらし」の紹介）

６月１日　佐藤陽一　国府町ケーブルテレビ（「四国

のツキノワグマ」について）
6月23日　佐藤陽一　四国放送テレビ「おはようとくしまプラス」（木沢で撮影されたハクビシンについて）
7月14日　長谷川賢二　四国放送テレビ「おはようとくしまプラス」（特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」の紹介）
7月29日　佐藤陽一　四国放送テレビ「おはようとくしまプラス」（海陽町で撮影された白いスズメについて）
8月22・23日　長谷川賢二　AIテレビ「テレビミュージアム：海を渡った人形と戦争の時代」
9月29日　佐藤陽一　四国放送テレビ（青いアマガエルについて）
10月28日　山田量崇　四国放送テレビ「おはようとくしまプラス」（スズメバチについて）
11月19日　佐藤陽一　FMくらしき（博物館の展示・イベントの紹介）
3月2日　長谷川賢二　NHK（徳島）ニュース（企画展「聖地★巡礼」の紹介）
3月3日　長谷川賢二　FMびざん「Jeudi-huit／ジュディ・ウィット」（企画展「聖地★巡礼」の紹介）
3月9日　長谷川賢二　徳島中央テレビ「とくしまアート・カルチャー」（企画展「聖地★巡礼」の紹介）

3．インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール（以下メール）による催し物案内を毎月行っている（22年3月末現在の登録者297名）。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。22年度には5件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページhttp://www.museum.comet.go.jp/を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたためにホームページはhttp://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。

・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
・展示案内（企画展、常設展）
・催し物、普及行事の案内
・調査研究活動の紹介
・収集保存活動（データベース）
・学校等への利用案内
・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
・学芸員関連のページ
・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の各分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている、22年度の主な追加内容については下記のとおりである。

・22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」に関する情報等を掲載した。

22年度1年間でトップページに約40,000件のアクセスがあった。

4．外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

18年度より国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット（http://science-net.kahaku.go.jp/）で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収蔵品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産維管束植物のデータを整備し提供

した。日本語の検索およびGBIF（Global Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構）のデータとしても横断検索できるようになった。

５．情報システムの概要

平成17年度には４期目となるCOMET（徳島県文化・学習情報システム）のコンピュータシステム更改が行われた。22年度はその運用開始６年目にあたる。21年度はシステムの更新に向け、検討作業を行った。システムの構成は下記のとおりである。

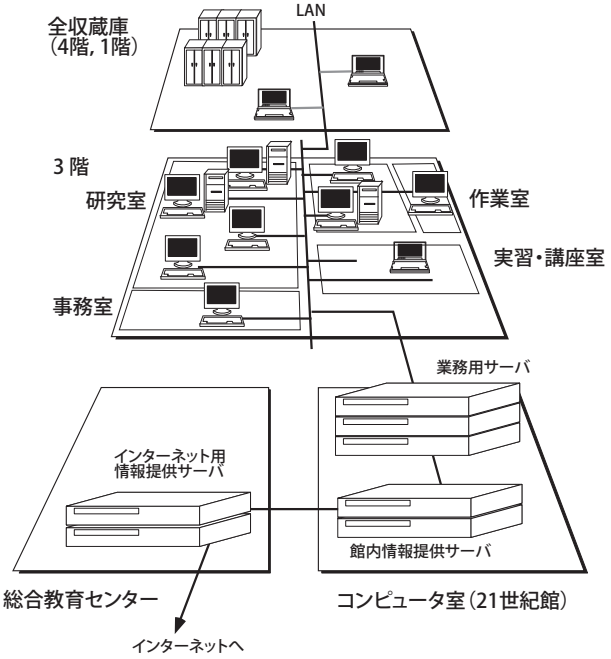
博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の２つに大別できる。４期目の博物館システムの更改については次のような方針で臨んだ。

・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
・情報提供はインターネットを用い、ブロードバンド（大容量通信）や携帯電話等の新しい通信手段に対応する。

その結果、次のような構成で４期システムを運用することになった。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット(1000BaseT)のLANでつないだ。ファイルサーバ（MacOSXサーバ）とデータベースサーバ（FileMaker Server８）の２台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐するSE（システムエンジニア）によって毎日バックアップがとられている。職員１人に１台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを１台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるようにMacOSXサーバとFileMaker　Server 8 AdvancedによるWebデータベースを構築し、新聞記事データベースを公開した。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを２組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した。

Ⅳ　シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会等に貢献する活動を行うことは、博物館の重要な役割であると考え、博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んで行くことにしている。

１．レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生､教職員､行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Ｅメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

22年度に行ったレファレンス件数は479件で、分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより２～３割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが40％でもっとも多く、次いでマスコミ・出版関係が28％、博物館・図書館・官公庁が11％、高校生以下の生徒・教員・教育委員会関係が８％、大学（院）生・研究者が４％、その他が９％であった。

●分野別レファレンス件数(平成23年３月31日現在)

分　　野	件　　数
動物（脊椎）	71
（無脊椎）	40
（昆虫）	70
植　　物	54
地　　学	100
考　　古	9
歴　　史	87
民　　俗	28
美術工芸	0
保存科学	0
そ の 他	20
合　　計	479

２．各種委員会委員等の受諾

22年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

大原賢二
- 日本博物館協会評議員
  （平成22.４.１～１年間）
- 徳島県博物館協議会会長
  （平成22.４.１～１年間）
- 東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
  （平成16.８.16～）
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
  （平成21.７.１～24.６.30）

佐藤陽一
- とくしま川づくり委員会委員
  （平成12.12.15～22.６.30）
- 徳島県ビオトープアドバイザー
  （平成14.４.11～24.３.31）
- 東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
  （平成16.８.16～）
- 徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
  （平成19.４.１～24.３.31）
- 徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
  （平成21.12.１～24.３.31）
- 徳島県版レッドリスト改訂のための汽水・淡水魚類作業部会長
  （平成21.12.１～24.３.31）
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
  （平成９.７.１～24.６.30）
- 環境省中国四国環境事務所「平成22年度中国四国地方里地里山における淡水魚類保全特別総合点検業務検討会」委員
  （平成22.７.６～23.３.31）
- 国土交通省四国地方整備局「河川・渓流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」
  （平成19.４.26～23.３.31）

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員
（平成23．2．8～25．3.31）
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
（平成15．4．1～）
小川　誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
（平成19．4．1～24．3.31）
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
（平成21．4．1～24．3.31）
中尾賢一
日本第四紀学会徳島大会実行委員
（平成22．4.12～平成23年度）
茨木　靖
東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
（平成16．8.16～）
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成21.12．1～24．3.31）
辻野泰之
独立行政法人産業技術総合研究所「協力研究員」
（平成22．4．1～23．3.31）
社団法人日本地質学会「友の会検討ワーキンググループメンバー」
（平成22．6．1～）
山田量崇
徳島県田園環境検討委員会委員
（平成22．1.15～24．1.14）
国土交通省四国地方整備局「河川・渓流環境アドバイザー」
（平成22．7.20～23．3.31）
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員
（平成23．2．8～25．3.31）
高島芳弘
徳島市立考古資料館協議会委員
（平成21．7．1～23．6.30）
徳島県中世城館跡総合調査調査員
（平成21．7．1～23．3.31）
長谷川賢二
日本博物館協会常務委員
（平成21．4．1～22．6.10）
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
（平成19．5．1～）
徳島県中世城館跡総合調査調査員
（平成21．7．1～23．3.31）
新宮市文化複合施設展示計画専門委員会委員
（平成22．7．6～）
日本山岳修験学会理事
（平成21.11月～23.11月）
魚島純一
三重県職員（学芸員）の採用選考に係る試験員
（平成22.10．1～22.11.21）
庄武憲子
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料館協議会委員
（平成21．4．1～23．3.31）
阿南市史民俗編執筆委員
（平成22．6．1～23．3.31）
地域伝統文化総合活性化事業「海部の古い町並み調査事業」調査指導委員
（平成23．1．4～25．3.31）
磯本宏紀
阿南市史民俗編執筆委員
（平成22．6．1～23．3.31）
新鳥取県史編さん調査委員
（平成22．4．1～23．3.31）
地域文化総合活性化事業「調査指導委員」
（平成23．1．4～25．3.31）

3．講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「Ⅱ普及教育」の「２学校教育支援事業」に記載している（p.22）。

４月６日　長谷川賢二
徳島西ロータリークラブ例会で卓話「四国遍路の始まり」（徳島東急イン）
４月14日　長谷川賢二
徳島県自治研修センター「平成22年度新規採用職員研修　人権問題Ⅱ・Ⅲ（歴史／行政）」で講演「近代部落史と私たちの課題」
５月19日　長谷川賢二
徳島県立二十一世紀館「平成22年度文化の森新任及び転任職員人権研修会」で講演「部落史と私たちの課題」
５月22日　庄武憲子
阿南文化協会で講演「阿南市の正月飾り」
６月４～５日　中尾賢一
第13回九州第四紀露頭見学会「四国巡検：四国のネ

オテクトニクスを体感しよう！」講師（高知県室戸市、安田町、徳島県阿波市、三好市）
6月12日　佐藤陽一
園瀬川流域環境保全の会講演会で講演「徳島と園瀬川の淡水魚」（徳島市上八万コミュニティーセンター）
6月16日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」、「参詣・巡礼の歴史的展開」（徳島県立総合福祉センター）
7月1日　佐藤陽一
正法寺川を考える会「平成22年度体験型ふるさとの川環境観察学習会」正法寺川の魚かんさつ会講師（藍住町、正法寺川）
7月26日　高島芳弘
桑野ふるさと研究会で講演　大むかしの那賀川流域
7月28日　魚島純一
徳島県立文書館「平成22年度古文書保存研修」で講演「文書資料の保存科学」
7月29日　長谷川賢二
徳島大学「平成22年度社会教育主事講習」で講演「博物館の運営」
8月11日　佐藤陽一
阿南市中野島公民館「岡川の魚かんさつ」講師（阿南市柳島町、岡川）
10月6日　辻野泰之
徳島大学大学開放実践センター「徳島再発見」で講演「徳島とその周辺地域より産出するアンモナイト化石」
10月16日　長谷川賢二
四国大学「オープンカレッジ：奈良を旅する」で講演「奈良と中世の庶民信仰」
10月20日　長谷川賢二
日本ガスタービン学会定期講演会で講演「四国遍路の源流をさぐる」（アスティとくしま）
11月24日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「寺社縁起の世界」、「戦国軍記の歴史意識」（徳島県立総合福祉センター）
12月1日　山田量崇
第55回四国植物防疫研究協議会大会で講演「役に立つカメムシの話－農業生態系で見られるハナカメムシの分類と生態－」（阿波観光ホテル）
12月5日　高島芳弘
徳島県立埋蔵文化財総合センター　弥生時代の徳島調査成果報告会で講演　若杉山遺跡－県南の弥生時代遺跡について－
12月11日　長谷川賢二
徳島城址を愛する会「徳島城を愛するセミナー」で講演「近世・近代における阿波の歴史研究の展開」（徳島市中央公民館）
12月24日　小川　誠
徳島県教育研修センター「農業指導技術向上セミナー」で講演「グーグルマップを利用した簡単分布図作成方法」
1月18日　佐藤陽一
正法寺川を考える会「平成22年度体験型ふるさとの川環境観察学習会」正法寺川の魚出前講座講師（藍住北小学校）
1月21日　大橋俊雄
徳島市立徳島城博物館「阿波の文学と歴史セミナー」で講演「守住貫魚の見た明治時代」
1月27日　佐藤陽一
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所で講演「徳島県の淡水魚」（徳島市川内町）
2月20日　中尾賢一
福井県立恐竜博物館　博物館セミナーで講演「連携博物館講座：鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石」
2月26日　長谷川賢二
徳島県文化財保存整備市町村協議会平成22年度第2回研修会で講演「四国遍路の形成」（阿南市文化会館）

4．大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

22年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次のとおり。

長谷川賢二
鳴門教育大学嘱託講師（博物館特論）
（平成22．4．12～23．3．31）

魚島純一
四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成22．4．3～22．9．30）

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希

22年度　博物館実習カリキュラム

		A　班　（8名）		B　班　（9名）	
		実習名	担当者	実習名	担当者
8/24(火)	午前	館長あいさつ ガイダンス・館内施設見学	大原 大橋	同左 同左	同左 同左
	午後	博物館での資料保存と IPM	魚島	図書資料の整理	中尾
8/25(水)	午前	標本の名前をつける会	辻野	博物館利用者調査	長谷川
	午後	同上	同上	同上	同上
8/26(木)	午前	美術資料の取扱	大橋	博物館資料の X 線透過撮影	魚島
	午後	市民調査と博物館	小川	同左	同左
8/27(金)	午前	魚調査と標本作り	佐藤	民俗等資料の整理	磯本
	午後	普及業務・展示解説	森・向原	同左	同左
8/28(土)	午前	植物資料の整理	茨木	美術資料の取扱	大橋
	午後	同上	同上	企画展展示具等の準備	庄武

午前（9：30〜12：00）、午後（13：00〜16：00）および、実習ノート記入、提出（16：00〜17：00）

望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに受け入れることにしている。

22年度は、8月24日(火)〜28日(土)に実習生の受け入れを行った。実習生は17人で、大学別の内訳は次のとおりである。

大阪教育大学	1人	岡山大学	1人
高知大学	1人	東京農業大学	1人
神戸大学	1人	四国大学	3人
徳島大学	2人	徳島文理大学	1人
鳴門教育大学	5人	奈良大学	1人

カリキュラムは表のとおりである。実習生を AB 2班に分け、学芸員と普及課職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。なお、別に11月16日(火)〜26日(金)の間、北海道開拓記念館の依頼により、同館職員杉山智明氏の博物館実習を受け入れた。

博物館実習

5．学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

21年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●みどりクラブ例会

開催日：毎月土曜日(不定)
会　場：博物館講座室
参加者：10名程度

●双翅目談話会第15回総会

開催日：4月3日(土)
会　場：博物館講座室・実習室
参加者：30名

●徳島地域文化研究会・第8回総会および第13回例会

開催日：5月8日(日)
会　場：博物館講座室
参加者：9名

●NPO法人　西日本自然史系博物館ネットワーク総会

開催日：2月6日(日)
会　場：博物館講座室
参加者：13名

【研究発表会と講演】「2010年代の自然史系博物館を求めて」

1）海外報告：子どもの環境理解に向けたアメリカでの取り組み
　赤澤宏樹氏(兵庫県立人と自然の博物館研究員)

2）事例報告：愛媛県総合科学博物館における指定管理者制度の導入について
　岩田憲二氏（同館学芸課長）

３）タンポポ調査でわかった西日本のタンポポ
鈴木　武氏（兵庫県立人と自然の博物館）

⑵ 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ

植物に関心のある県内同好者が、毎月１回（土曜日の18：30から）、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約25名で、毎回10～15名の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学(年２回)、機関誌『四国中世史研究』の刊行（隔年１冊）を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年３回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の刊行（年刊）等を行っている。

６．博物館ネットワーク

⑴ 四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館（園）が加盟している。４県が持ち回りで２年ずつ事務局をつとめることになっている。

22年度の役員会及び総会は次のとおり、香川県立ミュージアムで開催された。

●22年度役員会・総会

日時：７月29日(木)　役員会10：30～､総会13：30～
会場：香川県立ミュージアム　研修室
議事：平成21年度事業報告及び決算報告について
役員改選について
平成22年度事業計画及び予算について
その他
講演：藤好史郎氏（香川県教育委員会生涯学習・文化財課主幹）
演題：「四国遍路の世界遺産登録について」

●研修・視察

日時：７月30日(金)　９：30～12：00
場所：香川県立ミュージアム　研修室
内容：日本博物館協会からの本部報告
視察：香川県立ミュージアム
特別展「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展輝くわざと美－日本工芸のいま」ほか視察

⑵ 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成８年２月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成22年３月末現在では51館になっている。当館が事務局をつとめている。

22年度事業

①役員会の開催
６月２日(水)､徳島県立博物館応接室にて開催した。

②総会の開催
日時：６月２日(水)　14：30～16：30
場所：徳島県立博物館講座室
議事：21年度事業報告及び決算報告
21年度監査報告
22年度役員選出
22年度事業計画及び会計予算
その他
講演：平田慎一郎氏（きしわだ自然資料館学芸員）
「みんなで育て、みんなで楽しむミュージアムをめざして」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧を作成して配布した。

④徳島県博物館協議会ニュースの発行
No.34、35、36を発行・配布した。

⑤研修会の開催　参加者16名
日時：11月７日(日)　13：30～16：30
場所：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
内容：鳥居龍蔵記念博物館展示見学、博物館企画展「藍染めの表象」展示見学
講演：吉開将人氏（北海道大学准教授）
「民族史学者鳥居龍蔵－台湾・南中国への眼差し」

⑥先進地調査の実施　参加者14名
場所：地中美術館(香川県直島町)、香川県立ミュージアム（高松市）

⑶ 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成８年に結成された。現在、31機関・団体が加入している。22年度は、徳島市で第15回総会が開催された（９月８～９日)。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣

ワークショップ「どこまで使える100円グッズ」（大阪市立自然史博物館、９月27日開催）

してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

⑷ 西日本自然史系博物館ネットワーク

12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが16年４月27日付けで設立され、110名の学芸員や博物館関係者が参加している。

22年度（事業年度は１月～12月）は、地域自然環境情報提供事業として収蔵品データベース整備事業と自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会（２回）、博物館連携推進事業として標本救済ネットワークショップとフォーラム「2010年代の自然史博物館を求めて」を開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座を開催し、プラスティック封入標本作製講座や100円ショップグッズを使った自然観察と展示に関するワークショップである「どこまで使える100円グッズ」などを行った。展示企画事業として鳴く虫巡回展を開催した。

また、平成23年２月６日には総会および研究発表会と講演会を当館で開催した（p.34参照）。

Ⅴ　調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

１．課題調査

22年度は、次の３つの課題調査を行った。

⑴ 剣山系の昆虫相

剣山系における昆虫相の調査は古くから行われてきているものの、一部のグループに限られたものが多いため、種の分布記録などの基礎データは不十分である。剣山系における昆虫類のインベントリー作成を目的として、昨年度に引き続き半翅類と蛾類のモニタリング調査を行った。剣山系の昆虫相の多様性を解明するとともに、情報や資料の蓄積が進めば、当該地域の環境保全活動等に基礎資料を提示できることが期待される。３年目にあたる本年度は夏期において重点的に調査を実施した。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）、山田量崇（動物）
館外調査者：林　正美（埼玉大学教育学部教授）、
広渡俊哉（大阪府立大学大学院准教授）

●調査の概要及び成果

８月８～９日　吉野川市、東みよし町～三好市（落合峠、見ノ越峠）、神山町など

８月22～24日　神山町、那賀町（スーパー林道）など

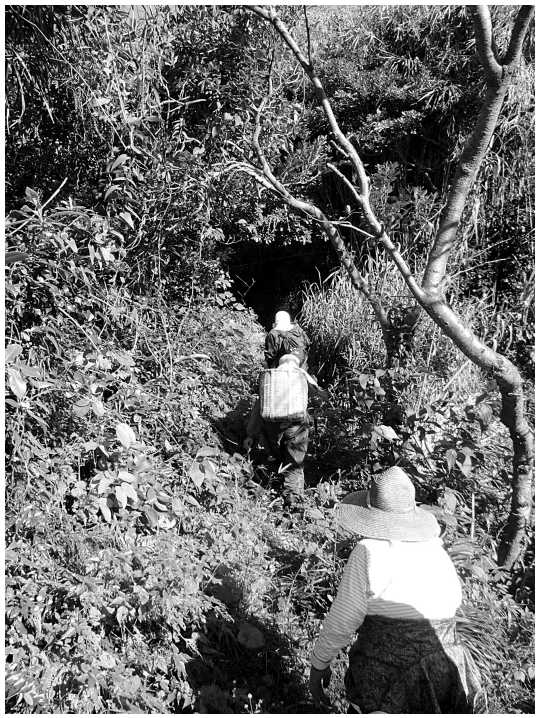
11月12日　那賀町

※８月８～９日は林氏、大原、山田が（９日は林氏と大原のみ）、８月22～24日は広渡氏と山田がそれぞれ調査した。11月12日は山田が調査した。

調査では、日中の任意調査と夜間の灯火採集によって多数の資料を収集した。灯火採集により、四国では採集例が少ない小蛾類の追加個体が得られた。また、四国新記録となるチビガ類も採集された。半翅類においては、最近徳島から見つかった熱帯アジア原産のヘクソカズラグンバイについて、その分布状況も併せて調査した。平地では普通に見られるものの、剣山系のような高標高地域にはまだ侵入していないことがわかった。分布拡大経路を明らかにするために来年度以降も引き続き調査を実施する予定である。

⑵ 徳島県の離島における図像民俗誌作成のための調査

本調査は、徳島県の離島である伊島、出羽島における海や山での環境利用と生業・生計について、その特徴を明らかにすることを目的とした。具体的には、磯漁や山の耕地利用状況と慣行について調査し、自給目的で生産される海産物や農産物のための環境利用について明らかにした。



地元の方の協力の下、伊島におけるヤマの畑の調査を行う（2010年11月）

ところで、一般に民俗誌は文字情報を中心に記述されるものである。これは、従来聞き取り調査および観察調査が主であったためである。しかし、本調査では過去において撮影された写真、スケッチ等の画像資料を積極的に調査、収集することにより、具体的な景観把握や動態把握を目指し、画像情報を多く取り入れた民俗誌作成のための調査を実施した。

なお、本調査は、15～16年度に実施した課題調査「潜水漁業の現在とその環境利用」での伊島、出羽島における民俗調査の成果をうけて、これを発展させるための調査と位置づけた。

●調査メンバー

博物館学芸員：磯本宏紀（民俗）
館外調査員　：小島孝夫（成城大学文芸学部教授）
館外調査員　：高橋健一（日本民俗学会会員）

●調査日程および調査地

８月３日～６日　海部郡牟岐町出羽島における民俗調査
11月４日～６日　阿南市伊島における民俗調査

●調査方法と内容

①調査地における聞き取り調査
・耕地利用の変化および耕地の運用法
・自給用の食物としての野草や貝類、海藻類およびその調理法
・自給用の食物その他の採取および海藻等の活用事例
②調査地における写真等画像資料の調査および収集
③空中写真等による比較分析
④関連文献、史資料の調査

⑶ 星河内美田銅鐸の復元

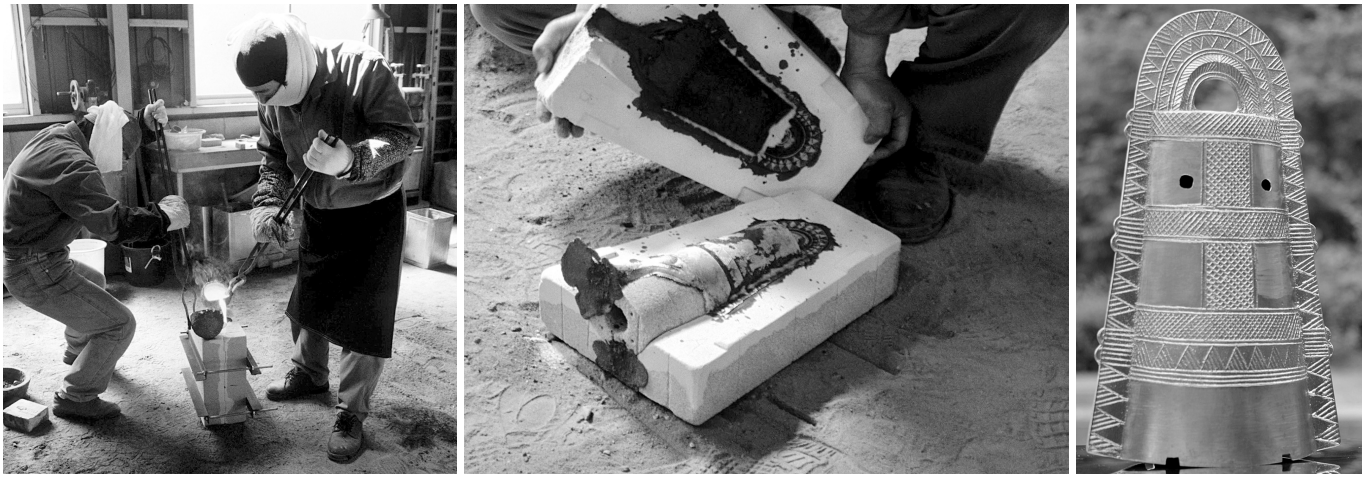
星河内美田銅鐸（徳島市上八万町出土）は、1932年の出土後まもなく細片に破壊され、４ヶ所に分散されて保管されたため、形式などについても不明な点があり、一部の研究者をのぞいて一般にはもとの形を想像することすらできない状態となっていた。これまでに、平成12年度には「復元銅鐸の製作に関する基礎調査」を、平成14年度には「星河内美田銅鐸の復元に関する基礎調査」を、それぞれ課題調査として行ってきた。これまでの成果を活用し、星河内美田銅鐸を、一般県民にも容易に原状を理解できるようにするため復元鋳造し展示資料などとして活用することとした。

●調査メンバー

博物館学芸員：魚島純一（専門学芸員、調査主担者）、高島芳弘（副館長）
館外協力者：難波洋三（独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所）、小泉武寛（金属工芸家、京都府乙訓郡大山崎町在住）

●調査の概要

⑴　復元図の作成
これまでの調査成果に基づき復元鋳造のための原状復元図を作成した。
⑵　復元図の検討・修正
難波氏、小泉氏とともに復元図の検討をおこない、必要に応じて修正を加えた。
⑶　復元銅鐸の製作・記録
小泉氏の工房において星河内美田銅鐸の復元鋳造を行った。



課題調査「復元銅鐸」の様子。左：鋳込み、中：型はずし、右：復元された銅鐸

２．分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②アサギマダラの移動調査

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県産淡水魚類相調査

吉野川水系の鮎喰川などで調査を行った。

②カワバタモロコの保全生物学的研究

徳島県産カワバタモロコの生息環境が悪化しているため、昨年度に引き続き鳴門市で避難地選定のための溜池の環境調査を実施した。

③徳島県産オヤニラミ保全対策の検討

昨年度に引き続き、徳島県産オヤニラミの遺伝的分化の状態を把握するため、徳島県産サンプルのDNA 解析を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①ハナカメムシ科の系統分類学的研究

東南アジアおよびインドの材料をもとに生物多様性保全の観点から本科の系統分類学的研究を行った。

②農業害虫の天敵としての半翅類の探索と利用に関する研究

熱帯アジアと我が国の生物的防除研究へ基礎資料を提示すべく、難同定分類群の簡易的な同定法の構築を目指した研究を行った。

③剣山系の昆虫相調査

半翅類と小蛾類を対象にインベントリー作成をめざした標本の収集を行った。

④外来昆虫の分布拡大経路の解明

徳島に侵入した外来カメムシ類の分布拡大経路を追跡調査した（加藤敦史氏と共同）。

⑤県産無脊椎動物相の調査

海産および汽水産甲殻類、クモ類の標本収集を行った。

小川　誠（植物）

①タンポポの分布調査

タンポポ調査2010・西日本に関連し、タンポポ調査2010・徳島県実行委員会と連携し、県内のタンポポ調査を行った。その結果を元に、解説書の作成や展示を行った。

②県産植物相の調査

22年度阿波学会の調査の一環として、つるぎ町一宇地区の植物相調査を行った（木下　覚氏らと共同）。

③市民参加型調査における分布情報の記録方法の研究

タンポポ調査などの市民参加型調査においては分布情報を記録し、調査結果を共有するシステムが必要である。インターネットを使い、経緯度情報を記録したり、Google マップを使って調査結果を共有する方法を探った。

茨木　靖（植物）

①県産植物相の調査

県南部を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関しての調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池渕正明氏と共同）。

中尾賢一（地学）

①鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県、熊本県、長崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集および二枚貝類の分類学的研究を行った。

②つるぎ町一宇地域の地質に関する研究

平成22年度阿波学会の調査の一環として、つるぎ町一宇地域の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

③鮮新世後期以降の貝類に関する古生物地理学的研究

「大陸沿岸系貝類」とよばれている貝類群について古生物地理学的検討を行った。

辻野泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究を行った。

②牟岐町から産出したアンモナイト化石に関する研究

牟岐町の四万十帯より産出した後期白亜紀アンモナイトについての分類的研究（石田啓祐氏らと共同）。

③高知県佐川町から産出したアンモナイトイ化石に関する研究

高知県佐川町の川内ヶ谷層群より産出した三畳紀アンモナイト化石の分類学的研究（重田康成氏・三本健二氏と共同研究）。

④那賀町北川地域の地質に関する研究

那賀町北川地域の地質図を作製ための研究（産業技術総合研究所と共同）。

⑤つるぎ町一宇地域の地質に関する研究

平成22年度阿波学会の調査の一環として、つるぎ町一宇地域の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

高島芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

阿南市の津乃峰山中腹の岩屋周辺の採集資料の確認及びここと若杉山遺跡の中間地帯での、石杵の採集を通じて、朱の採掘遺跡の広がりを追求した。

②中世城館総合調査

徳島県教育委員会の中世城館総合調査の調査員を引き受ける。担当地域は阿南市。本年度はまとめ(須藤茂樹、福永素久、向井公紀と共同)。

③矢野遺跡での分析を中心に徳島県における縄文集落のあり方を検討した。

魚島純一（保存科学・考古）

①博物館資料の虫菌害からの防除に関する研究

これまでに実用化してきた方法に加え、二酸化炭素による殺虫処理について検討し、民俗資料等への実用化が可能であると判断し導入することとした。

また、植物標本に行ってきた低温処理の効果が十分に確認できない事例が増えてきたことから、低温処理による殺虫処理をとりやめることとした。

②青銅器の破砕方法に関する研究

復元青銅器を破砕する実験等を通して、出土する破砕青銅器の破砕方法に関する検討を行った。

また、引き続き出土した破砕されたと思われる青銅器片との比較検討も行った。

③発光ダイオードを使った照明器具の耐久性の検証および新規導入の検討

一昨年度、一部の展示ケース内に試験的に導入した発光ダイオード（LED）を使った照明器具（スポットライト）の耐久性について引き続き検証を行った。これまでの照明の場合、年に１回から数回の交換が必要であったが、発光ダイオードの照明器具に換えて以降、これまでのところ交換が必要な状況はおこっておらず、実用化のメリットが十分に確認されたため、LED を用いた照明器具の新規導入について検討し、常設展示室・企画展示室用のスポットライト等として導入することとした。

④外部依頼による調査、保存処理等

・徳島県教育委員会の依頼を受け、出土遺物の保存処理を行った。
・鳴門市教育委員会の依頼を受け、塩業関係資料の保存処理を行った。
・つるぎ町教育委員会の依頼を受け、板碑の応急保存処理を行った。
・徳島県立文書館などの依頼を受け、棟札等の赤外線 TV カメラでの調査を行った。
・県内文化財保存関係者などの依頼を受け、保存環境の整備等に関する指導等を行った。

長谷川賢二（歴史）

①中世阿波の「山の寺」の研究

文献史料に見られる中世阿波の「山の寺」の事例について、空間構成、組織、地域社会における位置づけを中心に検討した。

②百鬼夜行絵巻の検討

近年の百鬼夜行絵巻関係の研究成果を参照し、館蔵「化もの絵巻」の資料的位置づけについて検討し、見通しをまとめた。

③文献史料にもとづく中世城館の調査

徳島県教育委員会による中世城館跡総合調査の一環として、文献史料の調査を行った。

庄武憲子（民俗）

①阿波藍に関する調査

22年度第２回企画展「藍染めの表象」開催にあたって、阿波藍の全国展開に関する資料の調査、生産過程に関係する資料の調査を行った。

②阿南市史編さん事業に関する調査

富岡町、橘町、羽ノ浦町岩脇・古庄の過去と現在の比較、町内会組織の変遷の様子など、町の暮らしに関する事例収集を行った。また、年中行事についての聞き取り調査、撮影記録などを行った。

③三番叟まわし・えびすまわしに関する調査

阿波木偶箱廻し保存会と協力して、神山町において三番叟まわし・えびすまわしについての聞き取り調査を行った。

④盆棚習俗の記録

徳島市丈六町、阿南市長生町でみられる盆棚でのまつりの聞き取り調査、撮影記録を行った。

⑤徳島城下の年中行事に関する調査

徳島地域文化研究会のメンバーと共同で、徳島城下の元武家に伝わる年中行事についての聞き取り調査を行った。

磯本宏紀（民俗）

①阿波漁民の漁業移住に関する民俗学的研究（科研費助成による研究）

近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。漁業移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

②徳島県の離島における図像民俗誌作成のための調査（課題調査）

③三番叟まわし・えびすまわしに関する調査

阿波木偶箱廻し保存会と協力して、海陽町、美波町、上勝町において三番叟まわし・えびすまわしについての聞き取り調査を行った。

④阿南市史編纂事業に関する調査の内「社会生活」に関する調査

⑤有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究（神奈川大学日本常民文化研究所常民文化奨励研究による共同研究者）
⑥鳥取県史編纂事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査

大橋俊雄（美術工芸）

①森崎家資料に関する調査
　館蔵の森崎家資料は、17世紀末から19世紀におよぶ、阿波藩の御用絵師家が伝えた粉本類の集積である。粉本とは、師匠の作品や有名な絵などを写し取った手控えで、絵師が実製作にあたって参考とした。これらの整理を進めながら、当地域における絵画製作のあり方、文化の一面を検討した。
②飯塚桃葉に関する調査
　飯塚桃葉は、18世紀後半に活躍した阿波藩の御用蒔絵師。近年の研究動向、新作品の発見をふまえ、より具体的な位置づけを検討した。
③８・19世紀における阿波の美術
　10藩主蜂須賀重喜から12代藩主斉昌までの時期は、阿波の美術において注目すべき人々が現れ、さまざまな現象がみられた。その内容を具体的にとらえることを目指した。

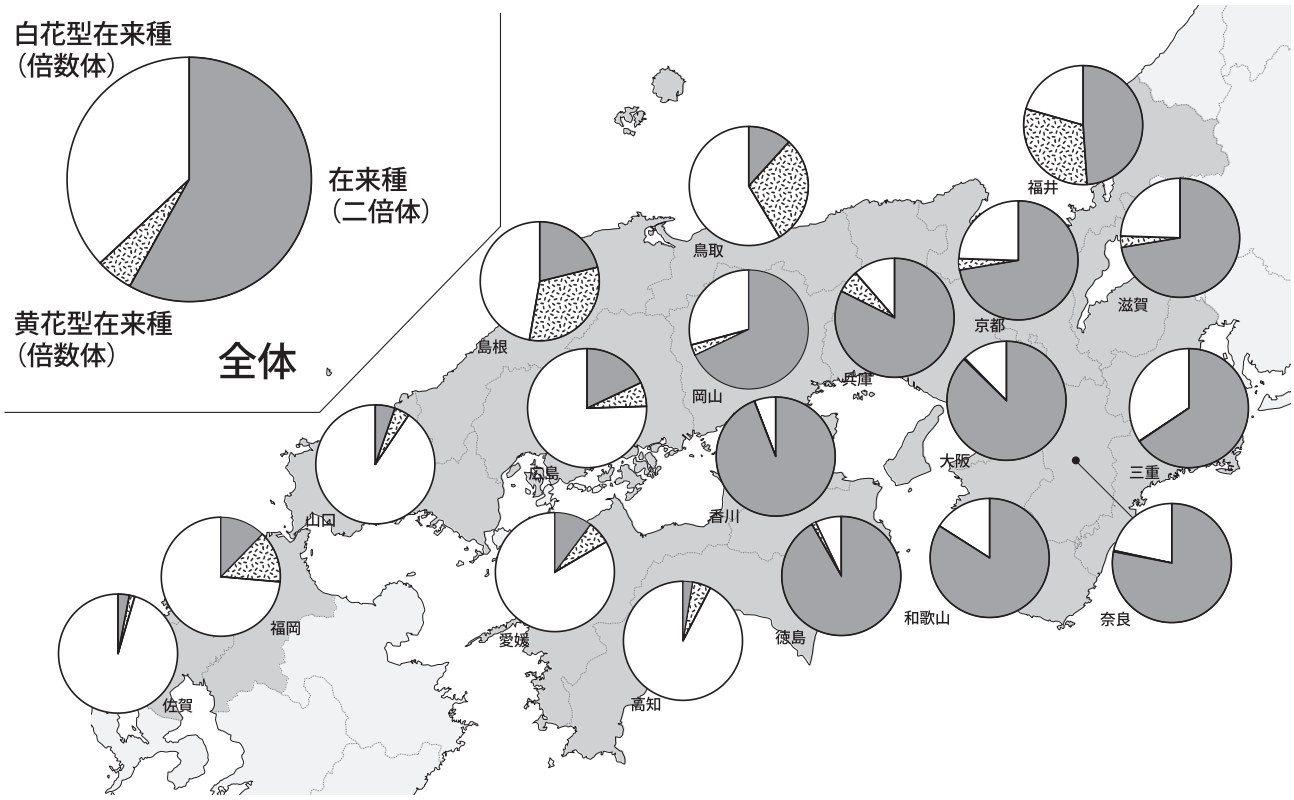
３．科学研究費補助金等による研究

●若手研究(B)：東南アジアにおけるハナカメムシ類を含む生物的防除資材の探索と簡易同定法の構築（平成20～22年度）
研究代表者：山田量崇
●若手研究(B)：「アワ船」による漁民移動と漁業移住の類型化に関する民俗学的研究（平成22～25年度）
研究代表者：磯本宏紀
●基盤研究(C)：最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立：その時期と古環境背景（平成22～24年度）
研究代表者：近藤康生（高知大学理学部教授）
当館の分担研究者：中尾賢一
●基盤研究(B)：日本中世における「山の寺」（山岳宗教都市）の基礎的研究（平成20～23年度）
研究代表者：仁木　宏
（大阪市立大学大学院文学研究科教授）
当館の連携研究者：長谷川賢二
●神奈川大学日本常民文化研究所「常民文化奨励研究」：有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究（平成22～23年度）
研究代表者：樫村賢二（鳥取県立公文書館）
当館の共同研究者：磯本宏紀

４．他機関との共同研究

タンポポの分布調査

　身近な花であるタンポポの分布を調べ、環境の変化などを西日本一帯で調べる取り組み「タンポポ調査2010・西日本」を他機関と協働して行った。
　徳島県では、いままでに全県にわたってのタンポポ調査は実施されたことがない。そこで、①徳島県におけるタンポポの詳細な分布を記録し、継続的に調査することで、自然環境の変化をとらえる、②ヤマザトタンポポを含めて徳島県に分布するタンポポの種類を明らかにする。③在来種と外来種の雑種の現状を明らかにする、④調査を通じて、参加者の自然環境への関心を高めることを目的に、タンポポ調査西日本に参加することにした。
　22年度は本備調査の年となり、調査範囲は福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀の19府県にわたった。各府県で実行委員会を立ち上げたが、徳島県では当館の小川と茨木が事務局となり、米澤義彦氏(鳴門教育大学)を委員長とし、森本康滋氏（徳島県自然保護協会会長)、木下　覺氏（徳島県植物研究会会長）をメンバーとして徳島県実行委員会を結成した。
　調査期間は2010年３月１日～５月31日で、子どもから大人まで誰でも参加でき、参加者は調査用紙に場所などの必要事項を記入し、花（あればタネも）を事務局宛てに送る。事務局で花粉を検鏡し、同定した後データを入力して西日本全体で分布図を描いた。調査用紙は博物館で配布したり、ホームページからダウンロードできるようにした。2010年４月25日には一般向けの野外説明会を開催した。
　調査にあたり、ホームページ(http://gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo/)を開設し、説明会などのアナウンス、調査方法の解説、結果の公表を行った。GoogleMapや電子国土などを使って分布図を表示する手法を開発し、すみやかに結果を伝えることができようになった。また、調査方法について分かりやすく説明するために、イラストを多用した調査用紙を作成し試験的に配布した。この改良した調査用紙は本調査の調査用紙のベースとなった。
　この調査で徳島県実行委員会に集まった調査用紙は7,370枚であった。2010年の調査で集まった用紙としては、参加した府県の中で最多であった。記載された氏名から判別できた参加者は約500名で、小学生から大人までの参加があった。県内の産地が多かったが、県外や国外のサンプルも寄せられた。徳島県では全体



西日本における各府県ごとのタンポポの割合

の49.2%のメッシュについてタンポポの報告があった。これは香川県に次いで２位となっており、よく調査されたことを意味している。

調査で得られた資料に基づき、徳島県のタンポポの分布が明らかになった。セイヨウタンポポとアカミタンポポの果実がないと判別が難しく、外部形態から在来種との雑種の判別は困難であるために、雑種を含めて外来種として扱った。予備調査で集まったのはカンサイタンポポ、シロバナタンポポ、クシバタンポポ、セイヨウタンポポ、アカミタンポポで、ヤマザトタンポポは見つからなかった。外来種との雑種と思われる個体は広い地域で見られた。

西日本全体から見た徳島県のタンポポの特徴としては、二倍体在来種であるカンサイタンポポの割合が西日本で徳島県が一番多いことである。カンサイタンポポは自然がよく残っている場所に多いと言われているが、それが多いと言うことは徳島県が西日本の中でも自然環境が良いことを示しているのかもしれない。

これらの結果は、調査の報告書としてホームページ（http://www.nature.or.jp/Tampopo2010/）からダウンロードできる。３月23日（水）～５月15日（日）は部門展示「西日本のタンポポ」として調査成果を展示するとともに、ミュージアムトーク「みんなで調べたタンポポの分布　－タンポポ調査・西日本2010の結果より－」（３月27日（日））や部門展示「西日本のタンポポ」展示解説（同日）を行った。

さらに解説書である徳島の自然と歴史ガイド６「みんなで調べた徳島のタンポポ－タンポポ調査・西日本2010の結果より－」の作成を行い調査成果を県民に還元した。

５．研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第21号の発行

2011年３月31日発行、Ｂ５判33ページ、1100部

（＊は館外研究者）

論文

Tsujino, Y., Shigeta, Y.* & Mimoto, K.* : Discovery of Late Triassic ammonoid *Arcestes* in the Kochigatani Group, Sakawa Town, Kochi Prefecture, Japan. p. 1 -10.

調査記録・資料紹介

大原賢二・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2010年）．p.11-16.

長谷川賢二：徳島県立博物館所蔵「化もの絵巻」について　－百鬼夜行絵巻の一事例－．p.17-26.

短報

清水克洋*・清水正仁*・坂東治男*・山田量崇：徳島県那賀町で採集されたカトウツケオグモ．p.27-30.

茨木　靖・東　衛史*：徳島県から新たに発見された

エゾヌカボ *Agrostis scabra* Willd.（イネ科）．p.31-32.

⑵ 公表論文・報告・記事等一覧

（＊は館外研究者）

●動物

〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）

大原賢二・山田量崇（2011．3）アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2010年）．徳島県立博物館研究報告，(21)：11-16.

佐々木孝明*・岡田賢三*・大原賢二・山田量崇(2011．1）徳島県で発生したクロマダラソテツシジミの記録．日本鱗翅学会四国支部 News Letter，(12)：4-5.

☆Yasunaga, T.*, Yamada, K. & Artchawakom, T.*（2010．6）First record of the plant bug subfamily Psallopinae（Heteroptera : Miridae）from Thailand, with descriptions of new species and immature forms. Tijdschrift voor Entomologie，153：91-98.

☆Yamada, K., Yasunaga, T.* & Miyamoto, S.*（2010．6）A review of Japanese species of the genus *Montandoniola*（Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae）. Zootaxa，2530：19-28.

☆Yamada, K., Bindu, K.* & Nasser, M.*（2010．7）The second species of the genus *Rajburicoris* Carpintero and Dellapé（Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae）from southern India, with reference to autapomorphies and systematic position of the genus. Proceedings of the Entomological Society of Washington，112：464-472.

☆Jung, S. H.*, Kim, H. J.*, Yamada, K. & Lee, S. H.*（2010.10）Molecular phylogeny and evolutionary habitat transition of the flower bugs（Heteroptera : Anthocoridae）. Molecular Phylogenetics and Evolution，57：1173-1183.

☆山田量崇・濱　直大*・茨木　靖・中尾賢一（2010．10）四国におけるトグロコウイカの漂着記録．ちりぼたん，40（3-4）：145-147.

☆Yamada, K., Yasunaga, T.* & Artchawakom, T.*（2010.12）A review of the flower bug genus *Wollastoniella* Reuter（Heteroptera : Anthocoridae : Oriini）from central Thailand. Tijdschrift voor Entomologie，153：203-211.

☆Yamada, K., Ballal, C. R.*, Gupta, T.* & Poorani, J.*（2010.12）Description of a new species of *Anthocoris*（Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae）from southern India, associated with striped mealybug on purple orchid tree. Acta Entomlogica Musei Nationalis Pragae，50：415-424.

☆Jung, S. H.*, Yamada, K. & Lee, S. H.*（2011．1）A new species of *Scoloposcelis* Fieber（Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae : Scolopini）from the Korean Peninsula, with a key to the Palaearctic species. Zootaxa，2766：64-68.

佐々木孝明*・小笠　航*・山田量崇・大原賢二(2011．1）2009年に徳島県で見られた迷蝶と迷蛾．日本鱗翅学会四国支部 News Letter，(12)：11-12.

清水克洋*・清水正仁*・坂東治男*・山田量崇（2011．3）徳島県那賀町で採集されたカトウツケオグモ．徳島県立博物館研究報告，(21)：27-30.

岡部健士*・田代優秋*・上月康則*・鎌田磨人*・佐藤陽一（2010．3）沖積平野の河川－水路網における治水，利水および希少生物の保全との両立を目指した水管理手法の開発．徳島大学環境防災研究センター年報，（6）：85.

〈一般著述〉

大原賢二（2010.11）迷蝶．徳島新聞11月12日夕刊（こども新聞）.

大原賢二（2011．1）チョウの冬越し．徳島新聞１月７日夕刊（こども新聞）.

大原賢二（2011．1）アルゼンチンアリ．徳島新聞１月14日夕刊（こども新聞）.

大原賢二（2010．6）ラクダムシ～駱駝蟲～．徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介），(79)：６.

大原賢二（2011．3）アサギマダラの調査から．徳島県立博物館ニュース（Culture Club），(82)：2-3.

佐藤陽一（2010．5）ユキヒョウ．徳島新聞５月21日夕刊（子ども新聞）.

佐藤陽一（2010．6）ツキノワグマ．徳島新聞６月11日夕刊（子ども新聞）.

佐藤陽一（2010．7）カワヨシノボリ．徳島新聞７月９日夕刊（子ども新聞）.

佐藤陽一（2010．9）オイカワ．徳島新聞９月17日夕刊（子ども新聞）.

佐藤陽一（2011．1）ノウサギ．徳島新聞１月21日夕刊（子ども新聞）.

佐藤陽一（2011．3）アカハライモリ．徳島新聞３月18日夕刊（子ども新聞）.

山田量崇（2010．5）ウスバシロチョウ．徳島新聞５月14日夕刊（こども新聞）.

山田量崇（2010．6）ヒマラヤのチョウ．徳島新聞６月４日夕刊（こども新聞）.

山田量崇（2010．8）クモ．徳島新聞８月13日夕刊（こども新聞）.

山田量崇（2010．9）ミミズ．徳島新聞９月３日夕刊

（こども新聞）.
山田量崇（2010.10）シオマネキ．徳島新聞10月１日夕刊（こども新聞）.
山田量崇（2011.３）ムカデとヤスデ．徳島新聞３月４日夕刊（こども新聞）.
山田量崇（2010.12）特定外来生物に注意!!セアカゴケグモとアルゼンチンアリ．徳島県立博物館ニュース（野外博物館），(81)：６.

●植物

〈学術的著述〉

小川　誠（2011.２）タンポポ調査・西日本と地域博物館．Bunrui11（１）：11-15.
茨木　靖・木下　覺*・片山泰雄*・小川　誠・植北ちず子*・小松研一*・成田愛治*・原田悦子*（2010.７）阿波市「阿波町・吉野町」の植物．阿波学会紀要，(56)：35-46.
Akiyama S*, Ibaragi Y, Katsuyama T*, Koba H*, Mouri C*, and Noshiro S*（2010.４）. New records of Berberidaceae, Celastraceae, Cyperaceae, Gramineae, Lauraceae, Moraceae, Rutaceae and Schisandraceae in Nepal. News letter of Himalayan Botany 43：15-16.
茨木　靖・東　衛史*（2011.３）徳島県から新たに発見されたエゾヌカボ Agrostis scabra Willd.（イネ科）．徳島県立博物館研究報告，(21)：31-32.

〈一般著述〉

小川　誠（2010.10）ＱアンドＡ：ちょっとおたずねします　植えてはいけない植物について．アワーミュージアム，(43)：5-7.
小川　誠（2010.10）便利なグッズの紹介　デジタルマイクロスコープ. アワーミュージアム, (44)：6-7.
小川　誠（2010.12）レファレンスQ&A　バナナが光るって本当ですか？　博物館ニュース, (81)：７.
小川　誠（2011.３）徳島の自然と歴史ガイド６「みんなで調べた徳島のタンポポータンポポ調査・西日本2010の結果より－」pp.32，徳島県立博物館.
茨木　靖（2010.９）博物館の常設展がリフレッシュしました. 徳島県立博物館ニュース(速報), (80)：7.
茨木　靖（2010.５）温室植物．徳島新聞５月７日夕刊（こども新聞）.
茨木　靖（2010.５）ヒマラヤを彩る花々．徳島新聞５月28日夕刊（こども新聞）.
茨木　靖（2010.８）ヒマワリ．徳島新聞８月20日夕刊（こども新聞）.
茨木　靖（2010.11）アゼトウナ．徳島新聞11月26日夕刊（こども新聞）.
木場英久*・茨木　靖・勝山輝男*（2011.３）イネ科ハンドブック．文一総合出版，東京.
木場英久*・茨木　靖（2011.３）イネ科．加藤雅啓・海老原淳（編）日本の固有植物．東海大学出版会，神奈川：pp.163-169．399-404.
John Clifton Brown*, Steve Renvoize*, Yu-Chung Chiang*, Yasushi Ibaragi, Richard Flavell*, Joerg Greef*, Lin Huang*, Tsai Wen Hsu*, Do-Soon Kim*, Astley Hastings*, Kai Schwarz*, Paul Stampfl*, John Valentine*, Toshihiko Yamada*, Qingguo Xi* and Iain Donnison*（2010.12）Developing Miscanthus for Bioenergy In：N. G. Halford and A Karp（eds.）Energy Crops. RSC Publishing, Cambridge, UK.：pp.301-321.

●地学

〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）

石田啓祐*・西山賢一*・中尾賢一・辻野泰之・森江孝志*（2010.７）阿波市の地質と地形　－とくに「阿波の土柱」の成因と景観保全－．阿波学会紀要，(56)：1-12.
Ishida, K.*, Hashimoto, H.*, Yamasaki, T.*, Tsujino, Y. & Kozai, T.*（2010.10）Significance of the direct correlation of ammonite and radiolarian zones in the Izumi Group for integrated biostratigraphy of Late Cretaceous NW paleo-Pacific region. Natural Science Research University of Tokushima, 24（４）：27-31.
☆辻野泰之・石田啓祐*・和田秀実*・平山正則*（2010.12）四国東部・徳島県牟岐町の四万十帯より新たに発見された後期白亜紀アンモナイト．地質学雑誌，116（12），680-685.
Tsujino, Y., Shigeta, Y.*, & Mimoto, K.*（2011.３）Discovery of Late Triassic ammonoid *Arcestes* in the Kochigatani Group, Sakawa Town, Kochi Prefecture, Japan. Bulltein of the Tokushima Prefectural Museum,（21）：1-10.

〈一般著述〉

中尾賢一（2010.４）化石とは？．徳島新聞４月２日夕刊（こども新聞）.
中尾賢一（2010.４）ヒマラヤのなりたち．徳島新聞４月30日夕刊（こども新聞）.
中尾賢一（2010.７）徳島城に使われた石．徳島新聞７月23日夕刊（こども新聞）.
中尾賢一（2010.10）鳴門海峡海底からみつかる化石．徳島新聞11月19日夕刊（こども新聞）.
中尾賢一（2011.２）水晶．徳島新聞２月18日夕刊（こども新聞）.
中尾賢一（2009.６）吉野川の砂金．徳島県立博物館

ニュース（野外博物館），(82)：６．
辻野泰之（2010.４）ヒマラヤのアンモナイト．徳島新聞４月23日夕刊（こども新聞）．
辻野泰之（2010.７）コダイアマモ．徳島新聞７月30日夕刊（こども新聞）．
辻野泰之（2010.11）始祖鳥．徳島新聞11月26日夕刊（こども新聞）．
辻野泰之（2011.１）琥珀．徳島新聞１月28日夕刊（こども新聞）．
辻野泰之（2010.９）香川県自然記念物の「木戸の馬蹄石」．徳島県立博物館ニュース（野外博物館），(80)：６．

●考古

〈一般著述〉

高島芳弘（2010.６）城山貝塚．徳島新聞６月18日夕刊（こども新聞）．
高島芳弘（2010.10）古墳の石室と副葬品．徳島新聞10月22日夕刊（こども新聞）．
高島芳弘（2010.12）トロトロ石器．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），(81)：５．
高島芳弘（2011.２）大量に埋められた謎の古銭　徳島新聞２月４日夕刊（こども新聞）．
高島芳弘（2011.３）鏡．徳島新聞３月11日夕刊（こども新聞）．
魚島純一（2010.６）砕かれた青銅器－誰が、どうやって壊したのか？－．徳島県立博物館ニュース（Culture Club），(79)：2-3.
魚島純一（2010.７）勾玉．徳島新聞７月２日夕刊（こども新聞）．
魚島純一（2011.３）デジタルデータからレプリカをつくる．徳島県立博物館ニュース(情報ボックス)，(82)：５．

●歴史

〈学術的著述〉

長谷川賢二（2011.３）徳島県立博物館所蔵「化もの絵巻」について－百鬼夜行絵巻の一事例－．徳島県立博物館研究報告，(21)：17-26.
長谷川賢二・辻　佳伸*（2011.３）近藤辰郎『古城址地図』について．徳島県教育委員会編「徳島県の中世城館」徳島県教育委員会：593-604.

〈一般著述〉

長谷川賢二（2010.４-2011.３）阿波中世史こぼれ話－熊野信仰；熊野先達の活動；熊野参詣の費用；観音浄土への船出；阿波の霊山；旅の山伏と写経；中世の人々が見た鬼；南朝文書の謎：大般若経が語る讃岐との交流（上）；大般若経が語る讃岐との交流（下）；芸能者の痕跡；山伏一揆．徳島新聞４月７日；５月４日；６月３日；７月12日；８月７日；９月２日；10月２日；11月13日；12月６日；１月３日；２月３日；３月５日朝刊．
長谷川賢二（2010.４）板碑．徳島新聞４月16日夕刊（こども新聞）．
長谷川賢二（2010.６）アリス／答礼人形「ミス徳島」．徳島県立博物館ニュース（表紙），(79)：１．
長谷川賢二（2010.７）アメリカへ行った人形．徳島新聞７月16日夕刊（こども新聞）．
長谷川賢二（2010.８）空襲．徳島新聞８月６日夕刊（こども新聞）．
長谷川賢二（2010.12）四国遍路の形成と大師信仰－大師信仰は基層ではなかった？－．新世紀男女共生社会へのメッセージ，(10)：115-118.
長谷川賢二（2010.12）サンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂.徳島県立博物館ニュース(表紙),(81)：１．
長谷川賢二（2011.３）プロジェクトの概要；答礼人形「ミス徳島」の里帰り；特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」；つるぎ町会場；答礼人形「ミス徳島」お別れ会．徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編，「徳島平和ミュージアムプロジェクト報告書」，徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会：7-16，30，40.
長谷川賢二（2011.３）古文書「飯尾常連奉書」は以前展示されていた実物と形が違いますが、どうしてですか？徳島県立博物館ニュース(Q&A),(82)：７．

●民俗

〈学術的著述〉

磯本宏紀（2010.12）からさおの柄をめぐる使用者の論理－「四国の連枷調査」の事例から－，民具マンスリー，43（９）：1-22.
磯本宏紀（2011.３）二つのヤマをつくる左義長．四国民俗，(43)：72-94.

〈一般著述〉

庄武憲子（2010.６）藍玉とはどんなものですか？．徳島県立博物館ニュース（Q&A），79：８．
庄武憲子（2010.９）葵紋付花重文辻ヶ花染小袖．徳島県立博物館ニュース（表紙），80：１．
庄武憲子（2010.11）かすりの着物．徳島新聞11月５日夕刊（こども新聞）．
庄武憲子（2010.12）門松．徳島新聞12月24日夕刊（こども新聞）．
庄武憲子・関眞由子（2011.３）常三島の年中行事（木内家での聞き書き）.徳島地域文化研究,（９）：1-15.
庄武憲子（2011.３）徳島市丈六町の盆棚．徳島地域文化研究，（９）：128-130.
庄武憲子（2011.３）新刊紹介　橘禎男著『阿波の峠

今昔』．徳島地域文化研究，（９）：172-173.
磯本宏紀（2010．４）農具市．徳島新聞４月９日夕刊（こども新聞）．
磯本宏紀（2010．９）船霊．徳島新聞９月10日夕刊（こども新聞）．
磯本宏紀（2010.12）モノに神霊を宿らせる話－いわゆる「依代」について－．徳島県立博物館ニュース（Culture Club），（81）：2-3.
磯本宏紀（2011．１）共同参画による地域研究の試み－徳島県立博物館友の会活動「八万町の昔を探ろう」の活動から－．鳴門史学，（24）：47-64.
磯本宏紀（2011．３）えびす木偶人形と出土した中世の木偶頭.徳島県立博物館ニュース(表紙),(82)：１.
磯本宏紀（2011．３）津田の盆踊りにおける一丁廻り調査報告．徳島地域文化研究，（９）：16-21.
磯本宏紀（2011．３）以西底曳網漁業による戦後の出稼ぎ－旧由岐町での聞き書き，（９）：51-59.
磯本宏紀（2011．３）新刊紹介　神野林則著『伊島の伝説と海士』．徳島地域文化研究，（９）：169-171.

●美術工芸

〈学術的著述〉
大橋俊雄（2010.11）飯塚桃葉と田沼時代．漆工史，（33）：13-21.

〈一般著述〉
大橋俊雄（2010．６）絵師佐々木家についての資料．徳島県立博物館ニュース(情報ボックス),(79)：５.
大橋俊雄（2010．６）鳴門の絵．徳島新聞６月25日夕刊（こども新聞）．
大橋俊雄（2010．８）谷田蒔絵．徳島新聞８月27日夕刊（こども新聞）．
大橋俊雄（2010．９）明治維新と徳島城―守住貫魚の『二行日誌』から－．徳島県立博物館ニュース（Culture Club），（80）：2-3.
大橋俊雄（2011．１）“あい”ランドARTギャラリー　松に鷹図渡辺広輝筆．いのち輝く，（66）：16-17.
大橋俊雄（2011．２）蒔絵．徳島新聞２月25日夕刊（こども新聞）．
大橋俊雄（2011．３）東洲斎写楽．徳島新聞３月25日夕刊（こども新聞）．

⑶ 学会・研究会等での発表

（＊は館外研究者）

●動物

大原賢二（2010．５）四国東部におけるアサギマダラの移動調査－徳島県を中心に－．日本鱗翅学会近畿支部第140回例会・日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム（大阪市）．
清水孝昭*，佐藤陽一，高木基裕*（2010．３）徳島県を中心としたオヤニラミの遺伝的分化と撹乱（予報）．四国魚類研究会（土佐）．
長島聖大*・山田量崇・石川　忠*（2010．７）日本産カメムシ類の絵解き検索．第20回環境アセスメント動物調査手法講演会（尼崎）．
Jung, S. H.*, Kim, H. J.*, Yamada, K. & Lee, S. H.*（2010．７）Ancestral Character States and Correlated Evolution of the Flower Bugs（Heteroptera：Anthocoridae）using Bayesian Analysis of MultiStates and Discrete Characters. Fourth Meeting of the International Heteropterist's Society.（Tianjin, China）.
Yamada, K., Bindu, K.*, Nasreem, A.*, Nasser, M.*, Ballal, C. M.* & Poorani, J.*（2010．７）The flower bugs found in agro-ecosystems of southern India（Heteroptera：Anthocoridae）. Fourth Meeting of the International Heteropterist's Society.（Tianjin, China）.
山田量崇（2010．９）熱帯アジアの農業生態系における天敵資材としてのハナカメムシ類．日本昆虫学会第70回大会（鶴岡）．
山田量崇（2010.12）日本産モンシロハナカメムシ属（半翅目：ハナカメムシ科）の分類学的研究．日本昆虫分類学会第13回大会（東京）．
加藤敦史*・山田量崇（2010.12）ヘクソカズラグンバイは本州から淡路島経由で四国に侵入したのか？日本昆虫学会近畿支部2010年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第141回例会（三田）．

●植物

赤井賢成*・松岡成久*・小川　誠，矢野興一*・池田博*・吉岡俊人*（2010．４）キク科トキンソウ属の新植物：ムラサキトキンソウ（新称）．日本雑草学会第49回大会（福井）．
小川　誠・末広喜代一*・松井宏光*・藤川和美*（2010．９）タンポポ調査西日本2010について．四国植物研究会（徳島）．
Itoh, A.* & Ogawa M.（2011．３）Spatio-Temporal Database of Urban Ecosystems - Two Examples - Image Database of Street Tree Phenology and Geo-Database of Native, Introduced, and Hybrid Dandelions. The 3rd International Conference of the OCU Advanced Research Institute for Natural Science and Technology（OCARINA）.（Osaka）.

●地学

中尾賢一（2011．１）湯島（上天草市）から産出する内湾性貝化石とその意義．日本古生物学会第160回

例会（高知）.

Tsujino, Y. & Shigeta, Y.*（2010. 9）Biological response to damage of the phragmocone and siphuncle in recent nautiloid : *Nautilus pompilius* Linnaeus. Eighth International Symposium Cephalopods-Present and Past-(Dijon, France).

Ishida, K.*, Nakazawa, Y.*, Kozai, T.* & Tsujino, Y.（2010. 10）Early Aptian radiolarian fauna from the Nankai Group, SW Japan : biochronostratigraphy and paleobiogeography. International Geoscience Programme of the 5th IGCP 507 Symposium "Paleoclimates in Asia during the Cretaceous"（Yogyakarta, Indonesia）.

Hashimoto, H.*, Ishida, K.*, Tsujino, Y. & Kozai, T.*（2010. 10）Upper Cretaceous ammonite and radiolarian zonal correlation in the Izumi Group, SW Japan : review for the integrated biostratigraphy of the NW pacific region. International Geoscience Programme of the 5th IGCP 507 Symposium "Paleoclimates in Asia during the Cretaceous"（Yogyakarta, Indonesia）.

Ishida, K.*, Nakazawa, Y.*, Kozai, T.* and Tsujino, Y.（2010. 11）Radiolarian paleobiogeographic correlation for the Lower Cretaceous Nankai Group, Southern Kurosegawa Terrane, SW Japan. 6th Symposium of the International Geological Correlation Programme Project（IGCP 516）"Geological Anatomy of East and South Asia"（Kuala Lumpur, Malaysia）.

辻野泰之・石田啓祐*・和田秀実*・平山正則*（2011. 1）四国東部・徳島県牟岐町の四万十帯より新たに発見された後期白亜紀アンモナイト．日本古生物学会第160回例会（高知）.

●考古

高島芳弘（2010. 7）遺構からみた徳島県の縄文集落 中四国縄文研究会（出雲市）.

魚島純一・小泉武寛・難波洋三・植地岳彦（2010. 6）復元青銅器の破砕実験．日本文化財科学会第27回大会（吹田市）.

●歴史

長谷川賢二（2010. 12）阿波の「山の寺」.「山の寺」科研2010年度第２回研究会・見学会（鬼北町）.

●民俗

磯本宏紀（2010. 7）共同参画による地域研究の試み－徳島県立博物館友の会活動「八万町の昔を探ろう」の活動から－．鳴門史学会（鳴門）.

磯本宏紀（2010. 9）離島における環境利用と生業の変化－伊島・出羽島の事例－（資料報告）．四国民俗学会（高松）.

磯本宏紀（2011. 2）『八万町の昔を探ろう』における石造物および祭礼調査.四国ミュージアム研究会(善通寺).

Ⅵ　資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の４つを基本方針として資料を収集している。

１）徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。

２）地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。

３）徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。

４）一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

22年度は３名（人文１、自然２）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

１．採集資料

●動物（脊椎動物）

正法寺川産魚類　多数
イソヒヨドリ　１点
岡川産魚類　多数
園瀬川産魚類　多数
小松島市中郷町用水路産魚類　多数
タヌキ　１点
カワセミ　１点
シロハラ　１点

●動物（無脊椎動物）

鳴門市土佐泊浦竜宮の磯の甲殻類　多数
勝浦川河口干潟の甲殻類　多数
県産クモ類　多数

●動物（昆虫）

剣山系の半翅類　多数
県産の膜翅類　多数

●植物

県内各地の標本　多数
海浜植物標本　多数

●地学

県内産の砂金　２点
熊本県産の貝化石　多数
鳴門・島田島産のコダイアマモ　２点
上勝町藤川産アンモナイトほか　13点
唐浜層群穴内層産化石　多数

２．購入資料

平成17年度より資料の購入は行われていない。

購入資料合計　０点

３．寄贈資料

●動物（脊椎動物）

ツバメ　１点　吉見勝之氏
図書「ホネからわかる！動物ふしぎ大図鑑」
２点　㈲ハユマ
ミシシッピアカミミガメ　１点　徳島県自然環境課
イドミミズハゼ　１点　三木博之氏
H21年度吉野川東環状大橋モニタリング調査標本（魚類）　多数　徳島県東部県土整備局〈徳島〉
アカショウビン　１点　種野小学校
愛媛県室手湾・高知県柏島産ほか魚類標本
多数　平松　亘氏
H21年度那賀川農地防災事業河川環境影響調査標本（那賀川本川、魚類）
多数　中国四国農政局那賀川農地防災事業所
第３回とくしま環境学習フォーラム CD
１点　正法寺川を考える会
高越山ヤマネ画像　11点　坪内　強氏
白マムシ　１点　木内和美氏
徳島県産鳥類写真　34点　岡本敏夫氏
エゾムシクイ　１点　阿南市科学センター
アユカケ　１点　水野晃秀氏
センダイムシクイ　１点　雑賀敬章氏
ニホンジネズミ　１点　徳島県農業研究所鴨島分場
イタチ　１点　吉見勝之氏
鳥類文献　２点　早川貞臣氏
八幡浜市感潮域魚類標本　３点　辻　幸一氏

クロジ　1点　徳島県立近代美術館
オオタカ　1点　成田愛治氏
スズメ　1点　吉見勝之氏
イタチ　1点　吉見勝之氏
キツネ　1点　東條秀徳氏
フンボルトペンギン・ワニ剥製
2点　福井雅彦氏
宍喰川産魚類標本
多数　徳島県南部総合県民局県土整備部〈美波〉
キリアナゴ　1点　徳島県水産研究所（美波庁舎）
ホオジロ　1点　文化の森清掃

●動物（無脊椎動物）

H21年度東環状大橋環境調査定生生物標本
多数　フジタ建設コンサルタント
カトウツケオグモ　1点　森江孝志氏
H21年度東環状大橋環境調査定生生物標本
多数　応用地質
シロカネイソウロウグモ　1点　割石一正氏
徳島県沿岸部の海産貝類　217点　近藤　宏氏
ノコギリガザミ　1点　林　敬氏
Nucula sp.　18点　三本健二氏
モクズガニ　1点　影山氏

●動物（昆虫）

蛾類　3点　別府隆守氏
海陽町産トンボ類　70点　豊﨑　勲氏
ヒメハルゼミ　3点　丸山直生氏
県産トンボ類　多数　豊﨑　勲氏
ベニツチカメムシ　1点　菊池　均氏
エゾゼミほか　6点　丸山直生氏
ヒメハルゼミ抜け殻　1点　丸山直生氏
チョウとトンボの写真　4点　岡本敏夫氏
カラスアゲハの写真　4点　竹内洋子氏
シンジュサン　1点　篠原氏
キイロスズメバチの巣　2点　新開正博氏
カタゾウムシの一種　1点　辻野泰之氏
センチコガネ　1点　魚島純一氏
オオセンチコガネ　1点　魚島純一氏
アカボシゴマダラ　1点　林　正美氏
ウスキシロチョウ　2点　佐々木孝明氏

●植物

種子標本　2点　林　正美氏
オオバヨウラクラン　1点　木内和美氏
植物関係古書　1点　櫻　隆徳氏
徳島県の植物標本
42点　福井総合植物園　植物標本庫（FUK）
県内産植物標本　7点　中村喜代治氏
イネ科植物標本　6点　木場英久氏

●地学

愛媛県産エクロジャイト　3点　阿部　肇氏
ナウマンゾウ右尺骨、ウラカガミ、イセシラガイを含むコンクリーション　数点　横瀬健二氏
県内産鉱物標本　2点　阿部　肇氏
持部鉱山および眉山産岩石・鉱物標本
5点　阿部　肇氏
二酸化マンガン鉱　1点　阿部　肇氏
牟岐町産黄鉄鉱および北海道宗谷・東浦産モミジソデガイ化石　2点　平島　昭氏
淡路島・南あわじ市地野より産出した脊椎動物化石
1点　奥平耕右氏
椿原町東向鉱山産鉱石・鉱物、掛川産砂岩
5点　阿部　肇氏
バロア閃石エクロジャイト　3点　阿部　肇氏
牟岐町楠之浦産アンモナイト　1点　和田秀実氏
白亜紀アンモナイトおよび巻貝化石
3点　平島　昭氏
鳴門海峡海底産化石　3点　八木忠弘氏
藍閃石、くさび石　2点　阿部　肇氏
美馬市の和泉層群より産出した化石
6点　芝坂小学校および石田啓祐氏
上勝町杉地産のアンモナイト　18点　平島　昭氏
クルミガイ類化石　1点　三本健二氏
マンガン鉱石ほか県内産岩石・鉱物
4点　阿部　肇氏
鳴門海峡海底産化石
約10点　小野　守氏・澤　靖彦氏
マメグルミガイ属化石　6点　三本健二氏
キースラガー、石炭　4点　阿部　肇氏
岩石標本　2点　阿部　肇氏
徳島県辻谷地域産の後期デボン紀リンボク
5点　沖津　昇氏
キースラガー　3点　阿部　肇氏
鳴門海峡海底産化石　2点　八木忠弘氏
クロム鉄鉱　2点　阿部　肇氏

●歴史

徳島県関係各種資料等　200点　松田房徳氏
マントほか　3点　庄野藤江氏
遺書ほか　2点　森　操子氏
火縄銃　2点　斉藤修一氏
防衛食器　1点　西村　明氏
防空頭巾　1点　坂田美保子氏
隊列図　1点　吉成功次氏
阿波国絵図　1点　島田裕之氏

●民俗

凧ほか　9点　松田房徳氏

糸車ほか　16点　秋田由夫氏
拝宮農村舞台縮小模型　1点　徳島県県民環境部
明治・大正期の女性用装身具ほか
167点　澤田順子氏
題目入りアワビ貝製品　1点　福永信雄氏
計算尺　1点　武田泰門氏
船大工道具　87点　新田　守氏
明治末期から昭和初期の橘町写真ほか
9点　織原英文氏
絵はがき等　222点　山本節子氏
絵はがき　22点　和泉富夫氏
虫送り関係資料
6点　樫ノ瀬地区虫送り保存会　代表　澤井敬治氏
衣類等　37点　藤野明義氏
精霊流し用藁人形
1点　津田の盆踊り保存会　代表　平島　博氏
オムイカ（六日）の蓑笠人形等
3点　乾　秀夫氏
電話機、真空管ラジオ　2点　椿森善信氏

●美術工芸
壷（伝バンチェン）　4点　藤本英夫氏
貫名海屋書ほか　24点　松田房徳氏
短刀　1点　島田裕之氏

4．寄託資料

22年度末現在で寄託されている資料は64件ある。22年度に新たに寄託された資料は次のとおり。

●歴史
廻り手形　1点　武田和昭氏

●美術工芸
蒔絵重箱　1点　濱田成史氏

5．資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中（p.23～24）に記載した。

●動物
オオウナギ標本　6点　水野晃秀氏
メイタガレイ標本　5点　横川浩治氏
ヒメダラ標本
8点　岡本　誠氏（西海区水産研究所）
カモシカ頭骨
10点　福永裕史氏（京都大学総合博物館）
ミヤマクワガタ拡大模型　1点　面河山岳博物館
昆虫標本　ドイツ式標本箱
26箱　三好市教育委員会

●地学
徳島県産イグアノドン類（歯）レプリカほか
10点　和歌山県立自然博物館
和泉層群産アンモナイトおよびコダイアマモ
3点　神奈川県立生命の星・地球博物館
アンモナイト、三葉虫、腕足類、シーラカンスなど
44点　五島観光歴史博物館
穴内層ほか西日本産新生代貝化石
多数　栗原行人氏（三重大学）
ベレムナイト化石ほか
4点　伊庭靖弘氏（国立科学博物館）

●考古
忌部山古墳群出土資料ほか　38点　海陽町立博物館
若杉山遺跡出土石臼・石杵及び辰砂原石
8点　出雲市長
若杉山遺跡出土石臼・石杵及び辰砂原石
8点　福井県立歴史博物館
廿枝遺跡出土ナイフ形石器ほか
25点　公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
愛宕山古墳出土品
17点　徳島県立埋蔵文化財総合センター

●歴史
阿波忌部関係資料　15件　海陽町立博物館
徳島空襲被災遺物　3点　徳島県立文書館
蜂須家蓬庵制札ほか　3点　徳島市立徳島城博物館
梅林孝次関係資料　17点　徳島県立文書館
徳島空襲被災遺物　1点　徳島県立文書館

●民俗
マニ車、ドッコ、アンギー、ドールスワール
4点　徳島市八万南小学校
熊手、唐鍬、鋤簾、手箕、踏み鋤、畚
7点　徳島市国府小学校

6．写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供を含む。

●動物
岡川産カジカ・シマヨシノボリ画像
2点　阿南市立中野島公民館
昆虫生態写真　11点　徳島市教育研究所
ハクセンシオマネキ生態写真
1点　徳島市教育研究所

●植物
フタバアオイ写真（葉・花）
2点　香川県立ミュージアム
●地学
常設展示室の岩石・鉱物の写真
6点　小田桐七郎氏（㈱四国建設コンサルタント）
徳島県産イグアノドン類（歯）の写真
1点　㈱C.A.L（テレビ朝日）
パノクツスの写真
1点　㈱ワークス・ゼロ（㈱デアゴスティーニ）
メガテリウムの写真
1点　㈱ワークス・ゼロ（㈱デアゴスティーニ）
●考古
天河別神社古墳群4号墳出土　斜縁二神二獣鏡ほか写真　4点　鳴門市教育委員会
●歴史
鶴岡放生会職人歌合模本写真　16点　渡辺恭子氏
板戸写真　1点　徳島大学附属図書館
東北院職人歌合（複製）写真
1点　㈱日テレアックスオン
三十二番職人歌合模本写真
2点　㈱エヌ・アンド・エス企画
心形刀流剣術免許写真　2点　心形刀流風心会
七十一番職人歌合写真　1点　学校法人河合塾
三好長慶錦絵写真
1点　㈱デアゴスティーニ・ジャパン
七十一番職人歌合写真　3点　学校法人河合塾
「解放令」布達文書写写真
1点　徳島県中学校人権教育研究会
徳島城下町絵図ほか　3点　徳島県立近代美術館
●民俗
人形芝居図写真　1点　関西広域機構・文化振興課
阿波人形浄瑠璃舞台図写真
1点　㈱デアゴスティーニ・ジャパン
●美術工芸
守住貫魚筆　越前国白山真景図写真
1点　白山比咩神社
須木一胤筆　旧徳島城図写真　1点　㈱十象舎

7．資料の提供

●植物
徳島県産植物標本
10点　神奈川県立生命の星地球博物館（KPM）
徳島県産植物標本
35点　Herbario Nacional de Venezuela
徳島県産植物標本　42点　福井総合植物園（FUK）
徳島県産植物標本　133点　東北大学（TUS）
徳島県産植物標本　97点　北海道大学（SAPS）
徳島県産植物標本
154点　オレゴン州立大学（OSC）
徳島県産植物標本　64点　福島大学（FUKU）

8．資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本については、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学と定期的な標本交換を行っている（本章の「3．寄贈資料」および「7．資料の提供」を参照）。

9．館蔵資料数

平成22年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

●分野別収蔵資料数（平成23年3月31日現在）

分野	点数	内訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	22,843	22,769	55	13	6
（無脊椎）	38,408	38,342	0	58	8
（昆虫）	189,567	189,150	0	7	410
植物	190,895	190,544	61	8	282
地学	8,849	8,751	96	2	0
考古	5,601	5,456	73	13	59
歴史	10,927	10,139	26	4	758
民俗	13,532	13,522	5	5	0
美術工芸	9,786	9,777	0	4	5
合計	490,408	488,450	316	114	1,528

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るために購入予定資料について審査する目的で設置されている。これまで委員は、徳島県立博物館資料収集委員会設置要綱に基づき、学識経験者の中から常任委員５名および必要に応じて特別委員３名以内が教育長によって委嘱されてきた。しかし、平成21年度に要綱が改正され、常任委員は置かずに対象となる資料に応じてその都度５名以内を教育長が委嘱することとなった（平成22年１月８日施行）。

22年度は、購入資料はなく、委員会は開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●図書冊数（データベース登録数による）

12,922冊（うち22年度分　寄贈図書143冊、購入図書65冊）

●購入雑誌

自然史系（16タイトル）：科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics, Trends in Ecology and Evolution, American Journal of Botany, Blumea, Kew Bulletin, Systematic Botany, Journal of Paleontology, Paleobiology, Lethaia

人文系（29タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

その他（２タイトル）：博物館研究、ミュゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成22年３月末現在）

博物館ニュース	1,442カ所
博物館年報	452カ所
研究報告（国内）	555カ所
（国外）	144カ所
展示解説	231カ所
企画展図録（自然）	231カ所
（人文）	246カ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の①～③の３種類の燻蒸を行って来た。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦130cm×横120cm×奥行140cm（約2.3㎥）である。

平成17年１月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

22年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を最大限に活用したため、減圧燻蒸装置による燻蒸は１回も行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ３m（約60㎥）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

平成17年１月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

22年度は、収蔵資料と徳島県立鳥居記念博物館から移転した資料の燻蒸処理のため、３回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として３年に１回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

前回は、20年度に生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫１・２、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行ったため、21年度は行っていない。

22年度には、植物資料の保管されている収蔵庫の一部で、タバコシバンムシの発生が確認されたため一部資料を隔離、燻蒸処理した。収蔵庫への人、モノの出

入りに伴い害虫の侵入するリスクは避けられず、収蔵庫の全室密閉燻蒸も３年程度のサイクルでは必要であることが再確認された。

次回の実施は23年度の予定である。

⑵ 常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでにも、害虫の発生が確認されている。

22年度には、以前にも発生が確認された部門展示室のケース内の植物標本等でタバコシバンムシの発生を確認した。また、これまでは確認していなかった穀物資料の展示ケース内において同じくタバコシバンムシの発生を確認した。これらの資料の燻蒸を行うとともに、当該ケース内に比較的毒性の低い忌避剤等を設置し経過を観察した。

Ⅶ　管理運営・マネージメント

1．組織・職員

(1) 組織図（平成23年５月１日現在）

館長(1)――副館長(1)┬― 普及課(5)
　　（事務職員２〔1〕、臨時補助員１、文化推進員１）
　　├― 自然課(8)
　　（学芸員６、文化推進員１、緊急雇用嘱託員１）
　　└― 人文課(7)
　　（学芸員６、文化推進員１）
博物館協議会

〔　〕は兼務者数

(2) 職員名簿（平成23年５月１日現在）

館　　長　高島　芳弘
副 館 長　板東　敏之

〈普及課〉
普及課長　森　　稔
課長補佐　田村　恭子
（二十一世紀館課長補佐本務）
主　　任　松岡　　功
臨時補助員　篠原　麻子
文化推進員　竹村　雅子

〈自然課〉
自然課長　佐藤　陽一（動物）
専門学芸員　小川　　誠（植物）
〃　　中尾　賢一（地学）
主　　任　茨木　　靖（植物）
〃　　辻野　泰之（地学）
主任学芸員　山田　量崇（動物）
文化推進員　片山　康子
緊急雇用嘱託員　三木田友紀

〈人文課〉
人文課長　長谷川賢二（歴史）
専門学芸員　大橋　俊雄（美術工芸）
〃　　魚島　純一（考古・保存科学）
主　　任　庄武　憲子（民俗）
〃　　磯本　宏紀（民俗）
学 芸 員　松永　友和（歴史）
文化推進員　梅岡　裕美

(3) 人事異動

〈平成23年３月31日付〉
定年退職：大原　賢二・館長
〈平成23年４月１日付、カッコ内は前職〉
転出：向原　敬夫・主任、川内北小学校教頭へ
転入：松岡　　功・主任（宍喰小学校教諭）
〈平成23年５月１日付、カッコ内は前職〉
転入：板東　敏之・副館長（工業技術センター次長）
昇格：高島　芳弘・館長（副館長）
　　辻野　泰之・主任（主任学芸員）
〈教育委員会文化の森振興総局の兼務〉
部　長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
　　高島　芳弘
副部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
　　板東　敏之

(4) 22年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員
永田　有美（平成22.５.１～23.３.31）
●文化推進員（非常勤特別職）
竹村　雅子（平成22.４.１～）
騎馬　康子（平成22.４.１～）
三木田友紀（平成20.４.１～23.３.31）
梅岡　裕美（平成22.４.１～）

2．予算

２月現計予算額（２月補正後の予算額）を下記に示す。

●22年度博物館費（２月現計予算額）（単位：千円）

管理運営	12,286
展覧	7,942
調査研究	3,799
収集保存	10,785
普及教育	1,778
「聖地巡礼」展	7,534
計	44,124

３．博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

22年度は協議会を１回開催した。

●22年度博物館協議会

日時：平成22年９月30日（木）
　　10：00～12：00
会場：博物館講座室
議事　⑴　平成21年度事業の実施状況について
　　⑵　平成22年度事業計画について
　　⑶　その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成23年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
学校教育	下川　純代	県小学校教育研究会理科部会三好郡理事（落合小学校長）
	小野　和敏	県中学校社会科教育研究会会長（貞光中学校長）
	湯浅　利彦	県高等学校教育研究会地歴学会副会長（城北高等学校教頭）
社会教育	吉田　和人	徳島県立佐那河内村いきものふれあいの里館長
	坂本真理子	㈲環境とまちづくり主任学芸員
	町田　哲（副会長）	鳴門教育大学大学院准教授
家庭教育	松島真由美	八万中学校 PTA 本部役員
学識経験	玉有　繁（会　長）	徳島文理大学教授
	佐野佳代子	四国放送㈱報道制作局映像管理部部長職
	野水　祥子	青年海外協力協会会員

４．視察等博物館関係来訪者

４月21日　九州国立博物館長　三輪嘉六氏ほか１名
７月17日　東京大空襲・戦災資料センター
　　山辺昌彦氏
７月18日　ミス岐阜の会　魚次龍雄氏ほか５名
７月20日　日本木地師学会　楯　英雄氏ほか２名
７月27日　フジフイルム㈱足柄研究所　清都尚治氏
７月31日　埼玉県立文書館　針谷浩一氏
８月25日　答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会　南部美智代氏ほか５名
８月29日　答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会　滝澤秀行氏ほか２名
８月29日　香川県親善人形の会　今岡重夫氏
８月29日　金城学院大学講師　ペンデル・パトリス氏
９月４日　答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会　東　良枝氏
９月10日　和泉市立人権文化センター人権資料室
　　吉岡隼平氏
９月12日　高知大学教授　市村高男氏
10月５日　備前市いんべ会館運営委員会一行
10月22日　一橋大学教授　渡辺尚志氏ほか８名
11月５日　三重県史編纂グループ副室長　服部久士氏
11月26日　北河内人権啓発推進協議会一行
11月26日　総務省自治大学校　石田健也氏ほか３名
12月１日　北海道大学教授　佐々木亨氏
３月３日　国立民族学博物館管理部長　川尻秀行氏ほか３名

Ⅷ　中期活動目標と自己点検・評価

１．中期活動目標（平成21年９月18日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館をとりまく状況は急速に変化してきている。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16～20年度の５年間に推進すべき活動の目標を、第１期中期活動目標（以下、第１期目標）として定め、点検・評価を行いながら事業の改善と活性化をはかってきた。平成20年度をもって第１期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら第２期目標（平成21～25年度）を策定した。

⑴ 第１期中期活動目標の総括

第１期目標にもとづいて活動を進めたことにより、事業の目標が明確に可視化され、達成度が客観的に示され、経年的な傾向から将来を予測できるようになった。さらに、それらのデータを考察することで課題や問題点が明らかにされるようになり、このような情報の共有が館員の意識改革を促すきっかけとなった。そして、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

このように、第１期目標には博物館活動の改善・活性化に一定の成果があったと考えられ、その成果は年報第14～18号において公表した。

⑵ 第２期中期活動目標の策定の経緯と目的

第１期目標にもとづく活動が終わる平成20年度、博物館法の一部が改正され（平成20年６月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。これを踏まえ、よりよいものとするよう次の第２期目標の策定に向けて検討を進めた。その中で、第１期目標では、博物館の事業が県民にとってどのような意義があるのか、わかりやすく示されていなかったのではないかと考え、「県民とともに」を基調として、博物館の使命（存在意義や役割）をわかりやすい形で示したうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。これにより博物館の事業全体を見渡せるようになり、個々の事業の意義や目標、評価指標の理解も容易になるのではないかと考えた。

⑶ 徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱　―県民とともに成長する博物館―

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

⑷ 第２期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後５年間（平成21～25年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに､事業改善につなげていくためのものである｡その推進にあたっては次の点に留意する。

・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
・活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

「博物館の評価と改善」の手順

使命・理念（館の存在理由や目的）

●博物館法
●徳島県立博物館基本構想報告書
●徳島県文化の森総合公園文化施設条例
☆使命書（ミッションステートメント）
＊現時点では、新たに作成するのではなく、基本構想に謳われている「４つの基本理念」及び「３つの基本的性格」を県立博物館の「使命」と位置づける。

↓

活動目標・計画（使命を達成するための活動目標・計画）

●資料収集方針
☆調査研究方針
●中期活動目標
＊博物館活動においては，評価指標の数的目標値の設定が難しく、また、数的評価になじまない項目も多い。
●年間事業計画

↓

活　　動（博物館の諸活動）

↓

自己点検・評価（館員による評価指標に基づく活動実績の評価）

☆自己点検・評価（各担当、各委員会)→会議での報告
＊博物館の評価は、入館者数や費用対効果などの外形的数値のみの評価では不十分であり、質的評価も重要になる。
☆自己点検・評価報告書→公表（年報、HP）

↓

外部評価

●外部評価委員会（博物館協議会)→議事録の公表（年報、HP）
●アンケート調査→結果の公表
☆各種会合等での外部意見の聴取

↓

業 務 改 善（事業計画・活動目標の見直し、施設・設備、組織、財政等の見直し）

⑸ 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおり。

・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育、情報の発信と公開、およびシンクタンクとしての社会貢献
・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
・効率的な運営：マネージメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標、および目標値を示す。

１．展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
1-1	常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
			観覧者のリピーター率	過去１年以内の利用経験者の占める割合	40%	
			観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	70%	
			他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	70%	
			展示改善の実施状況	定期的に展示替えするコーナーを除く		
1-2	魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	１回あたりの観覧者数	自然 7,000人 人文 3,500人	
			観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
			他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
			社会的評価	マスコミによる取材・報道数	５社/回	徳・朝・毎・読・N・四
			企画展の検討状況			
1-3	多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	５回 （特１・部４）	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する
			特別陳列観覧者数	１日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
			観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
			他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
			社会的評価	マスコミによる取材・報道数	５社/回	徳・朝・毎・読・N・四
			特別陳列等の検討状況			
1-4	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	１回/年	
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	２回/年	
			パッケージ展示の貸出数	他博物館等への貸出用展示メニューの利用件数。該当する展示が当館を主催者に含む場合は、移動展と見なす	１件/年	
1-5	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6	県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

２．普及教育

徳島の自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、

学校教育や県民の生涯学習を支援します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/年	
			普及行事参加者数		3,000人/年	
			参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
			アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事（展示を除く）	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2	学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員（小・中・高）	
			出前授業件数		出前授業15件/年	
			資料貸出件数		資料貸出10件/年	
			館での授業件数			
			教員研修件数			
			職場体験件数			
			遠足件数			
			教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3	普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊/年	
			普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
			博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400人/年	
			個人会員			
			家族会員			
			会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	
			個人会員			
			家族会員			
			友の会行事実施回数		6回/年	括弧内に参加者数を並記
			展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
			個人会員			
			家族会員			
			延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数	会員数	
			個人会員			
			家族会員			
			会報の発行回数		3回/年	
2-5	県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	公募ボランティア登録者数			
			公募ボランティア活動回数			
			企画運営型行事等件数	県民による企画展運営型行事の数		
			普及行事支援件数	県民による普及行事支援の数		

3．情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけではなく、博物館活動に関するさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
3-1	マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数	30件/年	
			マスコミ取材報道件数	新たに新聞が取材し、報道した数		
			マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
3-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
			広報関係出版物発行状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発行回数および発送件数		
			Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	
3-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HPアクセス数	トップページへのアクセス総数	32,000件/年	
			新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
			内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	

４．シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
4-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	300件/年	
4-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2出前授業件数」を参照
			講演会等の受講者数			
4-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
			機関・団体等への協力状況			
4-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数			
			博物館実習生受入人数		20人/年	
			学生・院生指導人数			
4-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
4-6	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受諾数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
			連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

５．調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみなさんおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、成果を博物館のいろいろな活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。（使命：「探」地域の魅力を探る博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
5-1	調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査とは予算化された研究テーマ		
			個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
5-2	外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
			共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	３件/年	科研費プロジェクトの研究分担を含む
5-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		２件/年	
5-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請６件・採択１件	
			民間の研究助成金の申請・採択件数			
5-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年（査読付き４本/年）	学芸員数×年２本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年２回
			マスコミへの資料提供件数	3-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	２件/年	

６．資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者、マスコミなどへ積極的に貸し出しや提供をはかり、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
収集						
6-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H25年度末で512,000点	H20年度末現在で481,981点、H23に50万点超の予定
			新規資料増加点数		6,000点/年	H14～20年度の平均増加点数5,537点から
			採集資料件数		20件/年	H16～20年度の平均16.6件から
			購入資料件数		３件/年	H17年度以降０件
			寄贈資料件数		80件/年	H14～20年度の平均82.1件、ここ５年間は89.4件
6-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	寄託資料件数			H20年度末現在で62件
			新規寄託件数		３件/年	H14～20年度の平均は7.9件、ただし、ここ５年間の平均は3.0件
6-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
			新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数（雑誌類を除く）		H16～20年度の購入の平均137.0冊
			購入雑誌タイトル数			
保存						
6-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備をはかります。	収蔵資料 DB 登録率	（DB 登録点数／収蔵資料点数）×100	50%	
6-5	資料の安全な保存	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点件回数	収蔵庫あるいは収蔵庫内区画あたりの点検回数	６回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
6-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。	資料保存環境の状況			
6-7	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用						
6-8	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進をはかります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展			
			常設展以外の展示			
6-9	貸し出し等の促進	貸出しや提供などによる収蔵資料の活用をはかります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2-2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H16～20年度の平均64.2件

７．マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的な運営）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況			
			県外利用者の割合			
7-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
			ボランティア活動参加者数	参加者の延べ人数		
			運営支援組織の検討状況			
7-4	設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	件数		
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況			
			危機管理体制の整備状況			
7-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。	取り組み状況			
7-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
			自己点検評価の状況			
			外部評価の状況			

２．22年度実績と自己点検・評価

⑴ 展示

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
1-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	37,171人	42,429人	35,054人
		観覧者のリピーター率	40%	53.9%（８月）	47%（10～12月）	36%（７～８月）
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	 80%/回 80%/回	73.4%（８月）	 86%（10～12月） 90%（10～12月）	 88%（７～８月） 84%（７～８月）
		展示改善の実施状況		２件 （チャレンジコーナー、ロビー）	３件 （チャレンジコーナー、ロビー、リフレッシュ）	２件 （小規模な展示更新、チャレンジコーナー）
1-2	多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然　7,000人 人文　3,500人	21,207人（３回）	15,476人（シーラカンス）、3,681人（貫魚）	5,909人（ヒマラヤ）、3,539（藍染め）、3,019（聖地★巡礼）
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	 80%/回 80%/回	77.6%（郷土）、93.4%（香り） ※82.5%（空）	92%（シーラカンス）、88%（貫魚） 83%（シーラカンス）、75%（貫魚）	90%（ヒマラヤ）、94%（藍染め）、聖地★巡礼（92%） 83%（ヒマラヤ）、83%（藍染め）、聖地★巡礼（90%）
		社会的評価	５社/回		シーラカンス６・貫魚１	ヒマラヤ２、藍染め４、聖地★巡礼３
		企画展の検討状況		22年度以降の計画の協議	23年度以降の計画の協議	24年度以降の計画の協議
1-3	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	５回 （特１・部４）	８回 （特２・部５・ト１）	13回 （特4・部7・ト1・他1）	13回 （特３・部８・ト２）
		特別陳列観覧者数	200人/日	7,517人（特陳）	258.1人（蝶357.3・八万134.7・マンダラ298.1）	235.5人 （人形と戦争）
		観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	 80%/回 80%/回			 97%（人形と戦争） 91%（人形と戦争）
		社会的評価	５社/回		蝶３・八万１・マンダラ３	（人形と戦争）５
		特別陳列等の検討状況			23年度以降の計画の協議	24年度以降の計画の協議
1-4	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数			２回（阿波人形浄瑠璃月間ジョールリ100公演、スタジオジブリ・レイアウト展）	１回「軌跡－継続と蓄積－）
		移動展等の実施状況	１回/年	４回（移動展＝兵庫・東かがわ・美波・阿南）	５回（移動展＝藍の館・東かがわ・海陽・阿波公方・美郷ほたる）	５回（阿南市科学センター・美波町・つるぎ町・海陽町・松茂町）
		パッケージ展示の貸出数	１件/年	２回 （北島町教委・あいぽーと）	０回	１回 （海陽町立博物館）

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
1-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録１＋パンフ１	企画展図録１	企画展図録２＋パンフ１、徳島の自然と歴史ガイド１
		展示解説等の実施状況		企画展解説　10回 部門展示解説５回 クイズラリー(第２・４土)　24回 びっくり箱等による解説　３回 常設展示室活用イベント　１回（当初計画外分。全体では３回） セルフガイドの設置 音声ガイドの開発	企画展解説　５回 部門展示解説７回 クイズラリー(第２・４土)　24回 企画展スペシャルイベント　４回 びっくり箱等による解説　１回 移動展解説　２回 常設展示室活用イベント　１回 セルフガイドの設置	企画展解説　５回 企画展記念講演会　１回 企画展関連行事（映画会）　10回 部門展示解説８回 クイズラリー(第２・４土)　24回 特別陳列解説12回 うち紙芝居＆展示解説　10回 関連シンポジウム　１回 記念演奏＆講演会　１回 ワークショップ　２回 常設展示室活用イベント　１回 セルフガイドの設置
1-6	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況			「八万町の昔を探ろう」 「浜辺の植物」 「貫魚」学校教育と連携	「海を渡った人形と戦争の時代」神領小学校との連携 「西日本のタンポポ」 「トグロコウイカ」
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査１館（沖縄県博） リフレッシュ事業の企画	先進館調査３館（九州国立博物館・長崎歴史文化博物館・大阪市立自然史博物館） リフレッシュ事業の一部推進	先進館調査１館（雲仙岳災害記念館） 小規模な展示更新の推進

●自己点検・評価

（１-１）

・常設展観覧者数は35,054人で、昨年度より少なく、目標に達しなかった（前年度比7375人減）。昨年度多かった遠足利用が本年度は少なかったことなどが影響していると考えられる。夏休み期間中（７月16日～８月31日）のアンケートからは､県外からの来館者の割合が過去３年間でも少なかったことが読み取れる｡今年度は酷暑であったため、遠出が少なかったということかもしれない。

・夏休み期間中のリピーター率は60％（昨年度10月～12月47％：無回答は集計から外した、以下同様）であった。１年以内の利用経験のある「狭義のリピーター」は36％（昨年度10月～12月30％）となっている。ともに昨年より割合は高くなっている。また、常設展を多く観覧している人の多くは、昨年同様、単に累計で多いだけではなくかなりの高頻度で観覧している。アンケートの意見・感想から、このタイプの利用者の一部はクイズラリーの常連と思われる。また、徳島市など近隣地域では、「初めて」と「３～５回」に２つのピークがあり、利用者層が二極化している。

・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答が88％で昨年度（86％）および目標値を上回った。

・常設展をほかの人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は84％で、昨年度より割合は減少したものの、目標値は上回った。この値は企画展と大きく変わらず、「思う」という回答が際だって多かった昨年度とは異なるが、こうなった理由はわからない。

・「チャレンジコーナー」（体験コーナー）では、こわれたり汚れたパズルを新しいものに交換したほか、企画展に

関連した塗り絵なども設置した。夏休み期間のアンケートを見ると、このコーナーに対する言及も多いことから、それなりに注目されているといえる。パズルなどの消耗はたいへん早く、そのことに関する意見や苦情も多い。

（1-2）

・観覧者は「ヒマラヤ～自然と人びとのくらし」で5,909人、「藍染めの表象」で3,539人、「聖地★巡礼」で3,019であり、「藍染めの表象」では目標値を上回ったものの、「ヒマラヤ～自然と人びとのくらし」と「聖地★巡礼」では達しなかった。

・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、３回の企画展のすべてで90％以上を示し、目標値を上回った。とくに「聖地★巡礼」では、92％ものきわめて高い値を示した。

・この展示をほかの人に見るようすすめたいと「思う」との回答は、３回の企画展のすべてで目標値を上回った。とくに「聖地★巡礼」では、90％ものきわめて高い値となった。

・昨年度より、県内主要マスコミ６社のうち、展示を報道した社数として「社会的評価」とした。３回の企画展では目標値の５社に達したものはなかった。「ヒマラヤ～自然と人びとのくらし」では報道したのは２社とたいへん少なく、「藍染めの表象」では４社、「聖地★巡礼」では３社と、かなりばらつきがあった。

・３回の企画展とも、観覧者の90％近くは県内在住者であり、県外在住者の利用割合が少ない。企画展の観覧を目的に来館する県外在住者は少ないことを示している。

・「ヒマラヤ～自然と人びとのくらし」では雪男のキャラクターなどを使うことによって小学生以下の観客をひきつけるように工夫したが、実際には最も多い観覧者の層は中高年の男性だった。ターゲットにしていた小学生を伴う親子は結果的に少なかった。

・「藍染めの表象」では展示室内の体験コーナー（はがき作り）に関する好意的な感想が目立った。

・「聖地★巡礼」では観覧者数や回収したアンケートの数は少なかったが、長文の感想やご意見が記入されているものが多かった。また、カトリックなどの教会から情報を得てやってきたとする回答も目立った。

・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営に努めるしかないが、専門性の高いテーマの場合、広く関心を引くことができるよう広報や展示内容の工夫が今後も必要である。

（1-3）

・特別陳列等の開催回数は13回（そのうち１回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展）で、目標を大きく上回った。

・平成20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の展示替えに自然史のテーマを組み込んでいる。実績としては４回行った（動物２回、地学１回、植物１回）。

・一時的に撤去していたトピックコーナーを昨年度より再開し（年報19号参照）、１件の展示更新を行った。

・特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」の観覧者数は目標値を上回った。

・「社会的評価」は「海を渡った人形と戦争の時代」で目標値に達した。テーマ性や社会性がマスコミ関係者の注意を引いた可能性がある。

（1-4）

・移動展は目標を上回った。今回は阿南市科学センター、美波町に加えて、特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」関連の巡回展「海を渡った人形と平和への願い」を３会場で行った。

・パッケージ資料の貸出実績は１回行った（海陽町立博物館）。

（1-5）

・毎年恒例となっている、年間計画外の常設展活用イベント（Ｖキング）もボランティアとの協働により行われた。

・企画展の展示解説を５回、特別陳列の展示解説を12回、部門展示の展示解説を８回行った。企画展「藍染めの表象」では記念講演会を１回、「聖地★巡礼」では映画会を10回実施した。また、特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」の関連行事として、紙芝居を10回、関連シンポジウムを１回、記念演奏会・講演会を１回、ワークショップを２回行った。

・新たなセルフガイドを設置した。

（1-6）

特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」では、学校教育と展示の連携が試みられ、一定の成果が得られた。部門展示「西日本のタンポポ」およびトピックコーナーでの展示「トグロコウイカ」では、県民と協働して得られた

成果を展示した。
（1－7）
・21年度の年度末に行った中規模な展示更新につづき、資料の入れ替えや地名の変更への対応など、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を行った。今後も継続して行う必要がある。

⑵ 教育普及

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	80回	88回	93回
		普及行事参加者数	3,000人/年	6,041人	8,535人	8,818人
		参加者の満足度	満足した者の割合80%	92.6%（11行事）	89.6%（11行事）	95%（14行事）
		アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	4回
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員（小･中･高）	県内全教員（小･中･高）	県内全教員（小･中･高）	県内全教員（小･中･高）
		出前授業件数	出前授業15件／年	27件	39件	27件
		資料貸出件数	資料貸出10件／年	9件	12件	9件
		館での授業件数		9件	10件	9件
		教員研修件数		6件	3件	3件
		職場体験件数		3件	3件	2件
		遠足件数		97(園)校	132(園)校	109(園)校
		教員・生徒の満足度	80%	92%	98%	100%
2-3	普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	0冊	1冊
		普及的記事の執筆数	40件/年	71件	68件	76件
		博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	392人	294人	248人
		個人会員		113人	94人	78人
		家族会員		279人(76組)	200人(57組)	170人(48組)
		会員の継続率	前年度会員の70%	70%	64%	92%
		個人会員		65%	62%	92%
		家族会員		74%	66%	92%
		友の会行事実施回数	6回/年	11回（393人）	8回（190人）	8回（166人）
2-4	友の会活動の充実と活性化	展示利用率	50%	48%	65%	62%
		個人会員		37%	60%	59%
		家族会員		58%	70%	67%
		延べ利用者数	会員数	345人	385人	341人
		個人会員		142人	181人	149人
		家族会員		202人	204人	192人
		会報の発行回数	3回/年	3回	3回	3回

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
2-5	県民参画型活動の推進	公募ボランティア登録者数		12人	16人	10人
		公募ボランティア活動回数			8回	10回
		企画運営型行事等回数		3回	3回	1回
		普及行事支援回数			12回	2回

●自己点検・評価

（2－1）

・普及行事の実施回数は、前年の88回から93回に増えた。参加数は283人増加した。

・普及行事参加者数8,818人のうち、参加数が多いのは、こどもの日フェスティバル（1,045人）、サマーフェスティバル（4,529人）、大秋祭り（904人）、博物館Ｖキング（1,216人）である。博物館Ｖキングはボランティアスタッフと一緒につくる内容で好評を博している。普及行事への参加者の満足度は、14行事で行ったアンケート結果からは95.0％と好評であった。

（2－2）

・出前授業数は前年より12件減少し、27件であった。その内訳は、徳島市内の小学校が16件で過半数を占めている。その他の学校については、20年度から遠方の小学校が増えてきており、県内への広がりが感じられる。また、学習指導要領等により博物館の積極的な連携・協力が明記されたことにより、校長会や教科部会等様々な場において利用の必要性や連携の必要性が紹介されていることで出前授業の件数はここ近年目標を大きく上回っている。出前授業の内容で多かったのは、小学校社会科の「火おこし」や「昔のくらし」に関するもので、この２つで全体の過半数を占めている。

・出前授業については、教員への事後アンケートを実施している。（アンケート項目：①事前の打ち合わせ②用具や教材の準備③学芸員の解説や演示④児童生徒の興味関心の高まり⑤ねらいの達成度⑥総合評価）それによると、どの項目も好評ではあるが、特に「総合評価」において高い評価を得ている。

・資料貸し出し等、事業件数が増えていないのは、博物館が学校教育支援事業を実施していることを知らない教職員が多いことが原因の一つと推察される。そこで、本年も学校向けのパンフレットを学校に提示したり、ホームページ等での紹介を行っている。

・「館での授業」、「職場体験」の実績は、前年度とあまり変わりない。「遠足」については昨年度より減少したが５～６月・10月を中心に100件を超した。

（2－3）

普及的記事の執筆数については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、22年度は44件となっている。

（2－4）

・友の会では、この３年間で会員数が392人から294人へ、そして248人へと減少してきている。これは、家族会員が子どもの成長と共に、個人会員へ変更していることや新規の会員数が減少していること等が理由と考えられる。

・会員が自主的に行事を立案・企画し、継続的に実施できているものもある。

（2－5）

公募ボランティアは継続ボランティア10名が中心となって博物館職員と共に１年間の活動を行った。またイベント当日のボランティアとして、鳴門教育大学と徳島文理大学から４名の学生の協力を得た。博物館Ｖキングを中心に３つのイベントで活躍した。

⑶ 情報の発信と公開

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
3-1	マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30件/年	27	31	28
		マスコミ取材報道件数		101	95	64
		マスコミ出演等件数	15件/年	10	6	15
3-2	広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスター配布場所の新規開拓		チラシやポスターの有効的な配布
		広報関係出版物発行状況 年間催し物案内発行回数(発送件数)				1回（772件）
		月間催し物案内発行回数(発送件数)				12回（各95件）
		博物館ニュース発行回数(発送件数)				4回（各1442件）
		Eメールサービス登録件数	250人/年	286	293	297
3-3	インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	49,300件	44,000件	40,000件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	371ページ/年	201ページ/年	164ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	2回/月	2.9回/月	4回/月

●自己点検・評価

（3-1）

・資料提供件数は28件と昨年度よりやや減少し、目標値の30件／年にわずかに達しなかった。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、今後も積極的に続けていく必要がある。

・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみであるが、今年度は64件となっており、昨年度から約30件の減少となった。

・マスコミ出演等件数は昨年度より9件増加し、目標値の15件／年に達した。

（3-2）

・広報手段の新規開拓状況としては、こどもの日フェスティバルや大秋祭り等でチラシの配布範囲を拡大するなど、特に来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。

・広報関係出版物の発行状況については、年間催し物案内、月間催し物案内および博物館ニュースの発行回数と発送件数を指標の定義にした。年間催し物案内は、学校を中心に配布し、とくに小学校では全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、とくに小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学・高校では理科、社会科の教員に対して配布した。

・電子メールサービス登録件数は昨年度よりわずかに増え、目標値を上回った。

（3-3）

・インターネットによる情報発信においては、ホームページのアクセス数が昨年より4,000件減少している。

・新規コンテンツ数は164ページ／年と昨年度より35件ほど少なくなっているものの、目標値を大幅に上回った。

・内容の更新頻度は4回／月（48回／年）と目標値を上回り、さらに昨年度よりも増加した。これは、文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」の事業記録の更新回数に拠るところが大きい。

⑷ シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
4-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	364	384	479
4-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数		22	22	25
		講演会等の受講者数				
4-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		31	30	31
		機関・団体等への協力状況				
4-4	大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		5	3	2
		博物館実習生受入人数	20人/年	12（６大学）	14（10大学）	17（10大学）
		学生・院生指導人数				0
4-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		13	16	15
		学会等役員受託数		2	2	3
		学会等事務局受託数		4	3	3
4-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		4	6	5
		博物館関連団体加入数		5	6	6
		連携事業等の実施数		7 移動展４回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査	9 移動展６回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査	7 移動展５回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査

●自己点検・評価

（４－１）

・レファレンス件数は昨年度に比べて約100件増加し、目標値300件を大きく上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、今年度は地学がもっとも多い100件で、昨年度より16件増加した。次いで、歴史87件、動物（脊椎）71件、動物（昆虫）、70件であった。以上の４分野で全体の72％を占めていた（p.31参照）。

（４－２）

・今年度の講師派遣は、25件で、昨年度に比べて３件増加した。ただし、昨年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が10件、全体の40％を占めた。

・派遣先受講者数：25件中11件で受講者の概数が記録されており、641名であった。

（４－３）

・各種の委員会などの委員等の受諾数は昨年度より１件減少した。これらのうち18件（58％）は動物・植物分野における自然環境の評価に係わるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

（４－４）

・今年度の大学における非常勤講師の受諾数は昨年度同様２件であった。

・今年度の博物館実習生の受入人数は17人で、昨年度に比べて３人増加したが、目標値の20人を３人下回った。

・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、受け入れはなかった。

（４－５）

・今年度の学会や研究会の当館における開催数は昨年度より１件減少した。これらには毎月例会が開催されるみど

りクラブが含まれている。目標値は定めていない。
・学会等役員受託数は昨年度より１件増加した。目標値は定めていない。
・学会等の事務局受託数は昨年同様であった。目標値は定めていない。
（４-６）
・博物館関連団体の委員等受託数は昨年度より１件減少した。目標値は定めていない。
・博物館関連団体加入数は６件で、これらのうち１件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
・他館等との連携事業数は、昨年度より２件減少した。目標値は定めていない。移動展は５回で、３回は「海を渡った人形」の巡回。そのほか、徳島県博物館協議会において講演会および研修会を実施した。先進地博物館施設調査も行った。

⑸ 調査研究

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
5-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況		２件 （外部との共同１）	３件 （外部との共同２）	３件 （外部との共同３）
		個別調査研究の実施状況				
5-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	13件	17件	13件
		共同研究プロジェクト数	３件/年		２件/年	４件/年
5-3	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	２件/年		３件/年	３件/年
5-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	科研費申請・採択数	申請６・採択１件/年	申請３・採択１	申請３・採択０ （継続１）	申請３・採択１ （継続１件）
		民間研究助成金獲得状況		０件	０件	０件
5-5	調査研究成果の公表	学術論文数	22本/年 （査読付き４）	30本 （査読付き５）	23本 （査読付き５）	27本 （査読付き９）
		学会・研究会での発表件数	22回/年	16回	15回	22回
		マスコミへの資料提供件数	２件/年		１件/年	２件/年

●自己点検・評価

（５-１）
・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員によるセミナーを３回開催した。今後も継続していきたい。
（５-２）
・今年度は他機関等の研究者との共同研究数について、目標値を達成した。
・共同研究プロジェクトとは、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。タンポポ分布調査および文部科学省科学研究補助金「山の寺」・「最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立」と民間研究助成の「有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究」の４件がこれにあたり、目標を達成した。
（５-３）
・今年度は継続的している３件があり、目標値を上回った。
（５-４）
・今年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は３件応募があったものの、採択されたのは１件だけである。１件が継続中である。民間の研究助成金の申請はなかった。

・徳島県立博物館のような小規模な組織の場合、科研費等の競争的資金の新規獲得は容易ではないと思われるが、これらの競争的資金や研究助成金等を獲得することによって、費用のかかる研究の開始・継続が可能となる。しかしこれまでのところ、申請のあった種目のほとんどが「若手研究(B)」(39歳以下の研究者が対象）であり、一般的な「基盤研究」の申請が無い状態が続いている。「基盤研究」の申請を増やす対策が必要である。
・科研費以外の補助金についても、情報を収集し積極的に申請し、獲得を目指す必要がある。
・研究課題についても、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究的なものや、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。
（５-５）
・学術論文数は27本であり、昨年度の実績を上回り、目標値を達成した。
・学会・研究会での発表は22件で、目標値を達成した。
・マスコミへの資料提供は「タンポポ調査の成果」と「徳島でのトグロコウイカの発見」の２件であり、目標値を達成した。

⑹ 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
収集						
6-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H25年度末で512,000点	481,981	489,141	490,408
		新規資料増加点数	6,000点/年	3,587	7,160	1,267
		採集資料件数	20件/年	28	19	21
		購入資料件数	3件/年	0	0	0
		寄贈資料件数	80件/年	76	90	110
6-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		62	62	64
		新規寄託件数	3件/年	1	1	2
6-3	文献資料の充実	図書冊数(雑誌類除く)			12,713	12,922
		新規受入図書冊数			307	208
		寄贈			195	143
		購入		110	112	65
		購入雑誌タイトル数		59	48	47
保存						
6-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	49.6	49.7	45.6
6-5	資料の安全な保存	収蔵庫点件回数	6回/年			
6-6	常設展示室の資料保存環境の改善	資料保存環境の状況				
6-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
6-8	展覧における利用促進	展示利用点数				6,175
		常設展				5,127
		常設展以外の展示				1,048
6-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	85	51	53

●自己点検・評価

（6‐1）

・収蔵資料点数は、前年度より1,267点増加し、目標値の年6,000点を大きく下回った。これはここ12年間で見ても最も少ない増加点数である。昨年度、1,000点以上増加した分野が４分野あったのと対照的に、今年度はどの分野においても低調であった。今年度は文化の森開園20周年記念事業などが周年をとおして開催されるなど、収集保存に係わる余力がなかった可能性が考えられる。

・採集資料件数は前年度より２件多く、目標値を１件上回った。

・購入資料件数は、平成17年度以降０件である。資料購入費としては100万円が計上されているが、執行の見込みは立っていない。

・寄贈資料件数は、前年度より20件多く、目標値を30件上回った。

（6‐2）

・新規寄託は２件で目標値より１件少なかった。

（6‐3）

・図書・雑誌については、予算などの状況にもよるので、特に目標値は定めていないが、博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるので、評価指標として取り上げている。

・新規受入と書冊数は、寄贈図書および購入図書の減少に伴い減少した。

・購入雑誌タイトルは予算削減に伴い１タイトル削減した。

（6‐4）

・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた平成16年度には40.0％であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50％にわずかに届かないレベルで推移していたが、本年度やや減少した。

（6‐5）

・収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管状況を点検するためのチェックリストを作成を検討中である。これまで、収蔵庫内で作業を行ったときには適宜目視によるチェックは行っているほか、各所に害虫のトラップを仕掛け、常時監視している。

（6‐6）

・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。また、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。

（6‐7）

・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケース／容器などの工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。

（6‐8）

・第２期より収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、新たに展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を盛り込んだ。今年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において5,127点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において1,048点の資料を利用した。ただし、常設展における利用のうち4,648点は昆虫標本によって占められている。

（6‐9）

・収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては［４］普及教育を参照のこと）。今年度は前年度より２件多く、目標値より７件少なかった。

(7) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び22年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	20年度実績	21年度実績	22年度実績
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況				常設展示の改善
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合		「郷土の発見」6.0% 「香りの世界」7.5%	「シーラカンス展」18% 「守住貫魚展」7.3%	「ヒマラヤ」8％ 「藍染めの表象」13% 「聖地巡礼」８％
7-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		3回(8/9,8/10,2/11)	12回(8/1,8/2,8/8,8/9,8/22,9/27,11/3,11/8,11/15,11/22,12/20,2/11)	準備会合32回 ３回（8/7,11/23,2/11）
		ボランティア活動参加者数		12人＋９人（イベント開催日の参加）	22人	８人（8/7），６人（11/23），８人＋４人（2/11）
		運営支援組織の検討状況		文化庁芸術拠点形成事業「『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクト」の実施	文化庁美術館･博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラム」の実施	文化庁美術館・歴史博物館基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」の実施
7-4	設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		２月補正後 43,322千円	２月補正後 35,264千円	２月補正後 44,124千円
		外部資金獲得数				
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練６月、12月	自衛消防隊総合訓練６月、12月	自衛消防隊総合訓練６月、12月；文化財防火デー１月28日
		危機管理体制の整備状況				
7-6	職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況				民博でのマネジメント系の研修
7-7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況			第２期の中期活動目標を策定する	今後のあり方を検討するワーキンググループを設置
		自己点検評価の状況		19年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	20年度事業と第１期５年間の事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	21年度事業自己点検・評価を年報，HPに掲載
		外部評価の状況		博物館協議会 ９月26日	博物館協議会 ９月18日	博物館協議会 ９月30日

●自己点検・評価

（７-１）

・展示室のラベルを見やすくするなどの改善を行った。

（７‐２）
・県外利用者の割合は、３つの企画展で調査した。どの企画展も10％前後が県外利用者であった。
（７‐３）
・公募ボランティアや友の会会員などに、文化の森開園20周年事業のイベント、サマーフェスティバルと大秋祭りに参画してもらった。なお、タンポポ調査には、多くの人にボランティアとして協力いただいた。
（７‐４）
・厳しい財政状況の中、館運営予算は21年度より約4,000千円増加した。聖地巡礼展開催事業費が展覧事業費と別に確保されたことによる。本年度は、前年度比20％削減という非常に厳しいシーリングであった。
・資料購入費は100万円が計上されたが、執行保留のため資料購入はできず、２月補正予算で全額減額された。
（７‐５）
・年２回の防災訓練は、３館合同で実施された。
・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。
（７‐６）
・国立民族学博物館で開催された博学連携ワークショップに職員を派遣した。今後も意識改革と資質の向上を図りたい。
（７‐７）
・21年９月に策定した第２期の「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、22年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、９月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
・中期活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切である。
・徳島県立博物館の将来像を見据え、第３期中期活動計画目標の策定に向けて、ワーキンググループを設置し、さまざまな角度からの検討を始めた。

Ⅸ 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の土曜、日曜、祝日及び長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために、13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものもある。

●平成22年度　博物館常設展観覧者数

（単位：人）

月	開館日数	有料観覧者												無料観覧者														観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育										個人				無料観覧者計	
								大人						幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校・大学生	小・中学生		園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	小学生	中学生	高校生	その他		
4月	26	558	23	15	16	0	0	94	21	115	0	0	727	1	9	1	56	3	263	1	35	6	363	511	66	31	493	1,464	2,191
5月	26	468	9	3	84	0	0	80	18	98	0	0	662	1	53	14	1,180	1	46	0	0	16	1,279	920	40	56	1,496	3,791	4,453
6月	26	500	10	2	28	0	0	118	25	143	1	0	684	2	27	2	188	2	16	1	30	7	261	313	21	30	275	900	1,584
7月	27	706	22	4	69	0	1	160	23	183	0	0	985	2	41	0	0	0	0	1	119	3	160	741	56	49	634	1,640	2,625
8月	26	1,455	66	0	106	2	0	205	52	257	0	0	1,886	1	98	1	102	0	0	1	15	3	215	1,993	135	68	2,423	4,834	6,720
9月	26	513	33	8	37	38	2	119	28	147	1	0	779	1	15	0	0	0	0	0	0	1	15	455	24	13	718	1,225	2,004
10月	27	447	13	2	134	0	0	118	27	145	0	0	741	4	280	15	935	1	139	1	66	21	1,420	389	65	37	521	2,432	3,173
11月	25	305	23	5	36	0	0	63	4	67	0	0	436	6	203	9	672	2	40	1	15	18	930	829	30	21	2,023	3,833	4,269
12月	23	337	12	2	15	0	0	82	12	94	0	0	460	0	0	2	84	0	0	0	0	2	84	256	14	29	390	773	1,233
1月	23	445	33	0	31	0	0	117	23	140	0	0	649	1	162	1	121	0	0	0	0	2	283	334	25	12	458	1,112	1,761
2月	24	405	28	2	43	0	0	71	14	85	0	0	563	2	118	7	244	1	8	0	0	10	370	670	38	15	1,127	2,220	2,783
3月	27	492	35	10	35	0	1	81	18	99	0	0	672	10	414	2	14	0	0	0	0	12	428	443	51	15	649	1,586	2,258
計	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	7,854	565	376	11,207	25,810	35,054

●常設展観覧者数累計（平成２年度～平成22年度）

（単位：人）

年度	開館日数	有料観覧者												無料観覧者														観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育												その他	無料観覧者計	
								大人						幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計						
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校・大学生	小・中学生		園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	無料入館	第2・4土			
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489			1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568			2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401		2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398		2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195		1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085		7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390		19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829		14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337		14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881		13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161		13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275		12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373		9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732		10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532		11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432		9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252		11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448		13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352		12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042		13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795		11,207	25,810	35,054
計	6,212	337,737	24,943	99,411	30,211	2,172	4,975	52,665	5,391	58,056	169	213	557,887	510	23,893	1,593	134,639	309	38,422	147	16,934	2,559	213,888	114,910		207,845	536,643	1,094,530

●平成22年度　博物館企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者 個人 一般	個人 高校・大学生	個人 小・中学生	団体(割引20%) 一般	団体 高校・大学生	団体 小・中学生	減免(割引50%) 一般 高齢者	一般 障害者	一般 計	高校・大学生	小・中学生	有料観覧者計	無料観覧者 学校教育 幼稚・保育園 園	幼稚園 人数	小学校 校	小学校 人数	中学校 校	中学校 人数	高校 校	高校 人数	計 校	計 人数	個人 小学生	個人 中学生	個人 高校生	個人 その他	無料観覧者計	観覧者総数
第１回企画展「ヒマラヤ」	H22.4.29 H22.6.6	34	1,927	40	9	93	0	0	916	50	966	0	0	3,035	2	61	17	1,424	1	46	2	99	21	1,630	580	62	44	558	2,874	5,909
第２回企画展「藍染めの表象」	H22.10.5 H22.11.11	30	709	52	1	23	0	0	429	35	464	0	0	1,249	5	308	18	1,090	1	139	2	81	26	1,618	200	38	22	410	2,288	3,537
第３回企画展「聖地★巡礼」	H23.2.11 H23.3.21	34	960	50	6	22	0	0	426	49	475	0	0	1,513	12	532	7	100	1	8	0	0	20	640	257	29	21	559	1,506	3,019
合　計		98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	19	901	42	2,614	3	193	4	180	67	3,888	1,037	129	87	1,527	6,668	12,465

●企画展観覧者数累計（平成３～22年度）

（単位：人）

	開催日数	有料観覧者 個人 一般	個人 高校・大学生	個人 小・中学生	団体（割引20%） 一般	団体 高校・大学生	団体 小・中学生	減免（割引50%） 一般 高齢者	一般 障害者	一般 計	高校・大学生	小・中学生	有料観覧者計	無料観覧者計	観覧者総数
平成３年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成４年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成５年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成６年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成７年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成８年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成９年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	7,756	13,235
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	18,664	24,877
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	18,500	32,810
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	10,344	18,444
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	13,717	23,285
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	22,327	38,263
平成20年度	97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	13,225	21,207
平成21年度	77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	11,239	19,157
平成22年度	98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	6,668	12,465
総合計	2,054	154,534	9,320	32,904	3,170	344	6,925	25,772	1,865	27,637	65	56	234,955	190,249	425,204

●特別陳列観覧者数累計（平成４～22年度）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第１回館蔵品展	平５.２.16～３.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平６.２.１～２.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平７.１.13～２.５	21	3,165
第２回収蔵品展	平８.２.16～３.17	27	5,358
第３回館蔵品展「自然コレクション」	平11.７.17～８.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.５～12.24	18	1,850
勝瑞時代―細川・三好氏と阿波―	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録―在日コリアンの労働史―	平14.６.25～７.７	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.１.21～３.２	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展　自由の天地を求めて―知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道―	平15.７.19～７.27	8	1,317
日本刀の美―赤羽刀とその他の館蔵品―	平16.１.27～３.７	35	8,698
収蔵品展	平16.６.18～７.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.１.８～１.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.２.18～３.19	26	3,848
旅と祈りの道―阿波の巡礼―	平19.１.19～３.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20.１.17～３.２	40	5,168
空から見た徳島	平21.１.27～３.15	42	7,517
蝶に魅せられて―愛好家たちのコレクション―	平21.７.18～８.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21.９.19～10.４	14	1,886
マンダラ―チベット・ネパールの仏たち―	平21.12.12～平22.２.７	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22.７.17～９.５	44	10,364
合　計		628	136,455

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展－江戸から昭和まで－(藍住町歴史館藍の館)	平16.12.２～12.27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平17.８.３～８.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17.８.19～９.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町立歴史民俗資料館)	平18.２.４～３.５	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物(海陽町立博物館)	平18.７.22～８.27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平19.４.26～５.15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平19.６.５～７.22	42	197
中世阿波の板碑(藍住町歴史館藍の館)	平19.８.２～８.27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平20.５.３～５.５	3	4,339
和泉層群の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平20.７.19～８.31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平20.７.19～９.７	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平20.９.25～11.９	41	956
達磨絵百態　横山天然の世界(藍住町歴史館藍の館)	平21.４.４～４.29	22	250
知らせる道具・広告(東かがわ市歴史民俗資料館)	平21.７.18～８.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平21.７.25～８.30	32	401
国会議事堂の石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平21.９.25～11.５	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平21.11.21～平22.１.25	52	220
“ジオプラザ阿南”那賀川流域と県南部地域の化石展－化石が教えてくれるもの－（阿南市科学センター）	平22.７.17～８.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」（日和佐図書・資料館）	平22.７.21～９.５	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①（貞光ゆうゆう館）	平22.９.18～９.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②（海陽町立博物館）	平22.９.23～10.３	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③（松茂町歴史民俗資料館）	平22.10.９～10.17	8	1,242
合　計		652	28,690

●博物館利用者総数年度別一覧

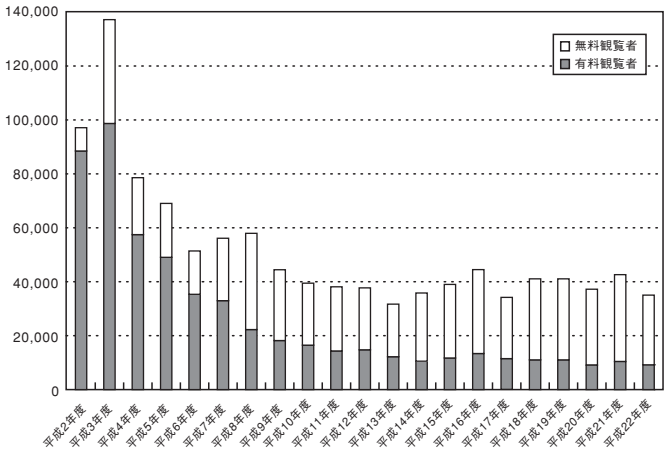
	常設展 有料観覧者	常設展 無料観覧者	常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展	普及行事参加者	その他	利用者総数
2　年　度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3　年　度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4　年　度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5　年　度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6　年　度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7　年　度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8　年　度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9　年　度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10　年　度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11　年　度	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12　年　度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13　年　度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14　年　度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15　年　度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,628	81,818
16　年　度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17　年　度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18　年　度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19　年　度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20　年　度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21　年　度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22　年　度	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
累　　計	557,887	536,643	1,094,530	425,204	136,455	28,746	83,300	177,430	1,945,665

・特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。

●人権啓発展等観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃　第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃　第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃　第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃　第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃　第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃　第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1～12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
合　計		120	16,738

●常設展観覧者数（平成2～22年度）

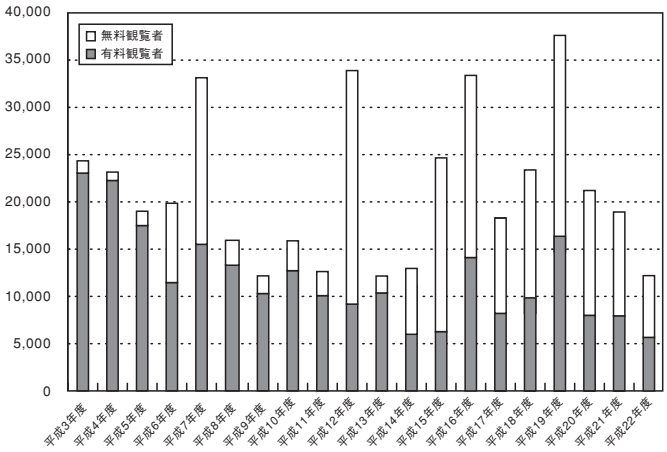


●その他(啓発展を除く共催事業)観覧者数(平成15年度～)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―」(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平21.8.8～8.9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20～3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1～4.18	16	25,113
軌跡－継続と蓄積－	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居龍蔵記念博物館ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
合　計		203	160,692

※平成12～14年度のその他は、人権啓発展のみ。

●企画展観覧者数（平成3～22年度）



X　施　設　の　概　要

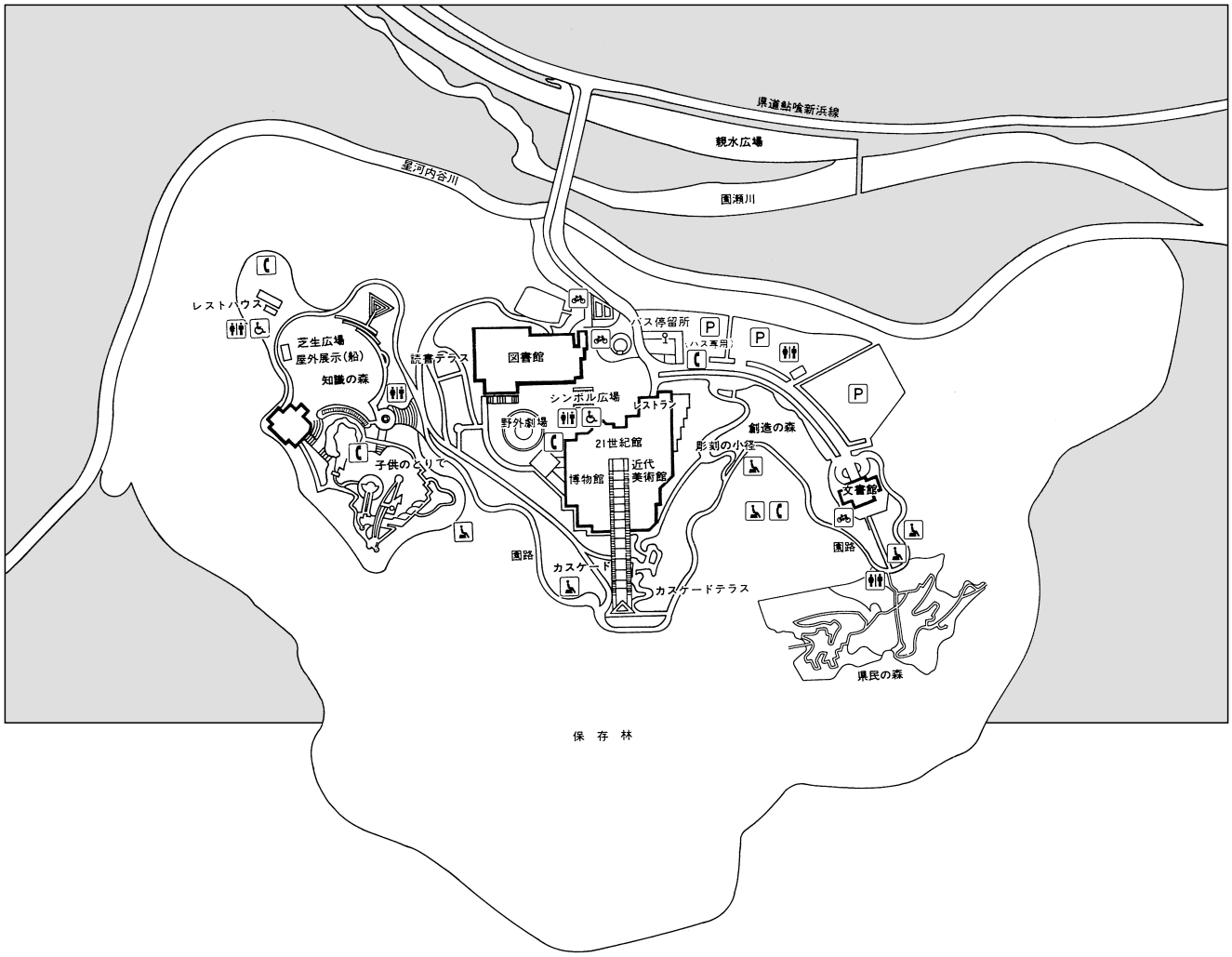
1．沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館
	（旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年１月	文化の森構想発表
４月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年２月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年３月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年３月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年１月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
４月	美術品等取得基金設置
５月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年８月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手
	徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年３月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年３月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
８月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年７月	博物館展示工事着手
平成元年４月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成２年３月	旧博物館閉鎖
４月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成３年２月	博物館資料収集委員会設置
平成４年３月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成８年４月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年７月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2．施設の概要

●所 在 地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（３館棟）
●延床面積	22,382㎡（３館合計－積層部分を含めると23,814㎡）
	8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造　地上４階・塔屋１階・地下１階

●設　　計　㈱佐藤武夫設計事務所・㈱日建設計・㈱環境建築研究所　共同企業体
●施　　行
　建　築 ---------- 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組　共同企業体
　電　気 ---------- 四国電気工業・近畿電気工事　共同企業体
　空　調 ---------- 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ　共同企業体
　管 ---------- 朝日工業社・大成設備　共同企業体
　エレベータ ---------- ㈱東芝
　家　具 ---------- 富士ファニチア㈱
　移動展示ケース ---------- ㈱三井
　展　示 ---------- ㈱丹青社



3．博物館各室面積

1　　階	
室　　名	面積㎡
企画展示室	325
同　上　準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉　　庫	135
冷　凍　室	19
石　工　室	41
その他共用部分※	771
小　　計	1,973

2　　階	
室　　名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休　憩　室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊　　下	65
その他共用部分※	442
小　　計	2,957

4　　階	
室　　名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫　1	37
特別収蔵庫　2	37
馴　化　室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小　　計	1,042

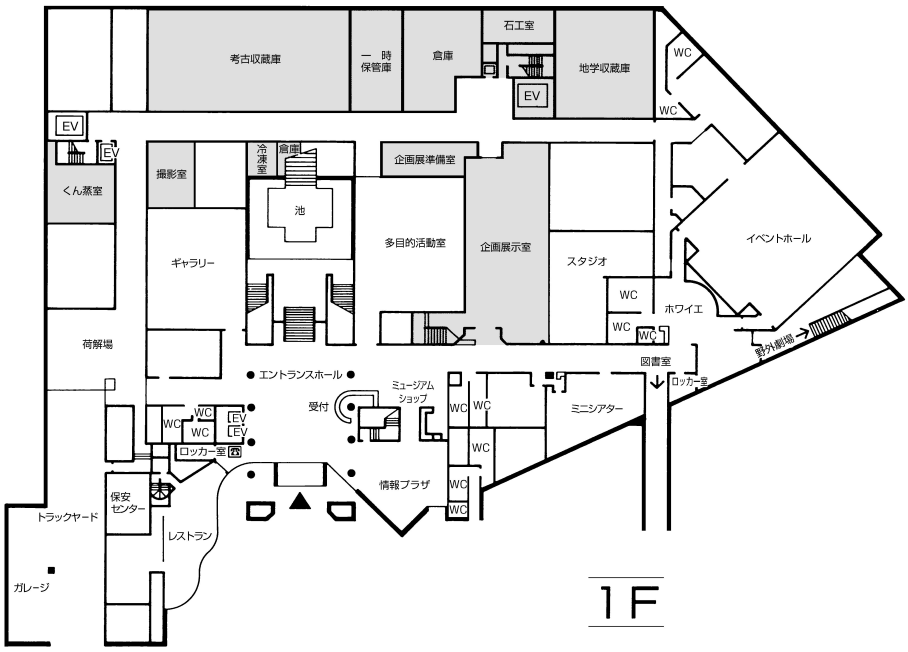
3　　階	
室　　名	面積㎡
暗　　室	23
倉　　庫	21
倉　　庫	15
エレベーターホール	37
湯　沸　室	12
講　座　室	123
実　習　室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館　長　室	53
応　接　室	21
事　務　室	133
研究室（自然史）	106
生物標本作成室	28
飼　育　室	21
研究室（人文）	80
地学考古民俗作業室	64
分　析　室　1	64
分　析　室　2	48
X線撮影室	48
保存処理室　2	100
薬　品　庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書　　庫	97
資　料　室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小　　計	2,052

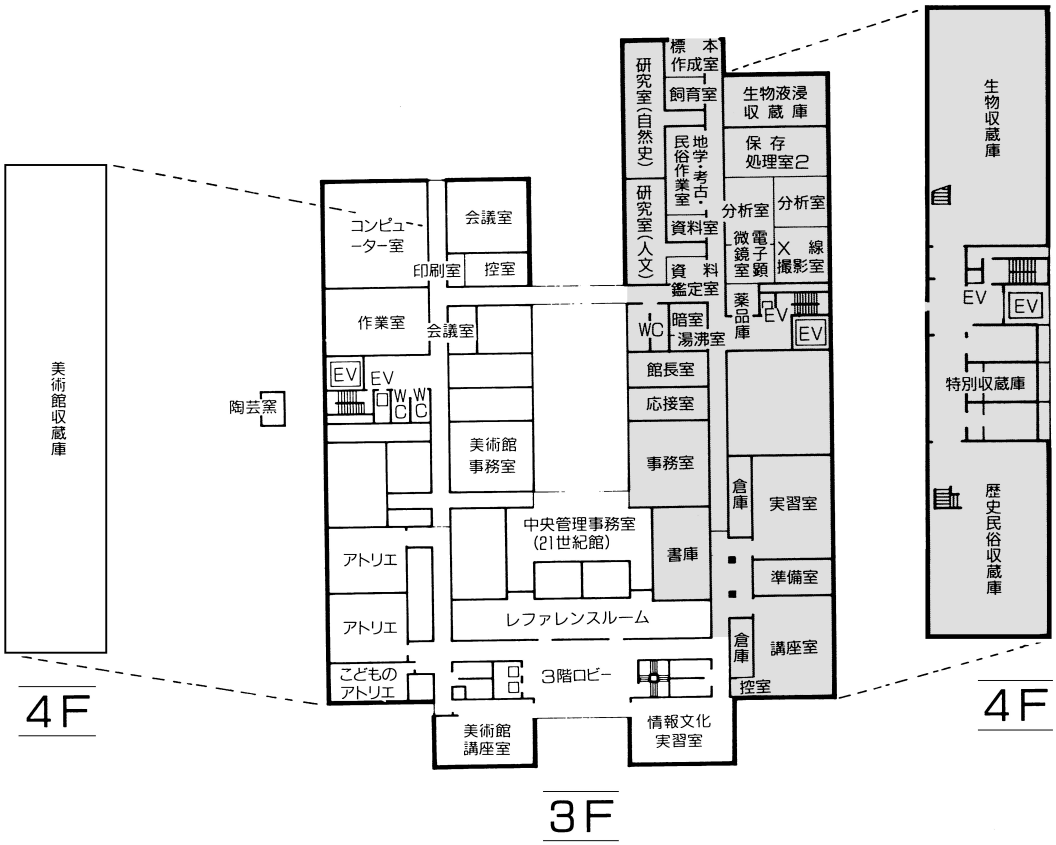
屋　1　階	
室　　名	面積㎡
その他共用部分※	39
小　　計	39

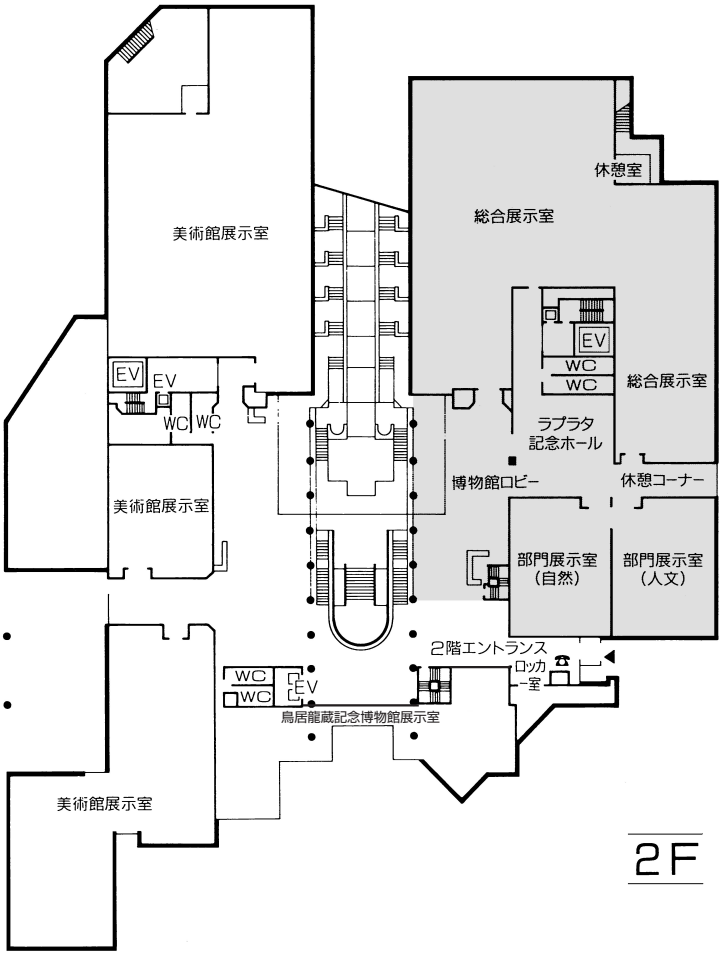
合　　計
8,063㎡

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占用スペース




美術館収蔵庫
陶芸窯
コンピューター室
会議室
印刷室
控室
作業室
会議室
EV
EV
WC
WC
美術館事務室
アトリエ
アトリエ
こどものアトリエ
中央管理事務室（21世紀館）
レファレンスルーム
3階ロビー
美術館講座室
情報文化実習室
研究室（自然史）
標本作成室
飼育室
民俗作業室
地学・考古・資料室
研究室（人文）
資料鑑定室
生物液浸収蔵庫
保存処理室2
分析室
分析室
微鏡室
電子顕
X線撮影室
薬品庫
EV
EV
WC
暗室
湯沸室
館長室
応接室
事務室
書庫
倉庫
実習室
準備室
倉庫
講座室
控室
生物収蔵庫
EV
EV
特別収蔵庫
歴史民俗収蔵庫
4F
4F
3F


美術館展示室
EV
EV
WC
WC
美術館展示室
休憩室
総合展示室
EV
WC
WC
総合展示室
ラプラタ記念ホール
博物館ロビー
休憩コーナー
部門展示室（自然）
部門展示室（人文）
2階エントランス
ロッカー室
WC
WC
EV
鳥居龍蔵記念博物館展示室
美術館展示室
2F

Ⅺ　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成２年３月26日　徳島県条例第11号
最近改正　平成22年３月30日　徳島県条例第15号

（設置）
第１条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。
（名称及び業務）
第２条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	⑴　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ⑵　博物館資料に関する調査研究を行うこと。 ⑶　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 ⑷　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略）

（利用の許可）
第３条（省略）
（観覧料等）
第４条　博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第１に掲げる額の観覧料を徴収する。
２　（省略）
３　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。
４　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。
（損害の賠償）
第５条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。
（職員）
第６条　図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。
（協議会）
第７条　教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それ

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

（４館の各協議会の所掌事務は省略）

ぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。
２　協議会は、委員10人以内で組織する。
３　（省略）
４　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
５　委員は、再任されることができる。
６　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
（教育委員会規則への委任）
第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20人以上をいう。以下同じ。）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	１人１回	50円	40円	知事がその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	１人１回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	１人１回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第９号
改正　平成８年３月29日　徳島県教育委員会規則第７号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
⑴　月曜日　ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日
⑵　12月28日から翌年の１月４日までの日
２　徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第３条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
２　館長は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

（遵守事項）
第４条　博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第５条　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
⑴　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
⑵　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第６条　学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。
（補則）
第７条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第６項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則［抜粋］

制　　定　昭和45年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号
最近改正　平成22年11月１日　徳島県教育委員会規則第７号

第１章　総　則（省略）
第２章　事務局（省略）
第３章　教育機関［博物館に該当する条項のみの抜粋］
第３節　徳島県立博物館
（名称及び位置）
第24条　文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	位　　置
徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山

（内部組織等）
第25条　博物館に普及課、自然課及び人文課を置く。
2　前項の課の分担事務は、館長が定める。
（業務）
第26条　博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。
(1)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
(2)　博物館資料に関する調査研究を行うこと。
(3)　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
(4)　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。
（所長等の職務）
第32条　総合教育センター及び埋文総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。
（次長等）
第33条　上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教育機関
副館長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

（総合教育センターその他の次長は省略）

2　教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。
（主幹等）
第34条　前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職　　務
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課長補佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

（司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略）

第４章　附属機関

（附属機関）

第37条　附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

（事務局の各審議会、他館の協議会等は省略）

徳島県立博物館年報　第20号（平成22年度）

平成23（2011）年７月31日　発行
編集・発行：徳島県立博物館
〒770-8070　徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）
ＴＥＬ（088）668-3636　ＦＡＸ（088）668-7197
Ｅメール　museum@mt.tokushima-ec.ed.jp
ホームページ　http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/
印　　刷：㈱教育出版センター